

薬師の森遺跡 5

～第2次調査～

大野城市文化財調査報告書 第189集

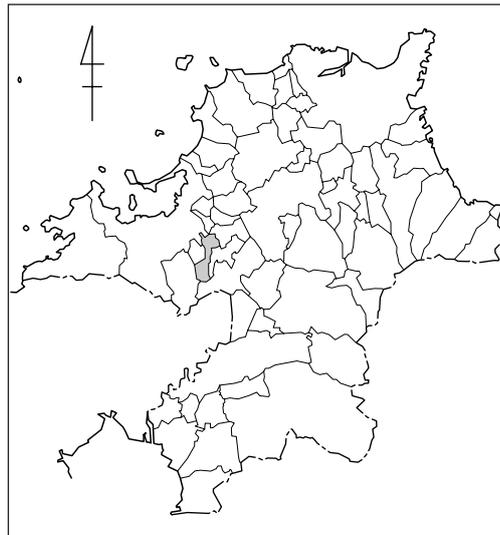
2021

大野城市教育委員会

やくし もり 薬師の森遺跡 5

～第2次調査～

大野城市文化財調査報告書 第189集



2021

大野城市教育委員会

序

大野城市は、福岡平野の南部に位置し、西暦665年に築かれた日本最古の朝鮮式山城「大野城」にその名を由来する、古い歴史と豊かな自然に恵まれた緑の街です。市内には、大野城跡・水城跡・牛頸須恵器窯跡といった国指定史跡をはじめとして、多くの文化財があります。

薬師の森遺跡は市の東北部に位置し、国の特別史跡である大野城跡の西麓に広がっています。この地域では主に乙金第2土地区画整理事業に伴って多くの発掘調査が行われ、地域の古代と中世の歴史が明らかになってきました。特に今回報告する第2次調査地では、滑石という石材で作られた鍋や、現在の兵庫県東部で焼かれた焼物など貴重な遺物が見つかりました。

本書が今後、地域の歴史・文化財への理解を深める一助となるとともに、教育や学術分野で広く活用されることを心から願っております。

最後になりましたが、発掘調査に際してご理解ご協力をいただいた皆様をはじめ関係各位に厚くお礼を申し上げます。

令和3年3月31日

大野城市教育委員会
教育長 吉 富 修

例 言

1. 本書は、大野城市教育委員会が伊藤ツヤコの委託を受けて実施した薬師の森遺跡第2次調査の報告書である。
2. 調査に係る遺構実測図作成は、武下里織・舟山良一・丸尾博恵が行い、整理報告に係る遺物の実測は、元吉知子・丸尾が行った。
3. 挿図のうち、遺構実測図の製図は篠田千恵子・小畑貴子が行った。遺物実測図のデジタルトレース及び図版作成は（株）アーキジオに委託した。
4. 遺物観察表は、（株）アーキジオが作成した。
5. 現地での遺構写真の撮影は丸尾が行い、遺物写真の撮影についてはフォトハウスOKA（岡紀久夫 埋蔵文化財写真研究会会員）氏に委託した。
6. 挿図中の方位はすべて磁北を表す。
7. 本書に掲載されている遺物・図版・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
8. 本書の執筆は丸尾及び徳本洋一が行い、編集は徳本が行った。

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査体制	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の結果	7
1. 調査概要	7
2. 遺構と遺物	7
IV. まとめ	69

挿図目次

第1図 薬師の森遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)	4
第2図 調査地点位置図 (1/5,000)	5
第3図 薬師の森遺跡第2次調査遺構配置図 (1/200)	6
第4図 SK01平・断面見通し図 (1/30)	8
第5図 SK01出土遺物実測図① (1/3、11のみ1/4)	9
第6図 SK01出土遺物実測図② (1/3、12のみ1/4)	10
第7図 SK01出土遺物実測図③ (1/3)	11
第8図 SK02平・断面見通し図 (1/20)	12
第9図 SK02出土遺物実測図① (1/3)	13
第10図 SK02出土遺物実測図② (1/3)	14
第11図 SK03平・断面見通し図 (1/20)	15
第12図 SK03出土遺物実測図 (1/3)	16
第13図 SK04平・断面見通し図 (1/20)	17
第14図 SK04出土遺物実測図① (1/3)	18
第15図 SK04出土遺物実測図② (1/3)	19
第16図 SK05平・断面見通し図 (1/20)	20
第17図 SK05出土遺物実測図 (1/3)	20
第18図 土坑墓平・断面見通し図 (1/20)	21
第19図 土坑墓出土遺物実測図 (1/3)	21

第20図	SD01・02出土遺物実測図 (1/3)	22
第21図	暗渠実測図 (1/40)	23
第22図	1号竪穴状遺構平・断面見通し図 (1/30)	24
第23図	1号竪穴状遺構出土遺物実測図 (1/3)	25
第24図	2号竪穴状遺構平・断面見通し図 (1/30)	26
第25図	3号竪穴状遺構平・断面見通し図 (1/40)	27
第26図	4号竪穴状遺構平・断面見通し図 (1/30)	28
第27図	5号竪穴状遺構平・断面見通し図 (1/40)	28
第28図	6号竪穴状遺構平・断面見通し図 (1/40)	29
第29図	7号竪穴状遺構平・断面見通し図 (1/40)	30
第30図	2～5号竪穴状遺構出土遺物実測図 (1/3)	31
第31図	6、7号竪穴状遺構出土遺物実測図 (1/3)	32
第32図	不整形土坑平・断面見通し図 (1/60)	34
第33図	不整形土坑出土遺物実測図① (1/3)	36
第34図	不整形土坑出土遺物実測図② (1/3)	38
第35図	不整形土坑出土遺物実測図③ (1/3)	39
第36図	ピット出土遺物実測図① (1/3)	41
第37図	ピット出土遺物実測図② (1/3)	42
第38図	ピット出土遺物実測図③ (1/3)	43
第39図	ピット出土遺物実測図④ (1/3)	44
第40図	遺物包含層出土遺物実測図① (1/3)	46
第41図	遺物包含層出土遺物実測図② (1/3)	47
第42図	遺物包含層出土遺物実測図③ (1/3)	48
第43図	遺物包含層出土遺物実測図④ (1/3)	49
第44図	遺物包含層出土遺物実測図⑤ (1/3)	50
第45図	遺構検出面他出土遺物実測図 (1/3)	51
第46図	石製品実測図 (1/2、1/3、2/3)	52

表 目 次

出土遺物観察表①～⑯	53～68
------------	-------

図版目次

- 図版1 (1) 調査区中央部 (北から)
(2) 調査区南西部 (北から)
(3) 調査区南東部 (北から)
- 図版2 (1) 調査区中央部 (南から)
(2) 調査区北西部 (南から)
- 図版3 (1) 1号竪穴状遺構遺物出土状況
(2) 1号竪穴状遺構完掘状況
(3) 2号竪穴状遺構遺物出土状況
- 図版4 (1) 2号竪穴状遺構完掘状況
(2) 3号竪穴状遺構完掘状況
(3) 5号竪穴状遺構遺物出土状況
- 図版5 (1) 5号竪穴状遺構完掘状況
(2) SD01・02全景
- 図版6 (1) 暗渠①
(2) 暗渠②
(3) 暗渠③
(4) 暗渠④
- 図版7 (1) 暗渠⑤
(2) 暗渠⑥
(3) 暗渠⑦
(4) 暗渠⑧
(5) 暗渠⑨
- 図版8 (1) 暗渠完掘①
(2) 暗渠完掘②
(3) 暗渠完掘③
(4) 暗渠完掘④
- 図版9 (1) 土坑墓遺物出土状況
(2) 土坑墓完掘状況
(3) SK01遺物出土状況
- 図版10 (1) SK01東播系遺物出土状況
(2) SK01完掘状況
(3) SK03遺物出土状況

図版11 (1) SK04遺物出土状況

(2) SK04完掘状況

(3) SK05遺物出土状況

図版12 (1) SX32遺物出土状況①

(2) SX32遺物出土状況②

(3) SX32遺物出土状況③

図版13～16 出土遺物

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

薬師の森遺跡は1980年福岡県教育委員会が作成した『福岡県遺跡等分布地図』には登録されていない遺跡である。1985年（昭和60年）株式会社九州電力が本市川久保3丁目にある福岡制御所（通称中変電所）の昇圧工事に伴い、地下電線の中継基地建設を予定したが、その場所で発見されたものである。1次調査の地番は大字乙金464-2で字名はハサコであった。そこは地元では薬師の森と呼ばれ、こんもりとした森があった。中継基地の建設に伴い森が伐採されると、その記憶さえも失われることになると考え、遺跡名を字名から取らずに薬師の森遺跡とすることとし、調査を実施することとした。第1次調査は地下電線の中継基地建設に伴うもので、昭和60年5月19日から5月28日まで実施し、本市としては珍しい鎌倉時代の遺構が検出されて注目された（大野城市文化財調査報告書第163集）。

第2次調査は畑として利用されていた土地の開発に伴うもので、試掘調査では表土を35cmほど剥いだ段階で滑石製の石鍋が出土し、瓦器・土師質土器を含む遺構を確認した。発掘調査は、平成10年4月16日から7月8日にかけて実施し、丸尾博恵が担当した。調査面積は、開発面積1242㎡のうち1174㎡である。本書は第2次調査の成果を徳本洋一が編集し作成した。整理作業は平成12年度に行ったほか、平成30年度に遺物実測図のデジタルトレースと図版作成を(株)アーキジオに委託した。

2. 調査体制

平成10年度発掘調査		平成12年度整理作業		令和2年度整理作業	
教育長	堀内貞夫	教育長	堀内貞夫	教育長	吉富 修
教育部長	高橋正治	教育部長	青木克正	教育部長	日野和弘
社会教育課長	片岡 猛	社会教育課長	片岡 猛	ふるさと文化財課長	石木秀啓
文化財担当係長	舟山良一	文化財担当係長	舟山良一	発掘調査担当係長	上田龍児
主任技師	向 直也	主任技師	徳本洋一	技師	山元瞭平
	徳本洋一		石木秀啓		齋藤明日香
	石木秀啓		丸尾博恵	啓発整備担当係長	林 潤也
技師	丸尾博恵	技師	林 潤也	主査	徳本洋一
嘱託	明永美和	嘱託	元吉知子	会計年度任用職員	澤田康夫
補助員	武下里織				木原 堯
〔発掘調査参加者〕原田敬子 大海雅子 高木幸子 西田幸子 前田チエ子 内山マサ子 那波幸子 福岡麗子 藤田和子 満富スエコ 吉嗣波津子 三原ひろみ 吉田香織 小松みどり 安永みえ					
〔整理作業参加者〕松岡信子 町井裕子 鬼塚穂子 有田朱美 渡辺直美 村山律子 白井典子 小畑貴子 篠田千恵子					

Ⅱ．位置と環境

大野城市は福岡平野の南東部に位置し、北を福岡市に接し、東を井野山・乙金山・四王寺山、南を牛頸山系、西を脊振山系によって囲まれており、これらに囲まれた平野に住宅地が展開する。市域の中央部を御笠川が北西方向に貫流し、牛頸川がこれに合流して博多湾に至る。また、JR鹿児島本線、西鉄福岡大牟田線、国道3号線などの主要な交通網が市内を南北に通っており、交通の要衝となっている。市域はヒョウタン形の平面形を呈し、面積は26.89km²である。

薬師の森遺跡は、乙金山の西側に派生する小丘陵とその縁辺に所在し、今回報告する第2次調査地点の標高は29m弱を測る。

薬師の森遺跡では、これまでの発掘調査の結果、旧石器時代から近世までの遺構・遺物が確認されているが、遺跡の中心は縄文時代・古墳時代・中世であると考えられている。以下、時代を追って、薬師の森遺跡周辺の状態を概観してみたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡としては、釜蓋原遺跡、成屋形遺跡、松葉園遺跡、雉子ヶ尾遺跡などがあげられる。これらはいずれも丘陵部に位置し、ナイフ形石器、細石刃などが出土した。しかし、これまでのところ、明確な遺構は検出されていない。

縄文時代

縄文時代では、釜蓋原遺跡、松葉園遺跡、雉子ヶ尾遺跡において早期の土器が出土する。釜蓋原遺跡では多数の石鏃が出土・採集されている。原田遺跡、中ノ原遺跡でも縄文時代の遺物が採集されており、古野遺跡、原口遺跡、金山遺跡では落とし穴状遺構が確認されている。また、成屋形遺跡が丘陵北側一帯に広がりを見せる。

弥生時代

弥生時代になると福岡平野全域で遺跡が増加するが、市内では北部丘陵部、御笠川周辺の平野部に遺跡が広がる。また、大城山等東部の山々から西に伸びる丘陵先端部及びその先の平地に墳墓遺跡が集中する傾向が見られる。前期の集落遺跡としては塚口遺跡、石勺遺跡、川原遺跡、仲島遺跡などがあり、中期へと継続する。特に仲島遺跡は、鎌倉時代まで存続することがわかっている。前期の墓地としては御陵前ノ椽遺跡、中・寺尾遺跡などが挙げられる。中期には森園遺跡で集落と墳墓、瑞穂遺跡で墳墓が営まれる。後期になると集落が増加し、仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、村下遺跡、松葉園遺跡、本堂遺跡などが営まれる。本市周辺では、前期には板付遺跡で集落、金隈遺跡で墓地が広がり、中期になると春日丘陵一帯に須玖遺跡群と呼ばれる多くの遺跡が展開する。

古墳時代

古墳時代前期には、仲島遺跡、石勺遺跡、村下遺跡などの集落が継続して営まれるほか、瑞穂遺跡では方形周溝墓が確認されている。本市には前方後円墳はないが、御陵古墳群周辺で三角縁神獣鏡が出土している。古墳時代中期には遺跡数が減少し、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、仲島

遺跡、上園遺跡などで小規模な集落が営まれる。その一方、乙金山西麓の開発が始まり、笹原古墳、成屋形古墳が築造されるほか、古野古墳群の築造が始まる。古墳時代後期になると、市北部では月隈丘陵から乙金山麓にかけて大規模な群集墳が営まれる。市南部では中通古墳群、塚原古墳群などが築造される。この時期の集落遺跡としては、仲島遺跡、上園遺跡、塚原遺跡、日ノ浦遺跡などが挙げられる。また、6世紀半ばには牛頸須恵器窯跡の操業が始まり、以後約300年間に渡って須恵器を焼き続ける。市北部にある乙金窯跡、雉子ヶ尾窯跡、裏ノ田窯跡などの須恵器窯跡も、古墳時代から奈良時代にかけて操業していたことが分かっている。

飛鳥時代

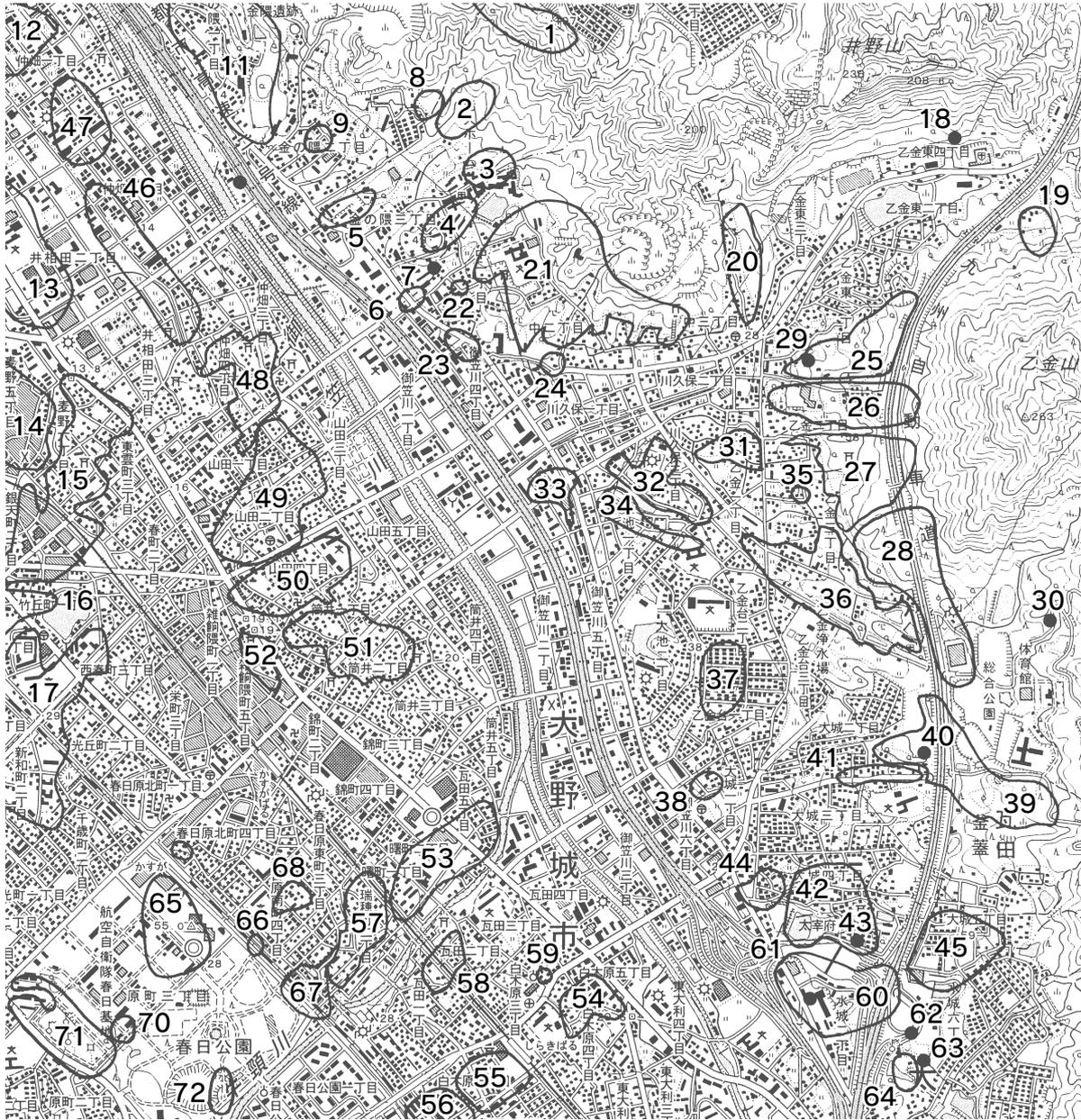
この時代にも、古墳時代後期の集落、群集墳は継続的に営まれる。この時期の集落としては、塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡などがあり、これらは須恵器工人の集落であると考えられている。牛頸須恵器窯跡では、月ノ浦窯跡、小田浦窯跡で初期瓦が製作され、「那津官家」に比定されている比恵・那珂遺跡に搬入されている。7世紀になると、朝鮮半島での動乱が激化し、北部九州は国防上の最前線として重要度を増す。7世紀半ばには、白村江の戦いの結果を受けて水城・大野城が築かれ、中央集権国家を作るために律令制度の整備が急がれることとなる。

奈良時代

8世紀初頭、大宝律令が制定され、九州では大宰府を中心とした統治体制が整えられる。大宰府政庁からは水城を通過して博多方面に通じる東西2本の官道が整えられた。これら官道沿いには仲島遺跡、井相田C遺跡など大規模な集落遺跡が営まれた。牛頸須恵器窯跡では窯の小型化と窯数の増加が見られ、小型器種の焼成を中心に操業の最盛期を迎える。また、仏教の普及と共に火葬の習慣が広がり、石勺遺跡では火葬墓が検出されている。

平安時代以降

9世紀代には、仲島遺跡、井相田C遺跡、麦野遺跡など御笠川周辺で営まれていた集落遺跡のほとんどが廃絶し、牛頸須恵器窯跡も9世紀半ばには操業を停止する。11世紀後半には大宰府もその機能を停止し、以降は中世都市「博多」が外交交易の拠点となる。市内の中世の遺跡としては、御笠の森遺跡、石勺遺跡、本堂遺跡などが挙げられる。御笠の森遺跡では近世まで継続して集落が営まれ、多数の井戸や区画溝などが確認されている。



第1図 薬師の森遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)

福岡市

- 1. 持田ヶ浦古墳群A群
- 2. 持田ヶ浦古墳群B群
- 3. 持田ヶ浦古墳群C群
- 4. 持田ヶ浦古墳群D群
- 5. 持田ヶ浦古墳群E群
- 6. 持田ヶ浦古墳群F群
- 7. 今里古墳
- 8. 堤ヶ浦古墳群
- 9. 影ヶ浦遺跡
- 10. 丸山古墳
- 11. 金隈遺跡群
- 12. 井相田D遺跡群
- 13. 井相田C遺跡群
- 14. 麦野A遺跡
- 15. 麦野C遺跡
- 16. 南八幡遺跡群
- 17. 雑餉隈遺跡群

大野城市

- 18. 唐山古墳群

福岡市

- 19. 乙金北古墳群
- 20. 唐山遺跡
- 21. 御陵古墳群
- 22. 御陵脇遺跡
- 23. 塚口遺跡
- 24. 御陵前ノ椽遺跡
- 25. 善一田遺跡・古墳群
- 26. 王城山遺跡・古墳群
- 27. 古野遺跡・古墳群
- 28. 原口遺跡・古墳群
- 29. 乙金窯跡群
- 30. 此岡古墳群
- 31. 松葉園遺跡
- 32. 森園遺跡
- 33. ヒゲシマ遺跡
- 34. 中・寺尾遺跡
- 35. 花園遺跡
- 36. 薬師の森遺跡
- 37. 銀山遺跡
- 38. 原門遺跡

福岡市

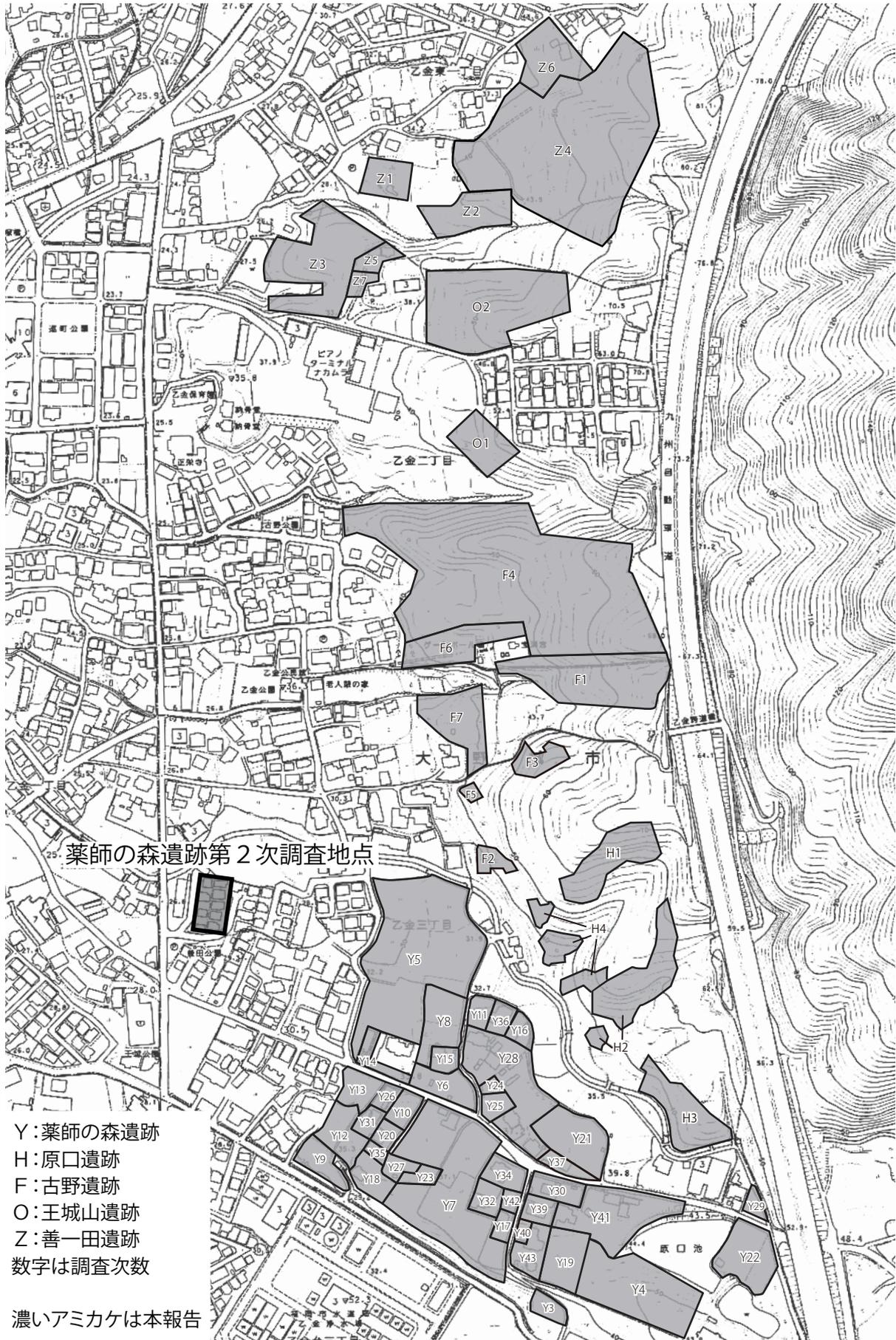
- 39. 雉子ヶ尾遺跡
- 40. 雉子ヶ尾窯跡
- 41. 雉子ヶ尾古墳
- 42. 釜蓋原古墳群
- 43. 笹原古墳
- 44. 金山遺跡
- 45. 釜蓋原遺跡
- 46. 仲島遺跡
- 47. 仲島本間尺遺跡
- 48. 川原遺跡
- 49. 御笠の森遺跡
- 50. 村下遺跡
- 51. 宝松遺跡
- 52. 雑餉隈遺跡
- 53. 石勺遺跡
- 54. 原ノ畑遺跡
- 55. 後原遺跡
- 56. 御供田遺跡
- 57. 瑞徳遺跡
- 58. 国分田遺跡

太宰府市

- 59. 古賀遺跡
- 60. 成屋形遺跡群
- 61. 成屋形古墳群
- 62. 裏ノ田窯跡
- 63. 裏ノ田古墳
- 64. 裏ノ田遺跡

春日市

- 65. 駿河A遺跡
- 66. 駿河B遺跡
- 67. 駿河D遺跡
- 68. 駿河E遺跡
- 69. 原ノ口遺跡
- 70. 先ノ原遺跡
- 71. 立石遺跡
- 72. 先ノ原春日公園内遺跡



第2図 調査地点位置図 (1/5,000)



第3図 薬師の森遺跡第2次調査遺構配置図 (1/200)

Ⅲ. 調査の結果

1. 調査概要

地形は調査前は平坦面をなしていたが、表土を剥ぐと北西に向かって緩やかに傾斜していく。これは調査区北側に流れる雉子ヶ尾川へ向かって地形が傾斜しているためと考えられる。東側では表土を軽く剥ぐだけで遺構が検出し、削平されていた可能性が高い。このことから、当地は北西に向かって緩やかに傾斜する丘陵の先端部であった可能性が高い。

調査は排土の持ち出しができなかったため、2回に分けて実施した。表土剥ぎには重機を用い、現地地表下約15～65cmで遺構面となった。調査は南西側から行い、排土の反転後、北東部に続いた。南西部ではピット、土坑、竪穴状遺構が出土した。北西側では表土剥ぎの時に青磁碗が引っ掛かった。そこで土坑墓の存在が判明したわけだが、以前の土地利用が畑だったことを考えると、かなり上部が削平されている事がうかがえる。

検出された遺構には奈良時代の土坑、鎌倉時代の土坑・溝・ピット・土坑墓などがある。遺物には瓦器、土師質土器、須恵器、磁器、陶器、東播系鉢、在地系鉢、石鍋、棒状土製品などがある。

2. 遺構と遺物

(1) 土坑

SK01 (第4図、図版9・10)

調査区の北西側で検出された。土坑は長辺で3.9m、短辺で2.26mの不整楕円形を呈し、深さは10～13cmを測る。須恵器、土師器、瓦器、青磁等が出土した。

出土遺物 (第5～7図、図版13)

須恵器 (1、2) いずれも杯身である。ヘラ切り後、回転ナデと不定方向のナデを施す。1は外面に降灰が見られる。

土師器 (3～10) 3～8は小皿である。いずれも糸切り後ナデる。5、6には板状圧痕が認められる。9の碗は、内外面とも磨滅のため調整不明。貼り付け高台。10は甕である。外面にハケ、ハケメ後ナデを、内面にナデとヘラケズリを施す。

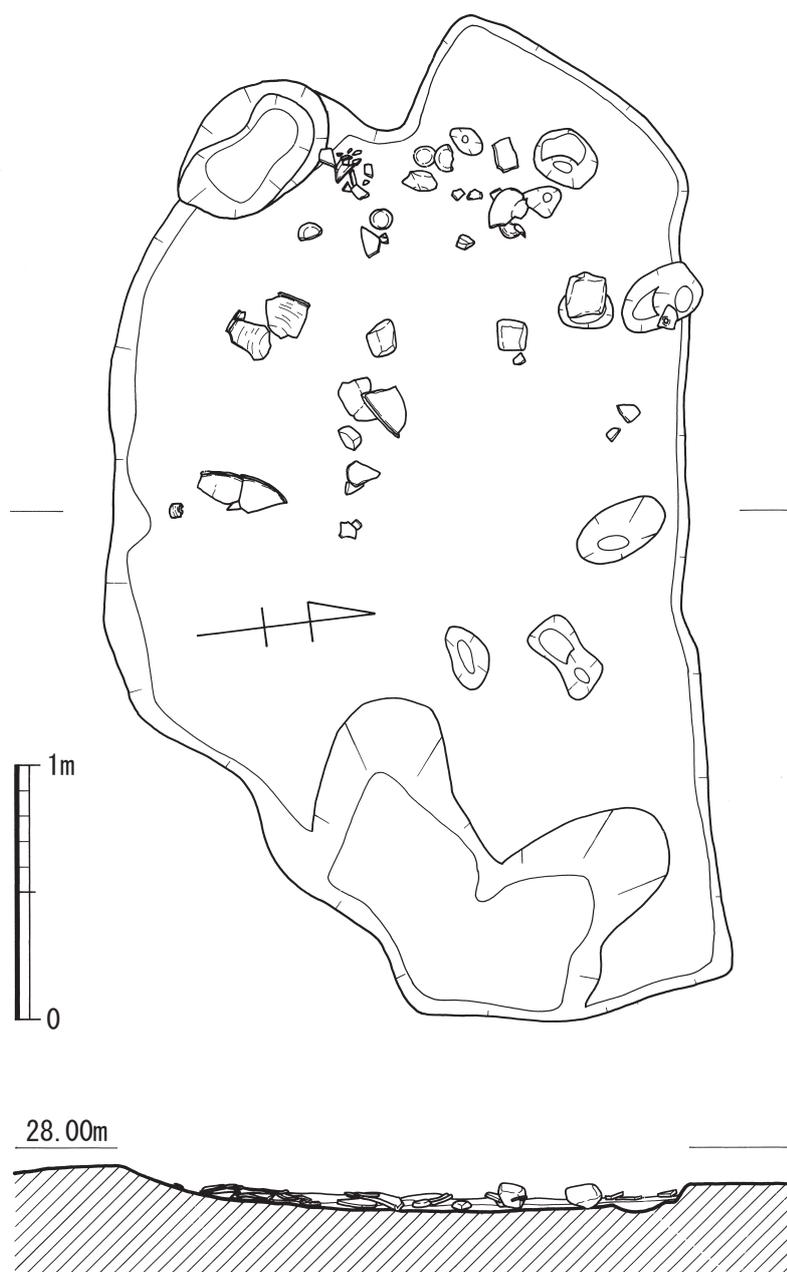
土師質土器 (11、12) いずれも鍋である。11は内外面とも磨滅のため調整不明だが、体部外面が赤変しており、煤が一巡するように付着する。また、口縁上部に刻み目を施す。12は内外面共にナデと横ナデ、口縁上部に刻み目を施す。外面口縁部下に煤が付着し、底部付近は赤変している。

瓦器 (13～19) 13は小皿。外面はヘラ切り後ナデ、内面にはナデを施す。14～19は碗。14は内外面ともミガキ、外面体部下位に指頭圧痕が認められる。15の外面はナデか。高台は貼り付け。16～18は底部の小片。調整は、16が内外面ともナデ、17が外面にミガキとナデ、内面ミガキ、18が外面ナデ、内面ミガキ。高台はいずれも貼り付けである。19は体部下位がやや残る。外面は磨滅のため調整不明だが、内面にはミガキが認められる。高台は貼り付け。

須恵器 (20) 20は東播系須恵器鉢。ほぼ完形、内外面ともナデを施す。口縁部外面に降灰が見られる。

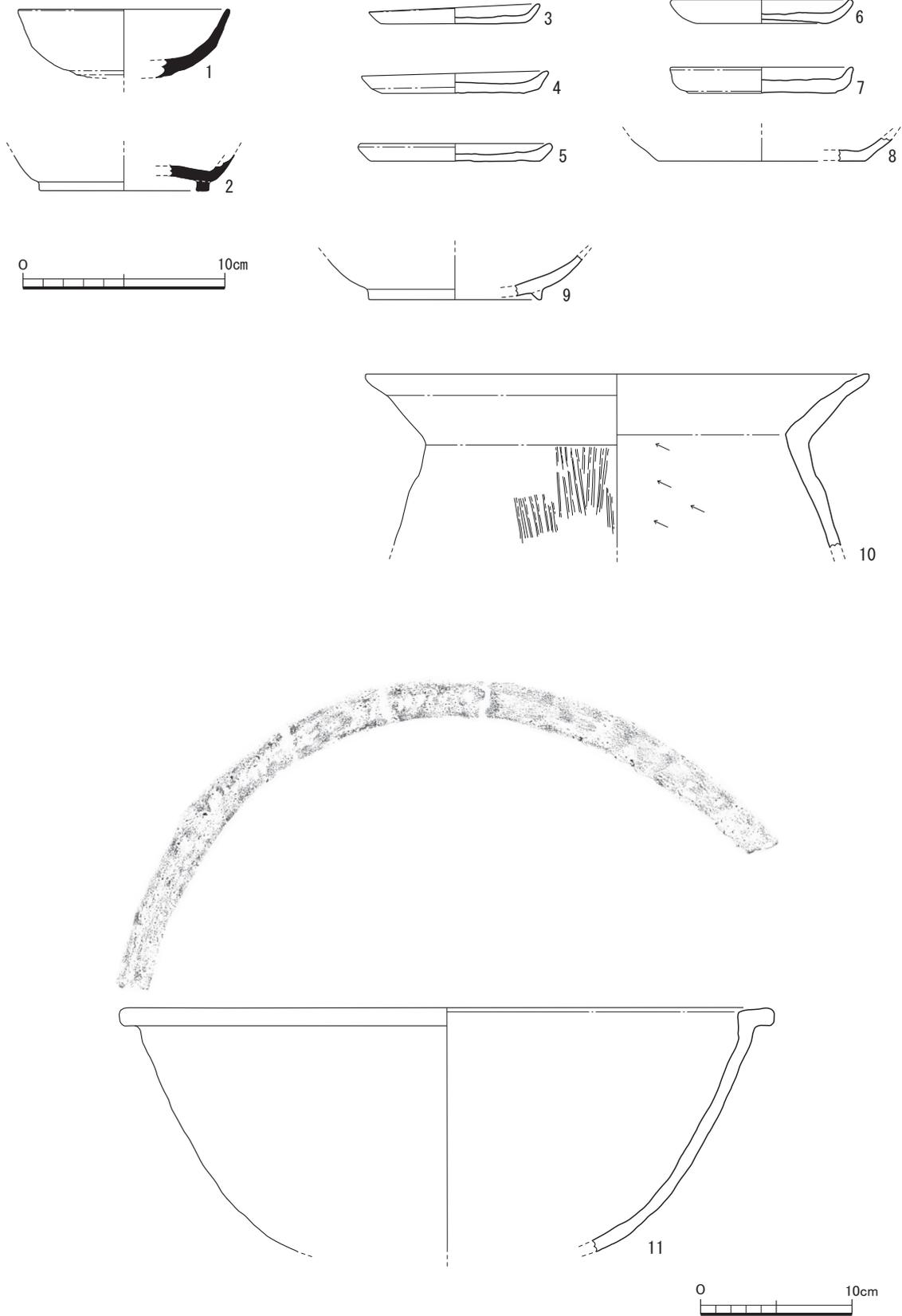
青磁 (21~25) 21~23は龍泉窯系の椀。21は内面に草花文様を施し、高台は削り出しで露胎。高台接地面に目跡が認められる。22はほぼ完形。内外面とも厚く釉がかかり、内面に草花文様を施す。23は体部の小破片。内面に飛雲文様を施し、口縁部内面付近に3条の沈線がある。24、25は同安窯系の皿。底部内面に櫛目状の文様を施す。25には数ヶ所に釉溜りが認められる。

石製品 (26) 滑石製の石鍋の小片である。調整は、外面にケズリ、研磨、ケズリ後研磨、内面に研磨を施す。鏝は下がり気味についており、上下にノミ痕、ケズリ痕が認められる。



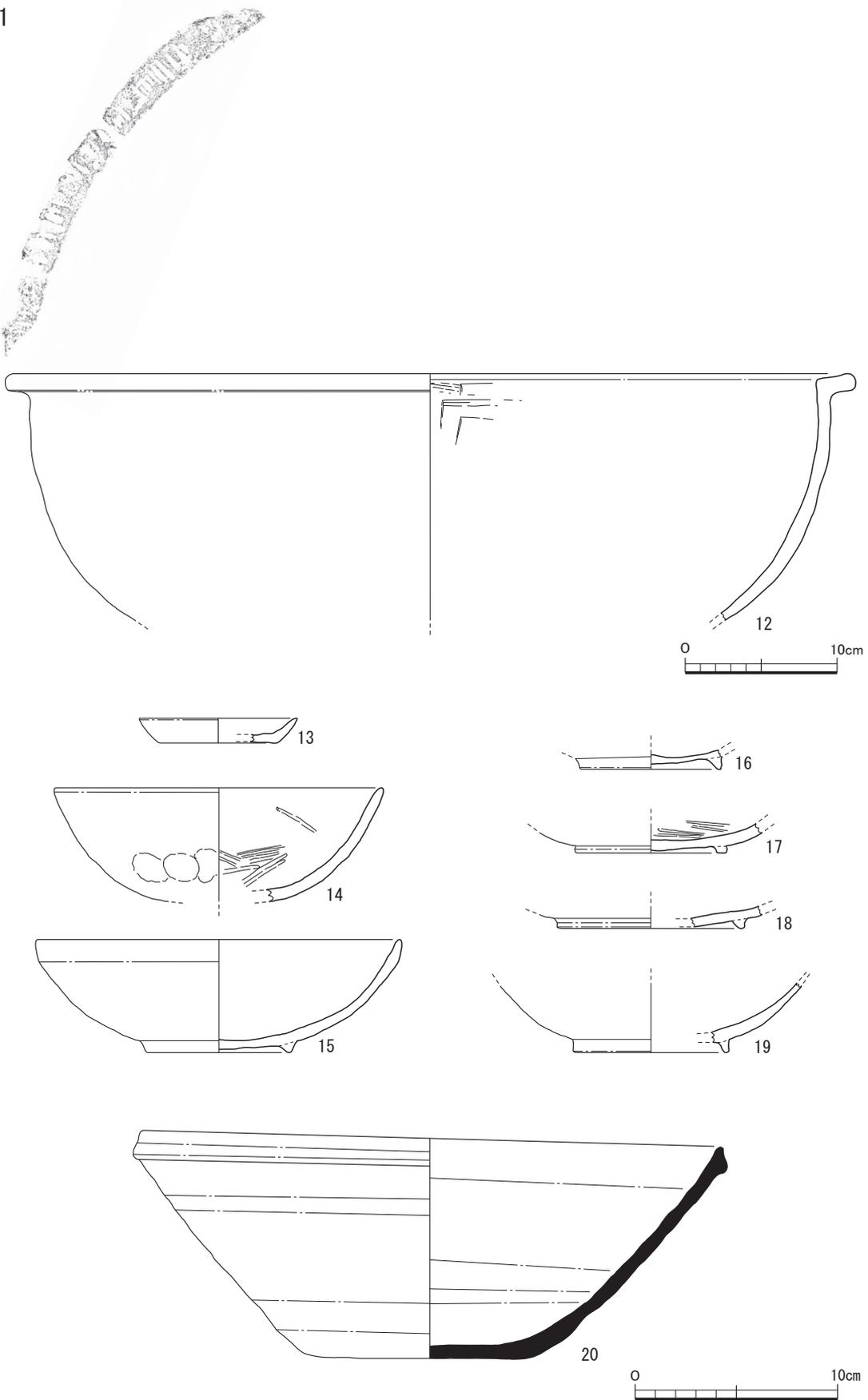
第4図 SK01平・断面見通し図 (1/30)

SK01



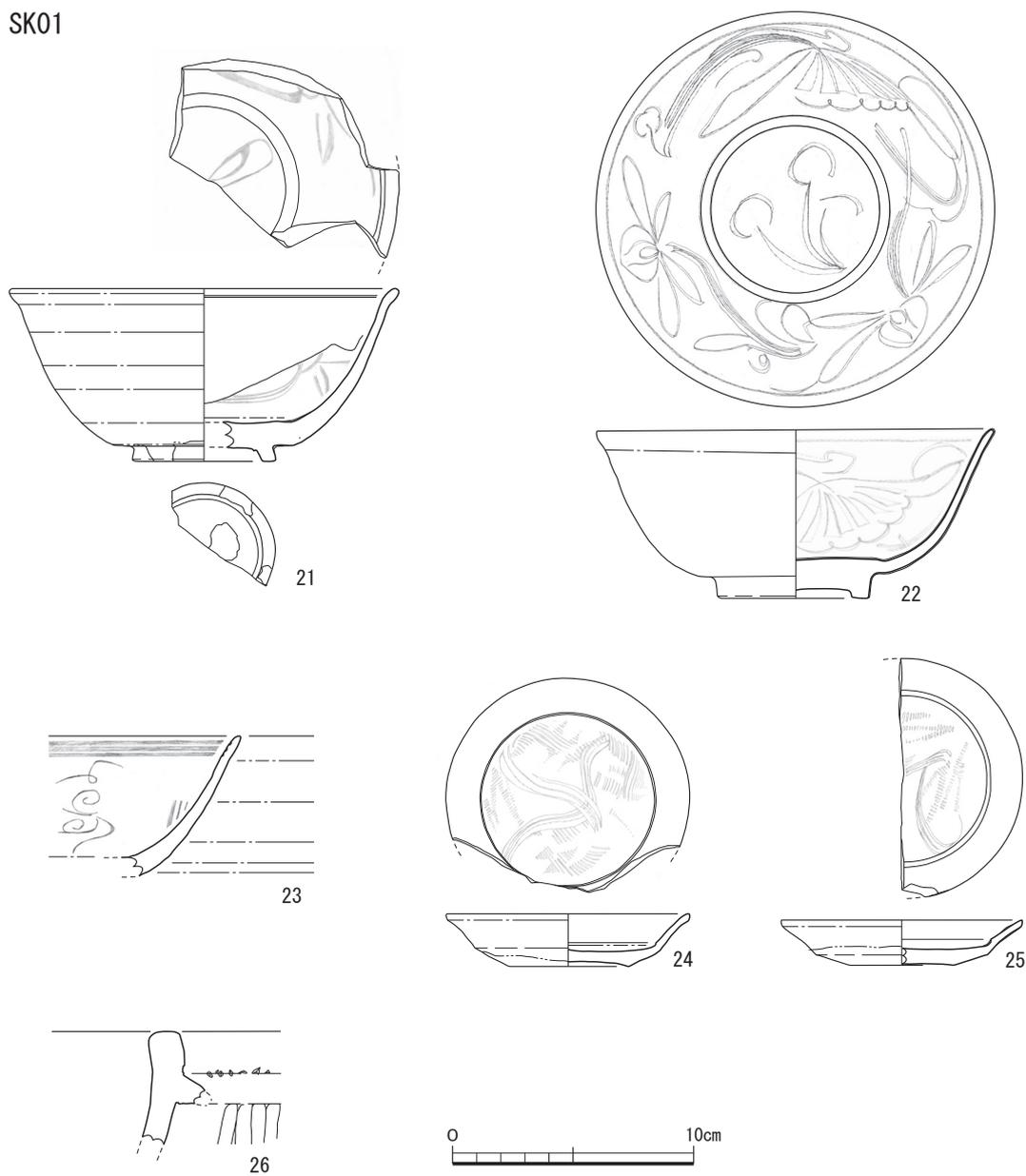
第5図 SK01出土遺物実測図① (1/3、11のみ1/4)

SK01



第6図 SK01出土遺物実測図② (1/3、12のみ1/4)

SK01



第7図 SK01出土遺物実測図③ (1/3)

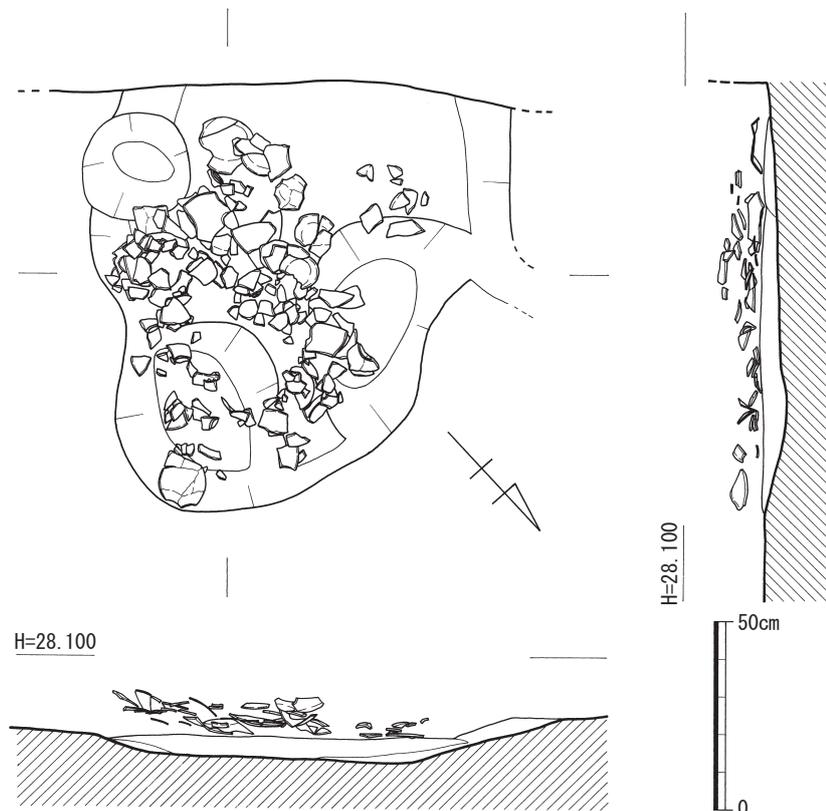
SK02 (第8図)

1.06×1.12mの円形土坑である。2段掘りになっており、深さは2～5cmである。この土坑からは瓦器椀・小皿が一箇所に集中して出土した。

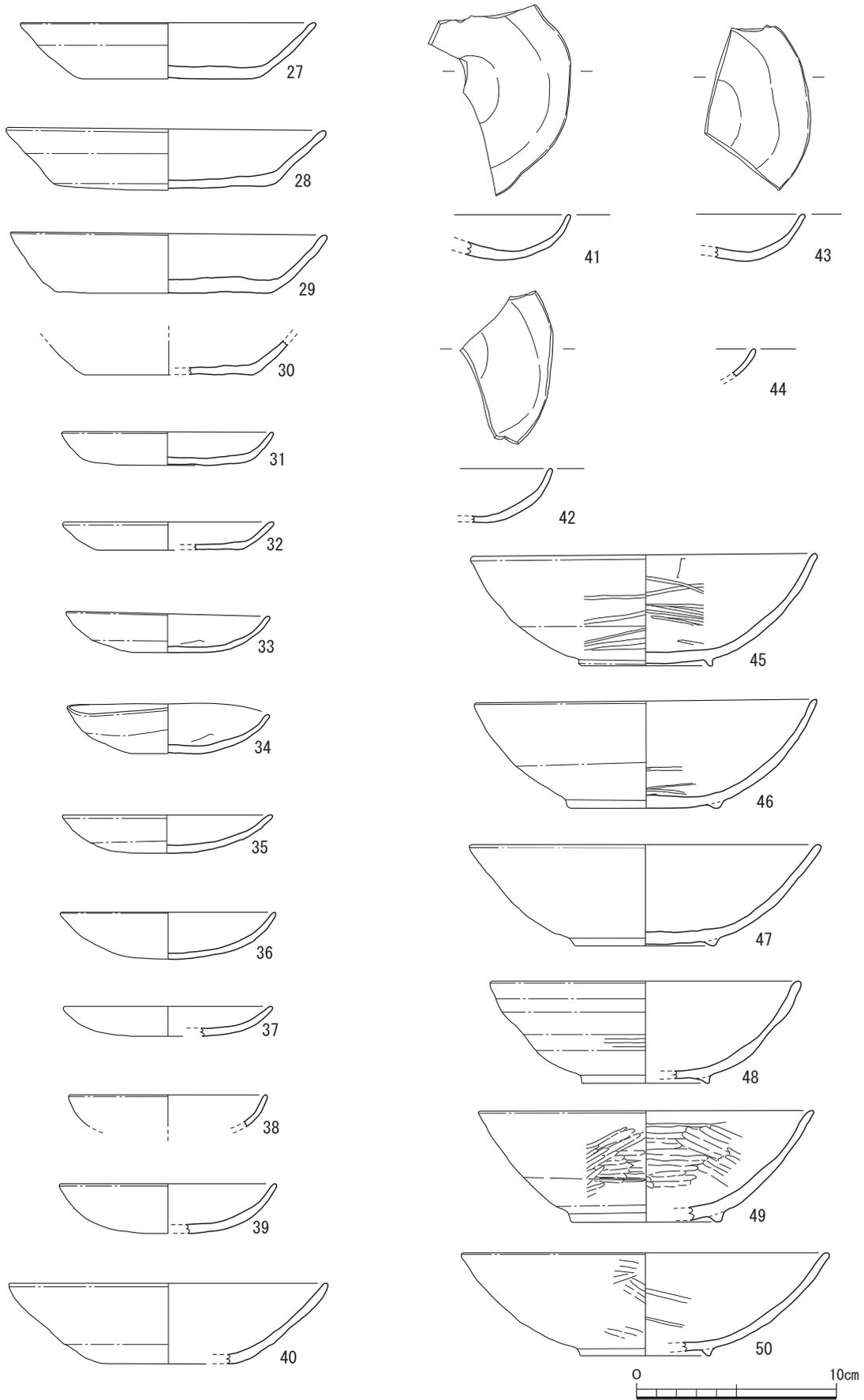
出土遺物 (第9・10図、図版14)

土師器 (27～30・40) 27～30・40は杯である。27、28は底部外面回転糸切り後板状圧痕を施し、その他の部分はナデる。29は底部糸切り後ナデ。胎土に金色の雲母を多量に含む。30は底部付近のみの残存。焼成は良好だが、磨滅のため外面の調整は不明。内面はナデる。

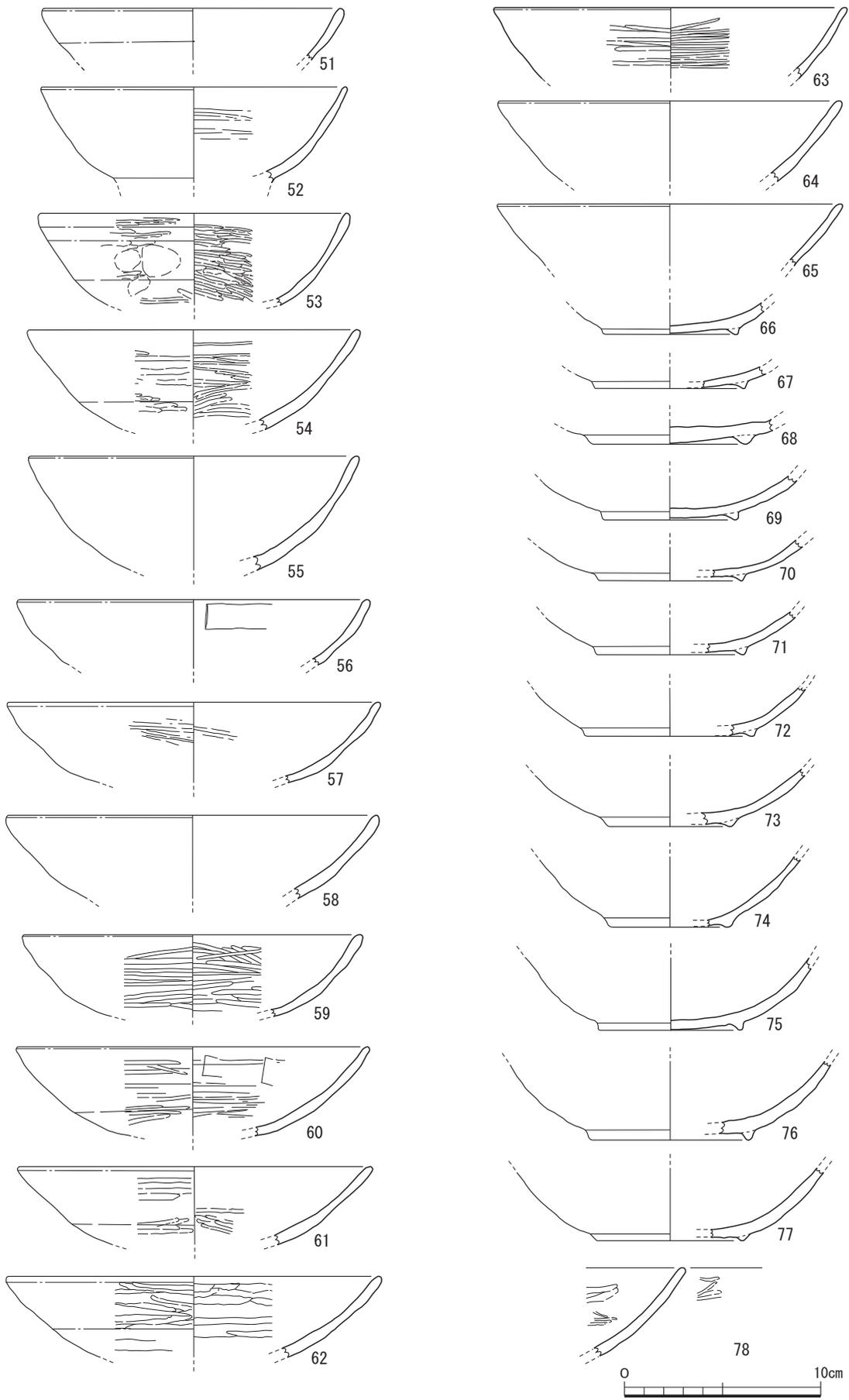
瓦器 (31～78) 31～39、41～44は小皿である。いずれも復元口径10.6cmを測り、底部糸切り後板状圧痕を施す。底部が平坦なもの丸みを帯びるものがある。33は底部を回転糸切り後板状圧痕を施す。内面に工具ナデか。34は底部糸切り、内面に工具ナデ。36は底部糸切り、内面は磨滅のため調整不明。37は内面にミガキが認められる。39は内外面とも磨滅のため調整不明。41～44は小片のため口径が復元できなかった。41、42、43は底部糸切り。41はその後板状圧痕と不定方向のナデ、42はナデ、43は不定方向のナデを施す。45～78は椀である。45～50は高台径まで復元できたもの。45は内外面ともナデとミガキ、内面には指頭圧痕が認められる。46～48は磨滅のため調整不明。49、50は内外面ともにナデとミガキを施す。51～65は口径のみ復元できたもの。51、55、56、58、64は磨滅のため調整不明。他は内外面ともナデ、ミガキを施す。53は外面に指頭圧痕が認められる。66～77は底部付近の小片。内外面とも磨滅しているものが多いが、68、69は内面に、70は内外面にミガキが認められる。78は口縁部から体部中位の小破片で、内外面ともナデとミガキを施す。



第8図 SK02平・断面見通し図 (1/20)



第9図 SK02出土遺物実測図① (1/3)



第10図 SK02出土遺物実測図② (1/3)

SK03 (第11図、図版10)

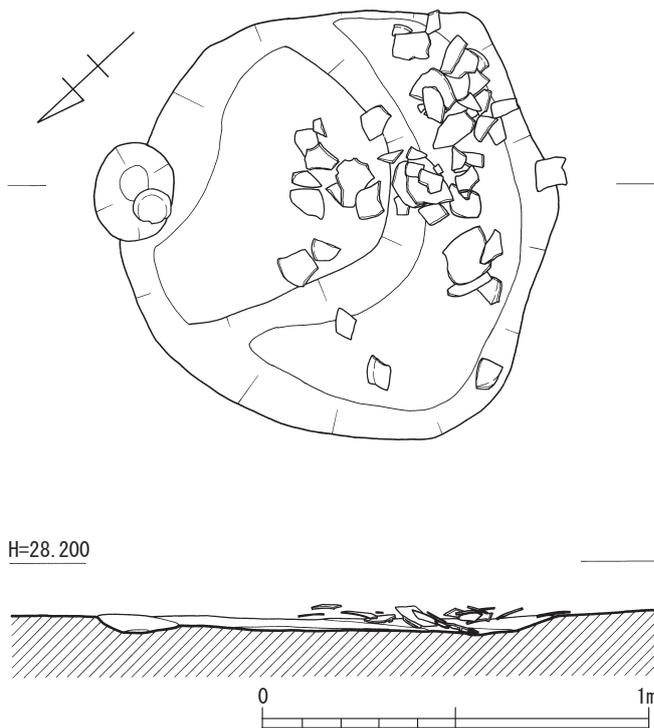
1.16×1.08mの円形土坑である。2段掘りになっており、深さは10～16cmである。この遺構からは瓦器椀、土師器皿が重なりあうように出土した。

出土遺物 (第12図、図版14・15)

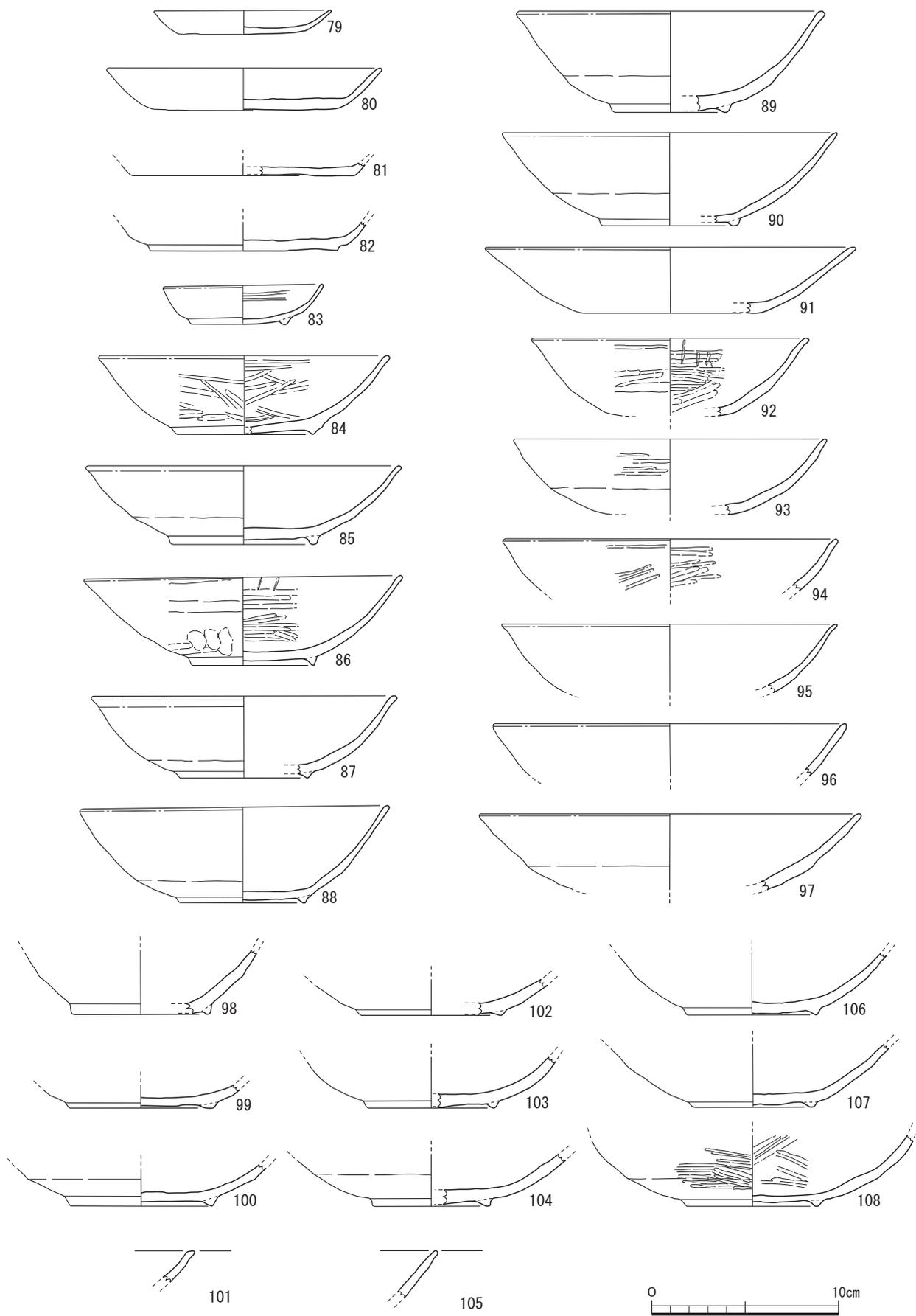
土師器 (79～82) 79は小皿。底部外面に板状圧痕が認められる。内面はナデか。80、81は皿。80の底部外面には板状圧痕が認められ、他の部分はナデ。81は底部のみの小片で、外面には糸切り痕が認められる。82は椀の底部と思われる。内外面とも磨滅のため調整不明。

瓦器 (83～108) 83のみ小椀、他はすべて椀である。83は口径8.6cm、器高2.1cmで、底部を回転糸切り後、高台を貼り付ける。調整は外面に横ナデ、内面に横ナデ、ナデ、ミガキを施す。84～90は全体を復元できたものである。84は底部外面に板状圧痕が認められ、外面にナデとミガキ、内面にはミガキを施す。85は外面に型押し痕跡が認められ、内面にミガキを施す。86の外面にはナデ、ミガキを施し、型押し痕跡が認められるほか体部下位に指頭圧痕が認められる。内面にはミガキを施すほか、工具によるナデのような痕跡が認められる。87、88、89、90は外面に型押し痕跡が認められるが、内面は磨滅のため調整不明である。88は体部下位に指頭圧痕が認められる。91～97は口径のみ復元できたものである。91は、内外面ともミガキを施し、外面には型押し痕跡が認められる。92は、内外面ともナデとミガキを施し、外面には型押し痕跡が認められる。93は内外面ともミガキを施し、外面には型押し痕跡が認められる。94は内外面ともミガキを施す。95は外面にナデ、内面は磨滅のため調整不明。96は内外面とも磨滅のため調整不明。97は外面に型押し痕跡が認められるが、内面は磨滅のため調整不明である。98～106は底部付近の小片。98は外面に型押し痕跡が認められるが、内面は磨滅のため調整不明。99は内外面とも磨滅のため調整不明。

100は外面に型押し痕跡が認められるが、内面は磨滅のため調整不明。101は内外面とも磨滅のため調整不明。102、103は外面に型押し痕跡が認められるが、内面は磨滅のため調整不明。104は外面が磨滅のため調整不明だが、内面にはミガキを施す。105は外面ナデ、内面は磨滅のため調整不明。106は外面にミガキ、ナデのほか型押し痕跡が認められる。内面はミガキ。107、108は口縁部付近の小片。107は外面ナデ、内面は磨滅のため調整不明。108は内外面とも磨滅のため調整不明である。



第11図 SK03平・断面見通し図 (1/20)



第12図 SK03出土遺物実測図 (1/3)

SK04 (第13図、図版11)

1.2×1.05mの、やや東西方向に長い円形を呈する土坑である。床面南寄りに28×38cmの円形の掘り込みがある。深さは7～14cm、円形の掘り込み部分では9cmを測る。遺物は須恵器杯身・蓋、土師器皿、瓦器椀、棒状土製品などが円形の掘り込みを中心に出土した。

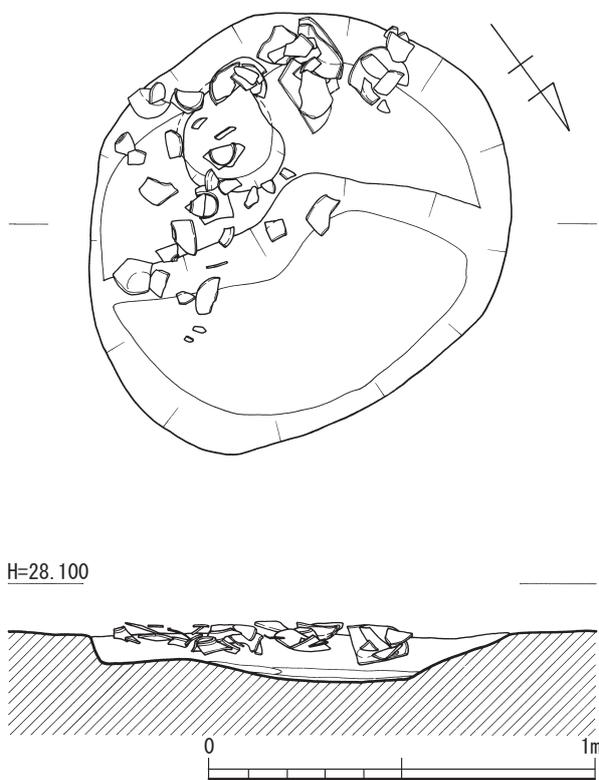
出土遺物 (第14・15図、図版15)

土師器 (109～117) 109は杯である。調整は内外面ともナデ。胎土中に砂粒を少量含む。110、111は小皿で、110が口径8.8cm、111は12.5cmを測る。調整は、110が回転糸切り後内外面とも横ナデ、111が内外面ともナデである。112～115は杯。112、113、114は内外面ともナデを施すほか、113は糸切りの痕跡が明瞭である。115は板状圧痕が認められるが、内面は磨滅のため調整不明である。116は小皿の小片で、内外面とも磨滅のため調整不明。117は甕の口縁部付近の小片で、内外面ともナデ、内面にはヘラケズリを施す。胎土には多量の砂粒を含む。

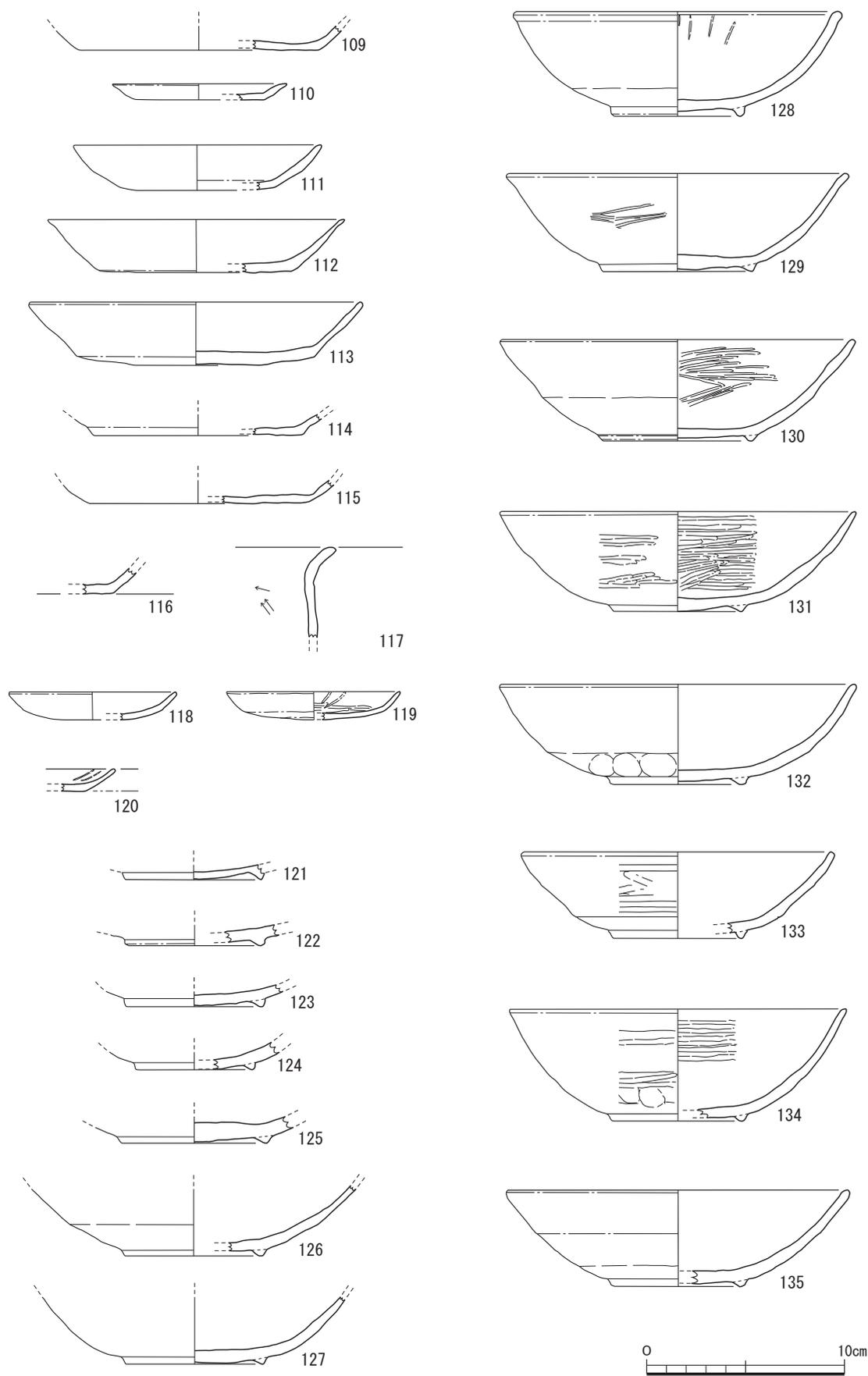
瓦器 (118～145) 118、119、120は小皿。118は外面に型押し、内面はナデ。119は糸切りの痕跡が認められ、内外面ともミガキ。内面には工具の痕跡が認められる。121～127は椀の底部付近の小片。全体に磨滅が著しいが、121、122は内面にナデが認められる。128～135は全体の形が復元できたものである。128は外面に型押しの痕跡、内面にはミガキと工具の痕跡が認められる。129は内外面ともにミガキ。130は外面ナデ、内面ミガキ。131は外面にナデ、横ナデ、ミガキ、内面にミガキを施す。132は体部外面下位に指頭圧痕のような痕跡が認められる。133は内外面ともに回転ナデとミガキ、134は横ナデとミガキを施す。136～142は口径のみ復元できたものである。136、138は内

外面とも磨滅のため調整不明。137、139～142はいずれも外面に型押しの痕跡が認められるほか、137の内面はミガキ、139の内面はミガキと工具の痕跡、140の内面は横ナデを施す。143～145は口縁部付近の小片。調整は、144が内外面ミガキ、内面ナデ、145が内外面ミガキ、内面ナデと型押しの痕跡。

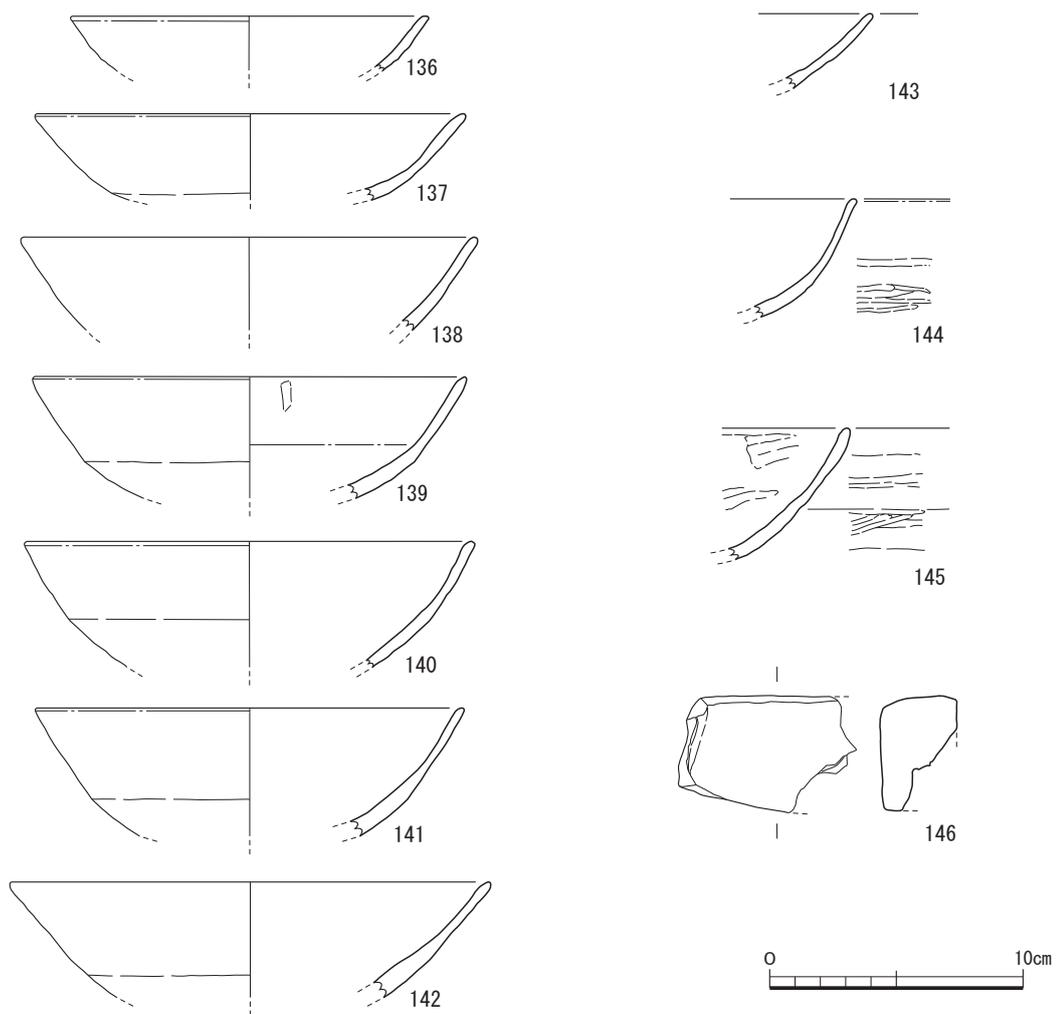
土製品 (146) 棒状土製品の、端部付近の小片である。焼成は良好で、胎土中に少量の砂粒を含む。



第13図 SK04平・断面見通し図 (1/20)



第14図 SK04出土遺物実測図① (1/3)



第15図 SK04出土遺物実測図② (1/3)

SK05 (第16図、図版11)

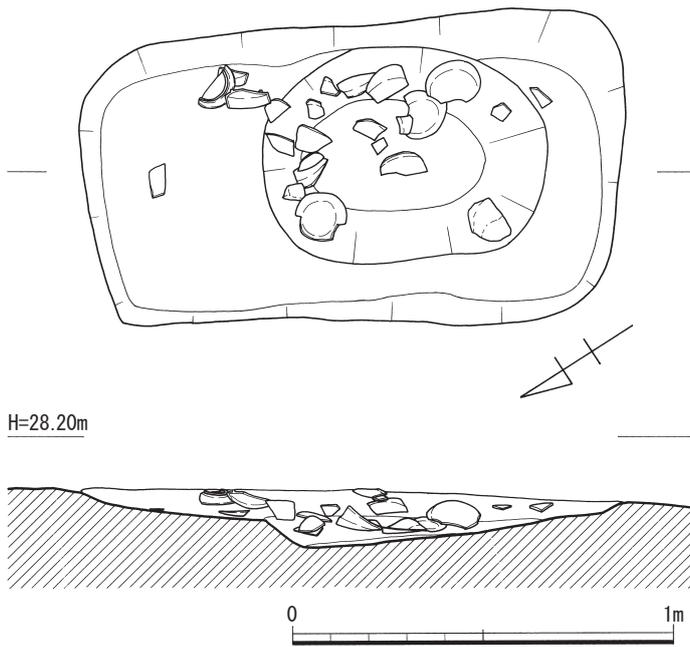
1.4×0.8mの隅丸長方形の土坑である。床面南寄りに56×75cmの円形の掘り込みがある。深さは2～4cm、円形の掘り込み部分では9cmを測る。遺物は須恵器杯蓋・杯身、土師器碗などが円形の掘り込みを中心に出土した。

出土遺物 (第17図、図版15)

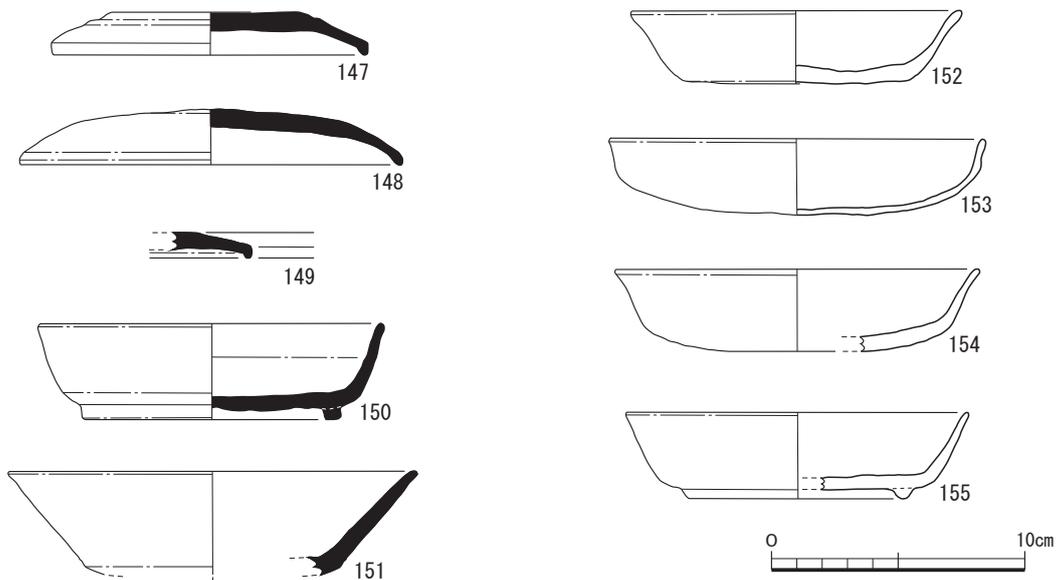
須恵器 (147～151) 147～149は杯蓋である。147の天井部はヘラ切り後未調整で、その他は内外面とも回転ナデを施す。148はやや丸みのある天井部を有し、ヘラ切り後ナデる。内面には回転ナデとナ

デを施す。149は端部付近の小片で、内外面ともに回転ナデを施す。150、151は杯身である。150は底部をヘラ切り後、内外面とも回転ナデとナデを施す。151は体部が外に開くもので、内外面ともナデを施す。

土師器 (152～155) 152は体部中位を薄く仕上げ、調整は内外面ともナデである。外面に付着物がある。153は体部中位に小さな稜があり、底部外面には板状圧痕のような痕跡が認められる。調整は内外面ともナデ。154は体部がやや外反気味に開き、内外面ともナデる。155は須恵器を模したような形状であるが、内外面とも磨滅のため調整不明である。



第16図 SK05平・断面見通し図 (1/20)



第17図 SK05出土遺物実測図 (1/3)

(2) 墳墓

土坑墓 (第18図、図版9)

重機による表土剥ぎの際に青磁椀 (龍泉窯 I 類) が破損してしまい、そのため出土位置は不明である。墓坑は内法で1.55×0.95m、深さ3.5×13.5cmの隅丸方形を呈する。遺物は、青白磁の合子が床面直上で検出されたほか、瓦器椀の小片が出土した。青磁椀については機会を改めて報告したい。合子の蓋は出土していない。主軸はN-13°-Eである。

出土遺物 (第19図、図版16)

瓦器 (156) 椀の底部の小破片である。調整は、内外面とも磨滅のため不明。高台は貼り付ける。

青白磁 (157) 合子の身。底部を糸切り後ナデ、内外面とも釉がかかる。

(3) 溝

今回の調査では平行に走る溝が2条確認できた。溝は調査区西隅で検出した。遺物は、須恵器、土師器、青磁が出土したが、いずれも小破片であった。

SD01 (第3図、図版5)

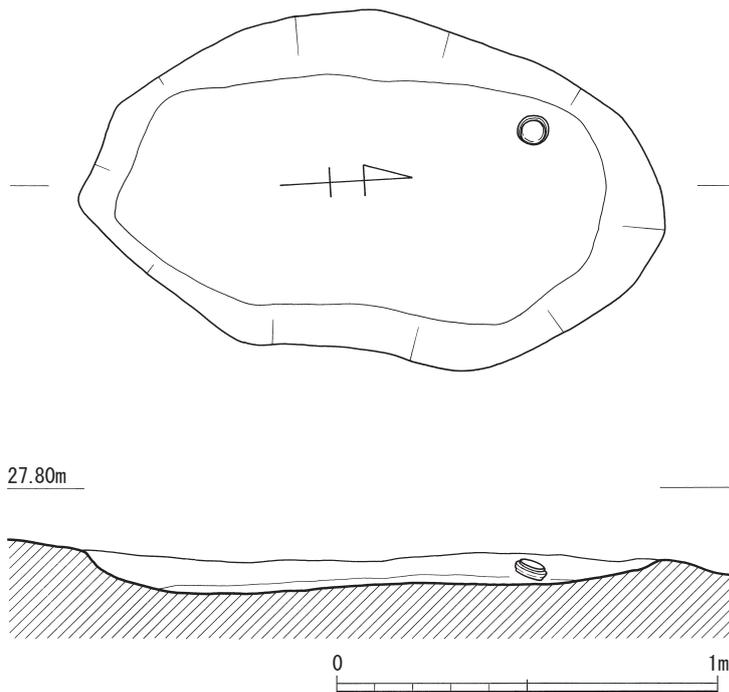
北西方向にのびる溝である。幅0.58~1.48m、深さ12~19.5cmで溝底の標高は南西に行くほど高くなる。溝の両端は調査区外にのびる。検出長12.5mである。埋土は固くしまった黄褐色土の上にシルト状の褐色土が堆積している。

出土遺物 (第20図)

須恵器 (158) 甕の口頸部破片である。調整は内外面とも回転ナデ。口縁端部を外側につまみあげるように仕上げているため、口唇部が内傾する。

SD02 (第3図、図版5)

SD01に平行して走る。幅0.66~1.04m、深さ9~21cmである。検出長は8.5m、北隅では湧水があり検出困難な状態であった。



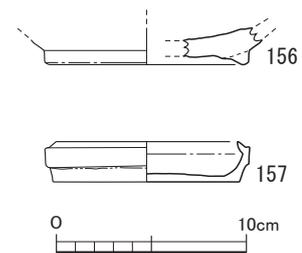
第18図 土坑墓平・断面見通し図 (1/20)

出土遺物 (第20図)

須恵器 (159~161) 159、160は杯身。161は甕。

土師器 (162) 移動式竈の底部。

青磁 (163、164) 龍泉窯系の椀。



第19図 土坑墓出土遺物実測図 (1/3)

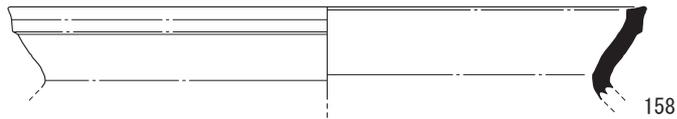
(4) 暗渠

暗渠（第21図、図版6～8）

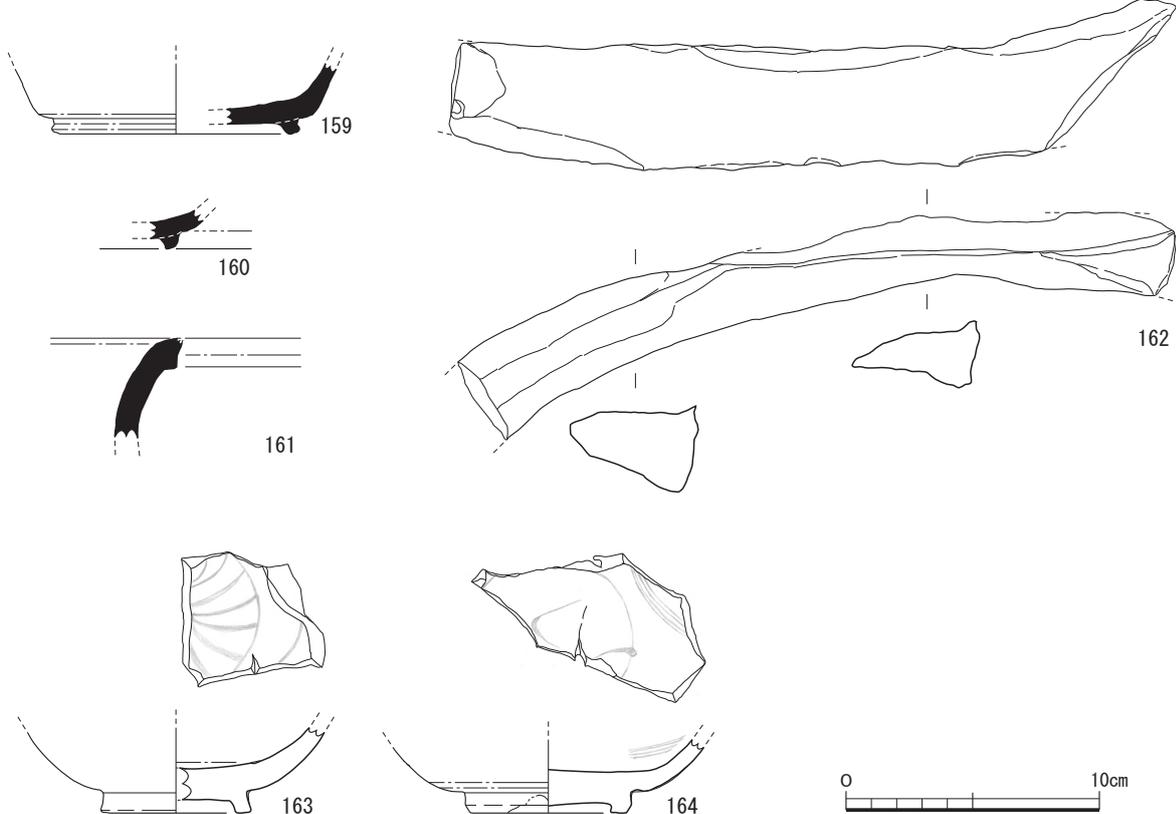
調査区中央より検出された。暗渠上には包含層の堆積があり、包含層を掘り下げていくとT字の縦棒部分の石列が確認できた。縦棒部分は北西方向に向かってなだらかに傾斜していることから、排水機能を有していたと考えられる。横棒部分は遺構面からの検出が難しく、縦棒から調査をすることで判明した。南側の基点はランダムに石が積まれた状態で、レベルも高く取水的な役割を果たしていたと考えられる。北側では石が乱れた状態で検出できた。いずれも調査期間の関係で図面等に記録保存できなかった。中央部では方形の掘り方に2本の石列が並び、その上部に石蓋が架けられていた。水は2本の石列の間を流れていたと考えられる。縦棒と横棒の交差点では、横棒西側の石列の一部が取り除かれた状態で、縦棒へ水が流れるように設定されている。

横棒部の掘り込みが検出面から確認できなかったことについて、整地が行なわれていた可能性が考えられ、数ヶ所にトレンチを入れて調査したが、整地層は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

SD01

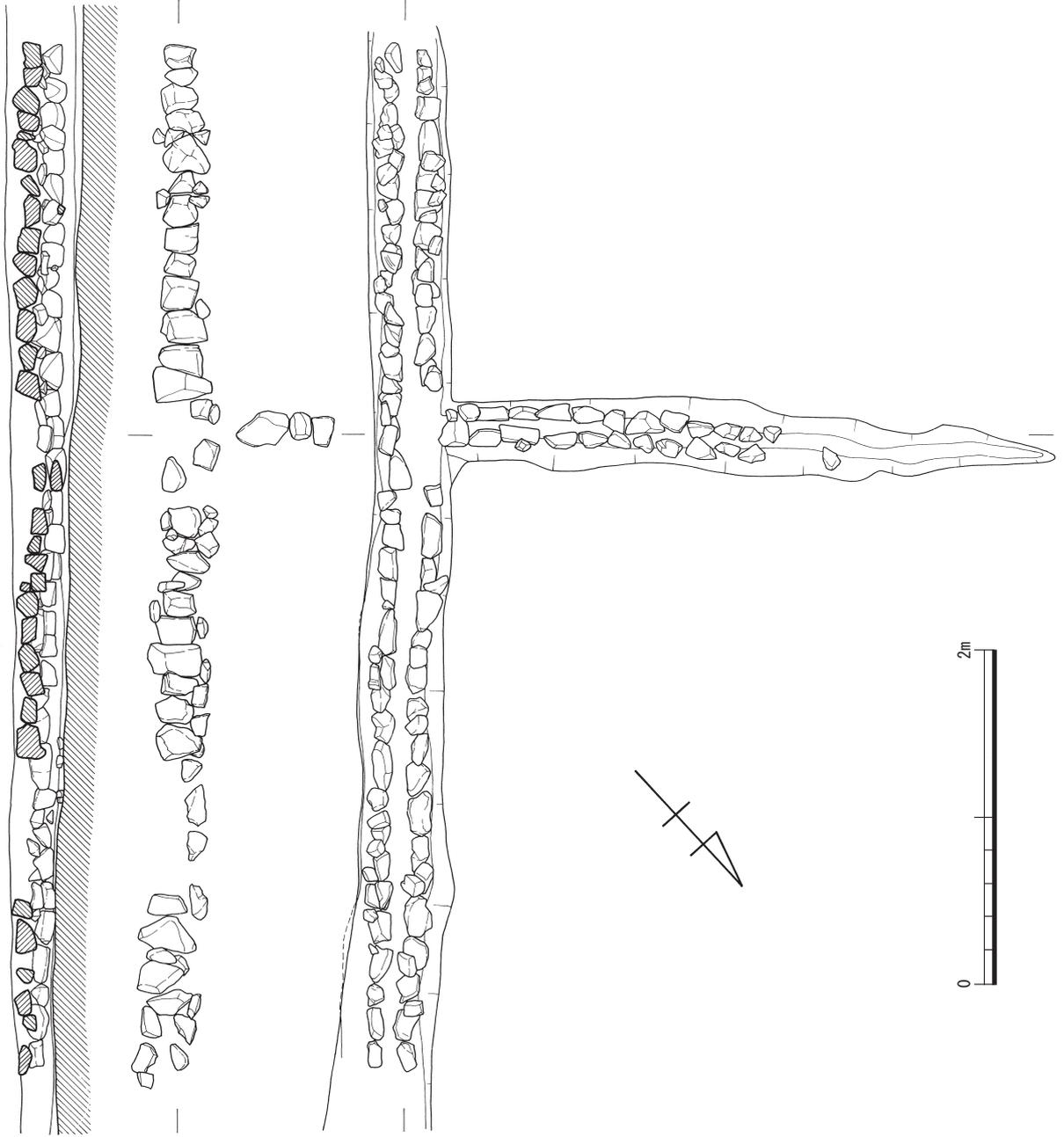


SD02

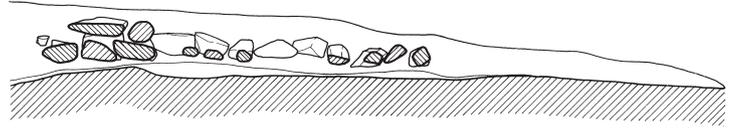


第20図 SD01・02出土遺物実測図（1/3）

28.40m



28.40m



第21図 暗渠実測図 (1/40)

(5) 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構(第22図、図版3)

方形の竪穴に4本の柱穴が検出された。竪穴の規模は2.22×1.94mを測る。柱穴の芯芯距離は74～124cmを測る。遺物は須恵器、土師器、瓦器などが出土した。

出土遺物(第23図、図版16)

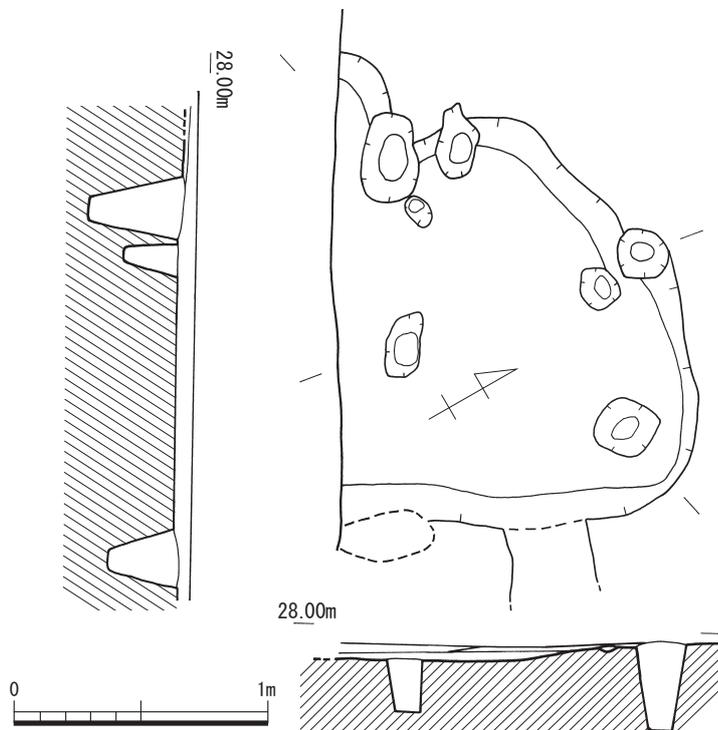
須恵器(165～167) 167は東播系鉢の口縁部付近の小片。外面に横ナデ、内面にナデを施す。

土師器(168～177) 磨滅のため確認できない170以外は、底部を回転糸切りする。168、171、174、176にはさらに板状圧痕が認められる。

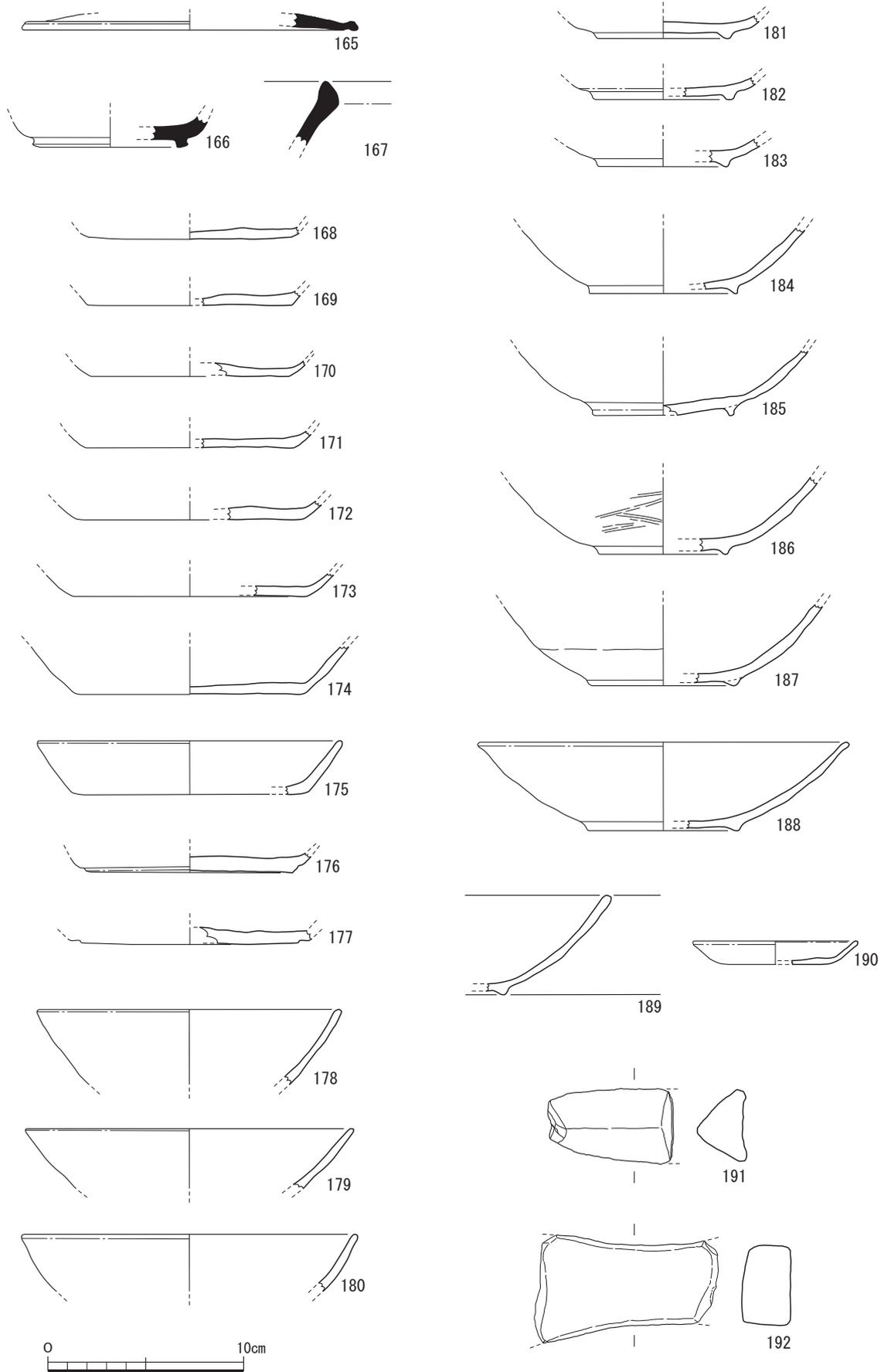
瓦器(178～190) 178～189は椀。内外面とも磨滅のため調整不明の物が多いが、183の内面にはミガキのような痕跡が認められる。また、184の外面には押出し、186の内外面にはミガキ、189の外面には横ナデが認められる。190は小皿で、底部を回転糸切りした後横ナデし、内面には横ナデと不定方向のナデを施す。

土製品(191) 残存長6.3cm、断面三角形を呈する棒状土製品である。焼成は良好で、胎土中に多量の砂粒を含む。

石製品(192) 残存長9.3cmを測る砥石で、四面とも使用されている。



第22図 1号竪穴状遺構平・断面見通し図(1/30)



第23図 1号竖穴状遺構出土遺物実測図(1/3)

2号竪穴状遺構（第24図、図版3・4）

南半部が調査区外に伸びており、検出した限りでは歪んだ楕円を半裁したような平面形を呈し、規模は約1.5×2mを測る。壁は斜めに立ち上がり、床面までの最大深さは18cmを測る。床面で2本の柱穴が確認され、芯芯距離で1.1mである。埋土中から、須恵器、土師器、石製品、不明遺物が出土した。

出土遺物（第30図、図版16）

須恵器（193） 杯身の底部小片である。内面にナデを施す。

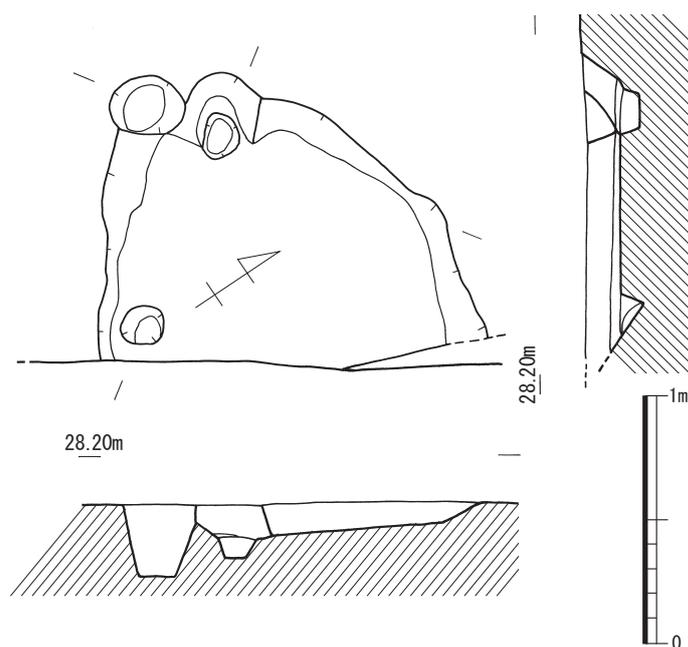
土師器（194～201） 194～197は小皿。194、196、197は底部を回転糸切りし、194はさらに板状圧痕が認められる。196の底部は糸切りである。198～201は杯。198、199、200は底部を回転糸切りし、198はさらに板状圧痕が認められる。201は内外面とも磨滅のため調整不明。

石製品（202） 残存長7.4cmの砥石である。四面とも使用されている。

不明遺物（203） 粘土を焼いたようなものであるが、本来の形状・用途ともに不明である。中心に穴があり、環状を呈したものか。胎土中に多量の砂粒を含み、二次焼成を受け赤変している。

3号竪穴状遺構（第25図、図版4）

調査区南部で全体を検出することができた。やや歪んだ隅丸正方形に近い平面形を呈し、一辺1.7～2.4mを測る。壁は斜めに立ち上がり、床面は東に傾斜する。床面までの最大深さは20cmを測る。床面で4本の柱穴が確認され、芯芯距離で1.07～1.3mを測る。埋土中から須恵器と瓦器の小片が出土した。



第24図 2号竪穴状遺構平・断面見通し図（1/30）

出土遺物（第30図）

須恵器（204）甕の口縁部小片である。外面に断面M字の突帯が付く。調整は内外面とも横ナデ、外面にカキメが認められる。

瓦器（205、206）椀の底部小片である。外面に横ナデ、内面にナデを施す。

4号竪穴状遺構（第26図）

北端部のみ検出され、さらに西辺が攪乱により破壊されている。検出した限りでは1.7×0.76mを測る。壁は斜めに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。床面までの最大深さは11cmを測り、床面で1本の柱穴が確認された。埋土中から須恵器と瓦器の小片が出土した。

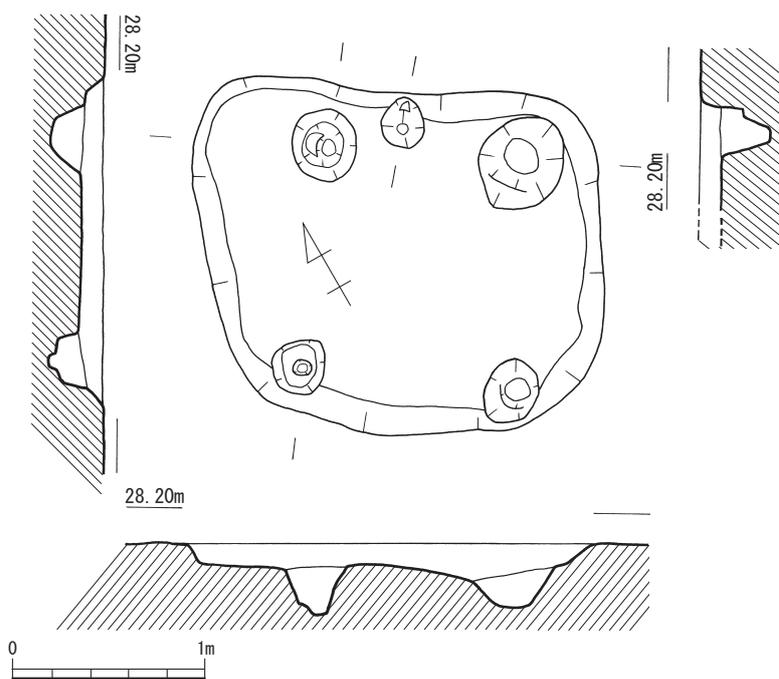
出土遺物（第30図）

須恵器（207）高杯の口縁部小片である。内外面ともに横ナデを施す。

瓦器（208～210）208は椀の口縁部から体部下位にかけての残存。外面にミガキを施すが、内面は磨滅のため調整不明。209、210は椀の底部小片で、209の底部外面にナデが認められるほかは磨滅のため調整不明。

5号竪穴状遺構（第27図、図版4）

北西部を大きく攪乱によって失っており、検出された限りでは不整形な長楕円形を呈する。南側は壁が緩やかに立ち上がり、床面は北に傾斜する。最大深さは検出面から46cmを測る。また、柱穴の可能性あるピットが1基検出された。北側は対照的に壁と床の境も判然としない状態で、最大



第25図 3号竪穴状遺構平・断面見通し図（1/40）

深さは約4cmである。また、床面からはピットなどは検出されなかった。遺物は、埋土中から主に須恵器が出土した。

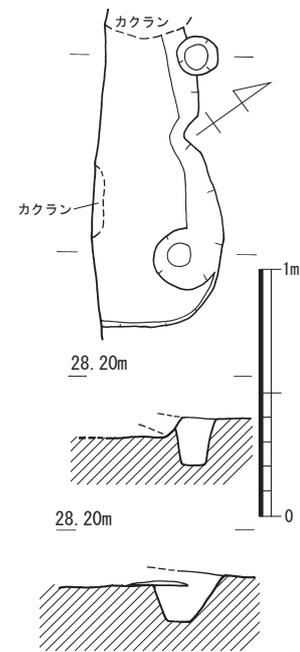
出土遺物（第30図、図版16）

須恵器（211～214、216） 211は杯蓋。天井部外面を回転ヘラケズリし、その他の部分には回転ナデ、ナデを施す。212、213は杯身。いずれも底部外面をヘラ切り後ナデ、その他の部分に回転ナデ、ナデを施す。214は高杯の脚端部。内外面とも横ナデ。216は甕の口縁部から肩部にかけての残存。口縁部外面に粘土帯を貼り付ける。体部外面には平行タタキ、内面には同心円状当て具痕が認められる。

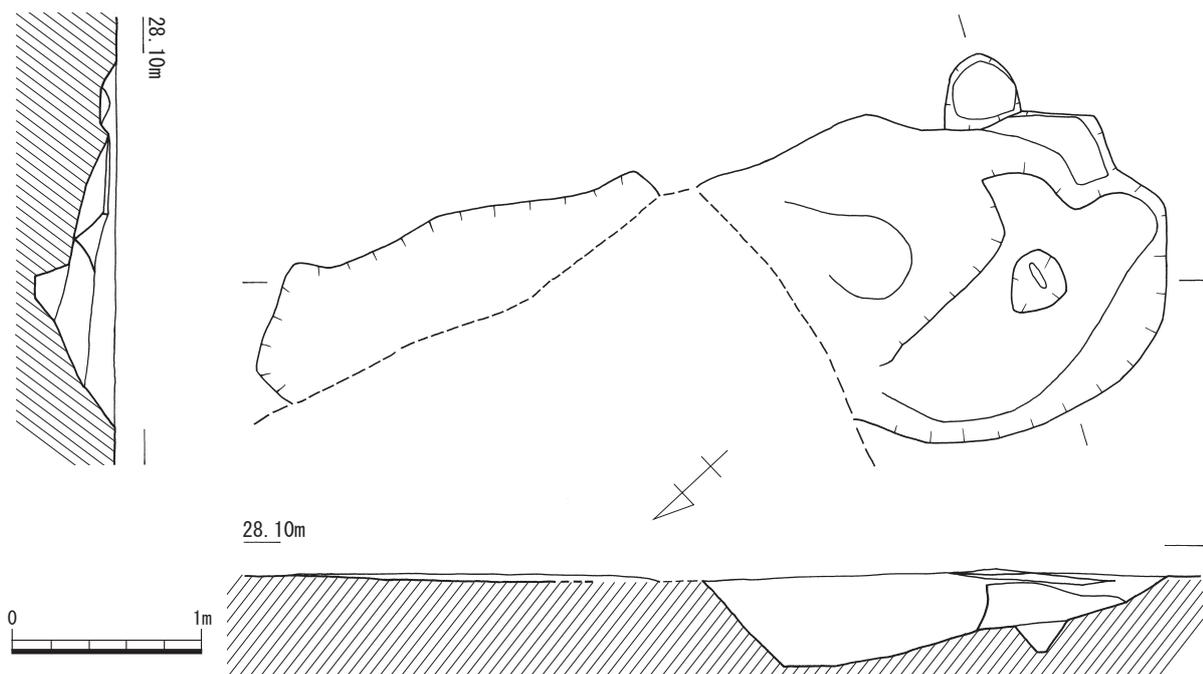
土師器（215、217～220） 218は底部外面回転ヘラ切り後ナデ、高台を貼り付ける。220は回転ナデを施し、高台を貼り付ける。

6号竪穴状遺構（第28図）

北西部を別の遺構によって切られているが、その部分を補ってみると、本来はほぼ正方形に近い隅丸の方形を呈したものと考えられる。検出した限りでは3.7×3.1mを測る。床面はほぼ平坦であるが、全体的に東側に傾斜している。壁は緩やかに立ち上がり、最大深さは約9cmを測る。東隅付近でベッド状遺構が検出されたほか、床面から柱穴と思われるピットが2基検出された。床面からの深さは、約19cmと約31cmである。遺物は、埋土中から主に須恵器が出土した。



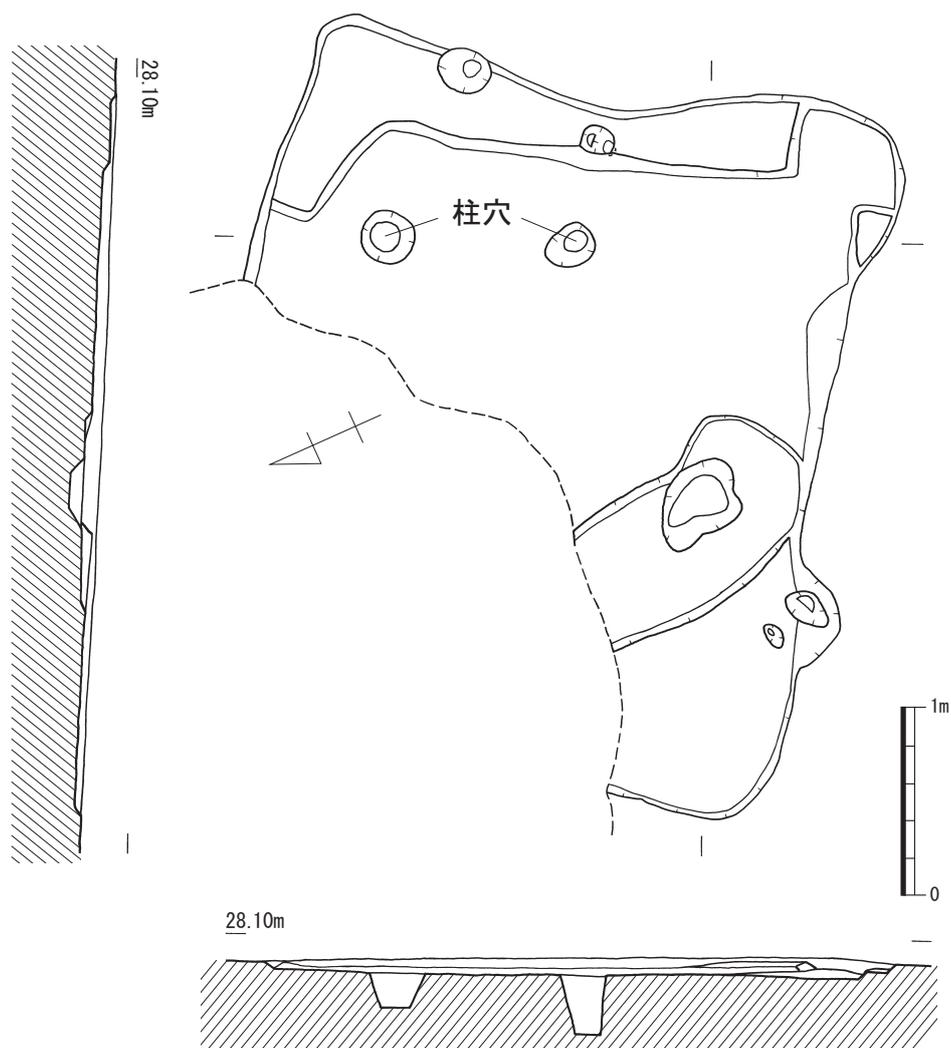
第26図 4号竪穴状遺構平・断面見通し図（1/30）



第27図 5号竪穴状遺構平・断面見通し図（1/40）

出土遺物（第31図）

須恵器（221～226）221、222は杯蓋。いずれも内外面とも回転ナデを施す。221の口縁部と体部の間には稜線が観察できる。222には若干の降灰が認められる。223～225は杯身。223、224は内外面ともに回転ナデを施す。225は内外面に回転ナデとナデを施し、外面に降灰が著しい部分がある。226は甕の頸部下位から体部上位にかけての破片で、内外面に一部降灰が認められる。



第28図 6号竪穴状遺構平・断面見通し図（1/40）



第29図 7号竖穴状遺構平・断面見通し図 (1/40)

7号竖穴状遺構 (第29図)

東西に長い不整形を呈し、削平のためか立ち上がりが消滅している部分がある。検出された限りでは長軸×短軸で約4×約2.7mを測る。床面はほぼ平坦で、最大深さは約9cm。床面からは複数のピットが検出されたが、柱穴を特定するには至らなかった。壁は緩やかに立ち上がる。遺物は、埋土中から須恵器、土師器などが出土した。

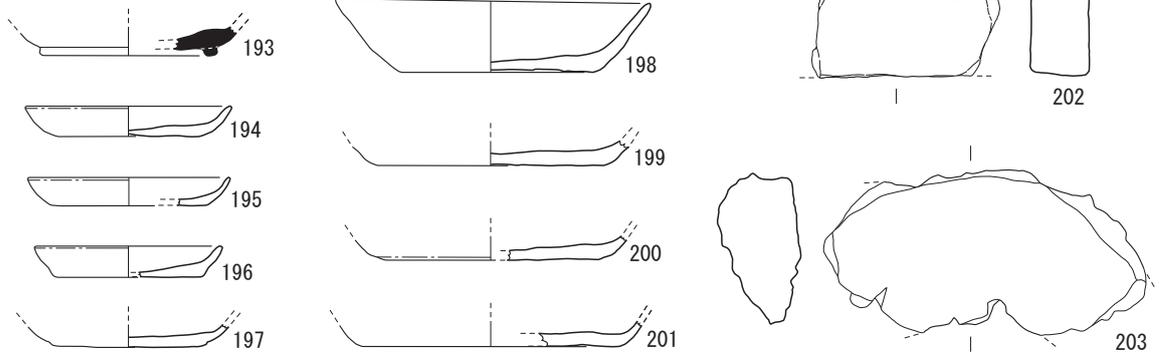
出土遺物 (第31図)

須恵器 (227~231) 227は杯蓋で、天井部外面をヘラケズリする。他の部分は回転ナデとナデ。内外面ともに降灰が認められる。228は杯身の底部小片。内外面とも横ナデとナデを施す。230は壺の口頸部で、回転ナデとナデを施す。外面にはヘラ記号がある。231は東播系の鉢か。内外面ともに回転ナデを施す。

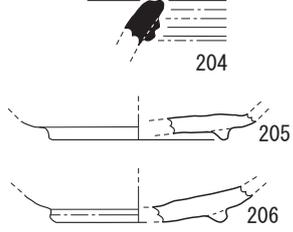
土師器 (232) 復元口径10.2cmの小皿。底部は糸切りで、内外面ともナデを施す。

土師質土器 (233、234) 鍋の口縁部小片。いずれも外面にナデと刻目を施し、胎土中に大量の砂粒を含む。

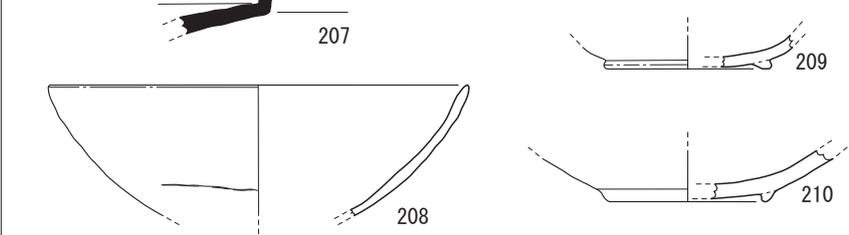
2号



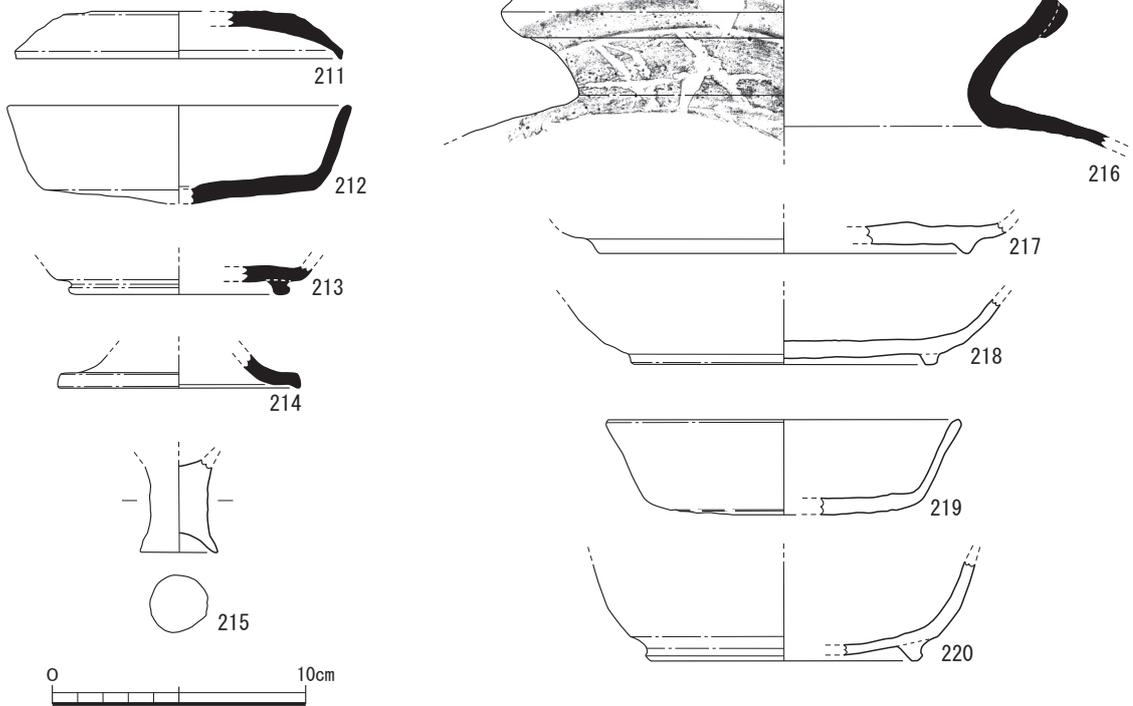
3号



4号

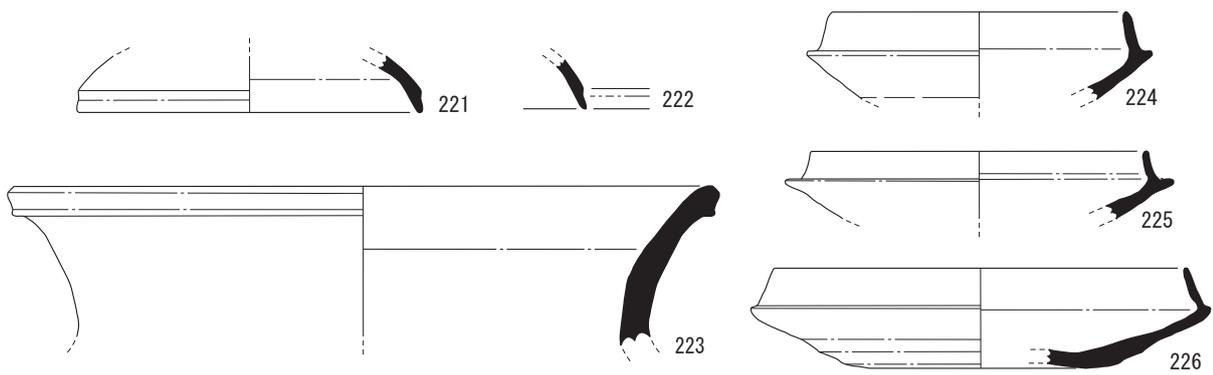


5号

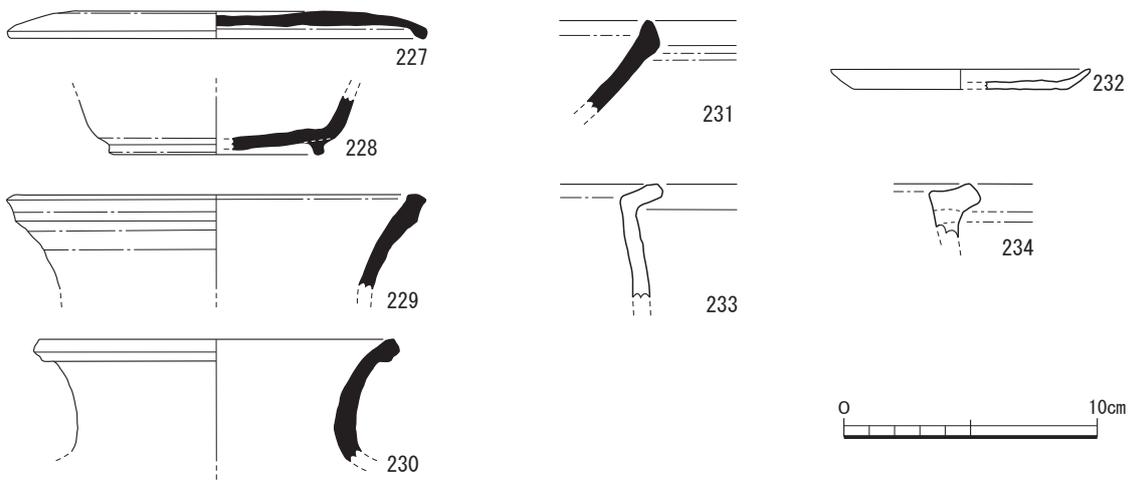


第30图 2~5号竖穴状遺構出土遺物実測図 (1/3)

6号



7号



第31图 6、7号竖穴状遺構出土遺物実測図 (1/3)

(6) 不整形遺構 (SX)

SX01 (第32図)

溝が連なったような平面形を呈する。検出された限りでは2.45×1.2mを測る。床面はほぼ平坦で、最大深さは約10cm。壁は緩やかに立ち上がる。遺物は、埋土中から土師器が出土した。

出土遺物 (第33図)

土師器 (235) 杯底部の小片である。内外面とも磨滅のため調整不明。

SX07 (第32図)

小型の土坑を連ねたような平面形を呈し、東部を他の遺構に切られている。1.7×1.0mを測り、床は凹凸が激しい。最大深さは40cmで、壁は垂直近くに立ち上がる。遺物は、埋土中から須恵器、瓦器などが出土した。

出土遺物 (第33図)

須恵器 (236) 杯蓋の小片である。内外面ともに回転ナデを施す。

瓦器 (237) 椀の底部小片である。外面にヘラで付けたような痕跡が認められる。

SX08 (第32図)

不整形の土坑を3基連ねて溝を付けたような平面形を呈する。溝部分まで含めた規模は2.12×1.46mを測る。床面は凹凸が激しく南側に傾斜している。壁は斜めに立ち上がり、最大深さは18cmを測る。埋土中から須恵器、土師器、瓦器などが出土した。

出土遺物 (第33図)

須恵器 (238) 杯蓋の端部小片である。内外面とも回転ナデを施す。

土師器 (239、241～243) 239は小皿。底部を糸切り後、内外面とも横ナデ。241～243は杯底部の小片。242は底部を糸切り後ナデか。

SX09 (第32図)

一部が突出したような楕円形を呈し、西辺の一部を別のピットに切られる。1.26×0.73mを測る。床面はほぼ平坦であるが、中央部に深さ23cmのピットがある。壁は緩やかに立ち上がる。遺物は、埋土中から瓦器が出土した。

出土遺物 (第33図)

瓦器 (244) 椀の底部小片である。胎土に多量の砂粒を含む。

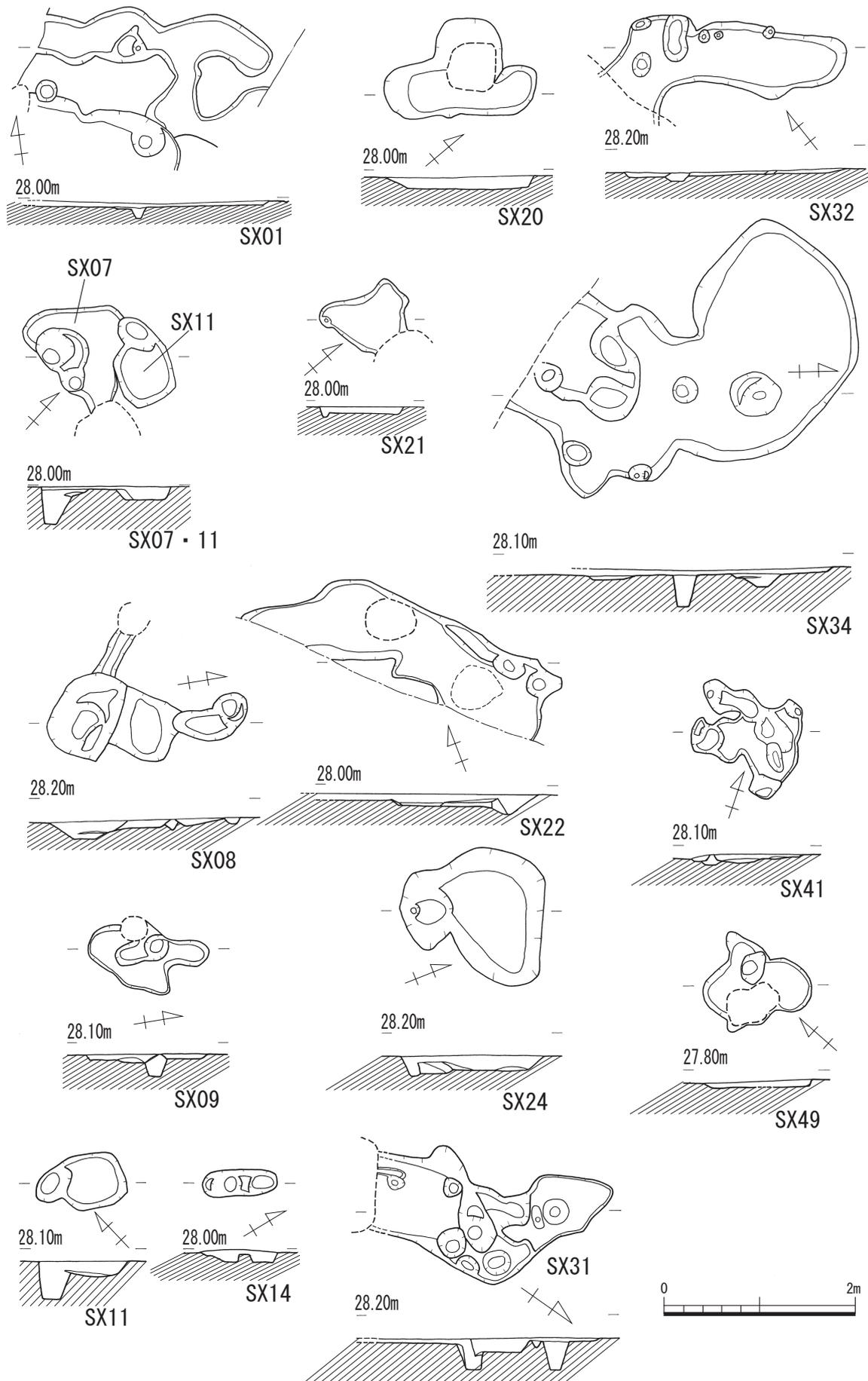
SX11 (第32図)

一部が歪んだ楕円形を呈する。98×59cmを測り、西辺で他の遺構を切っている。床面は緩やかなレンズ状を呈し、端部には深さ40cmのピットがある。壁は、このピット部分ではほぼ垂直に立ち上がるが、それ以外では緩やかである。遺物は、埋土中から須恵器、瓦器などが出土した。

出土遺物 (第33図)

須恵器 (245) 杯身の底部付近の小片である。回転ナデとナデを施す。高台底部が折り込んだような形状を呈する。

瓦器 (246) 底部を欠く。外面にミガキ、指頭圧痕、型押し、内面にはミガキを施す。



第32図 不整形土坑平・断面見通し図 (1/60)

SX14 (第32図)

細長い楕円形を呈し、80×27cmを測る。床は、深さ12cmの土坑を2基連ねたような様相を呈する。壁の立ち上がりは、一方は緩やかで、もう一方は垂直に近い。遺物は、埋土中から須恵器が出土した。

出土遺物 (第33図)

須恵器 (247) 杯身の口縁端部小片である。調整は回転ナデとナデ。外面に降灰と付着物が認められる。

SX20 (第32図)

「T」字を倒立させたような平面形を呈し、中央部を他のピットに切られている。162×103cmを測り、床面はほぼ平坦で最大深さは13cmである。床面からはピットなどは検出されなかった。壁は緩やかに立ち上がる。遺物は、埋土中から瓦器が出土した。

出土遺物 (第33図)

瓦器 (248) 底部付近の小破片である。外面に型押し、内面にはミガキを施す。

SX21 (第32図)

先端が欠損した柏文様（柏の葉をかたどった家紋）のような平面形を呈すると思われるが、東部分を他のピットに切られている。検出された限りでは1.02×0.53mを測り、最大深さは7cmである。床面はほぼ平坦で、ピットなどは検出されなかった。壁は斜めに立ち上がる。遺物は、埋土中から土師器が出土した。

出土遺物 (第33図)

土師器 (249) 底部付近の小破片である。内外面ともナデを施し、底部は糸切りか。胎土中に少量の砂粒を含む。

SX22 (第32図)

西半部が調査区外に伸びているが、本来は一方の短辺が楕円形になった長方形を呈するものと思われる。検出した限りでは3.33×0.9mを測る。床はピットやテラスによる凹凸があり、やや複雑な様相を呈する。また、全体的に北西から南東方向に傾いており最も深い部分で検出面から22cmを測る。遺物は、埋土中から須恵器が出土した。

出土遺物 (第33図)

須恵器 (250) 底部付近の小破片である。外面に回転ナデ、内面にナデを施す。高台接地面に灰のような付着物が認められる。

SX24 (第32図)

やや歪んだ楕円形の土坑を2基連ねたような平面形を呈する。規模は1.5×1.54mを測る。床面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。最大深さ21cmを測り、埋土中から須恵器、土師器などが出土した。

出土遺物 (第34図)

須恵器 (251～261) 251、252は杯蓋。251は天井部外面を回転ヘラケズリし、回転ナデを施す。252は内外面回転ナデ、内面にナデ。焼成不良である。253、254は皿。いずれも回転ナデ、ナデを

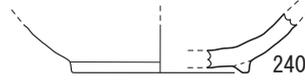
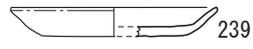
SX01



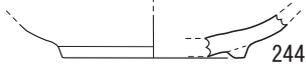
SX08



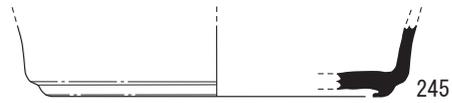
SX07



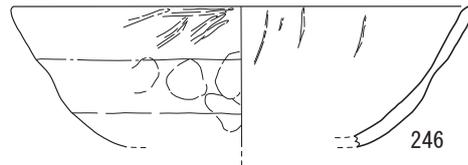
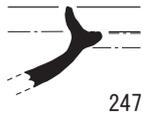
SX09



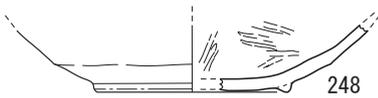
SX11



SX14



SX20



SX21



SX22



第33図 不整形土坑出土遺物実測図① (1/3)

施す。255～259は杯身底部付近の小片。いずれも回転ナデ、ナデを施す。260は鉢の底部か。底部外面をヘラ切り後ナデ、その他の部分には回転ナデ、ナデを施す。261は壺の口縁部小片。内外面とも回転ナデを施す。

土師器（262～264） いずれも甕の口縁部小破片である。調整は、262が外面横ナデ、ハケメ後ナデ、内面ハケメ後横ナデ。263が内外面ナデ、外面に粗いハケメ。264は磨滅のため不明。

SX31（第32図）

南側を他の遺構に切られているが、「く」の字を逆にしたような平面形を呈し、検出された限りでは、2.5×1.56mを測る。床面はほぼ平坦であるが、多くのピットが検出された。壁はきわめて緩やかに立ち上がり、最大深さ34cmを測る。埋土中から土師器、瓦器などが出土した。

出土遺物（第34図）

土師器（265～267） いずれも杯で、底部を糸切りする。

瓦器（268） 椀の口縁部付近の小片。内面にミガキ、外面に指頭圧痕が認められる。

SX32（第32図）

西側を他の遺構に切られているが、「く」の字に似た平面形を呈し、検出された限りでは2.54×0.76mを測る。床面は平坦で、4基のピットが検出された。壁はきわめて緩やかに立ち上がり、最大深さ8cmを測る。埋土中から土師器、瓦器、土製品などが出土した。

出土遺物（第34図）

土師器（269～276・278～281） 269、270は杯で、底部を糸切りし、内外面ともナデる。272と274には板状圧痕が認められる。276は小皿。底部を糸切りし、内外面ともナデる。278～281は杯。278～280は底部糸切り後回転ナデ、ナデを施す。281には板状圧痕が認められる。

白磁（277） 椀の底部の小片である。内外面とも施釉するが、内面は一部で釉をかき取っている。

瓦器（282～285） 282～285は椀。282、283は外面にナデ、内面にミガキを施す。284は内外面にミガキ、外面に型押し。285は内外面にミガキ、外面に回転ナデ、内面には工具痕が認められる。

土製品（286） 残存長16.3cmの棒状土製品である。指で握った部分が磨滅したか。

SX34（第32図）

南側が調査区外に延びている。不整形な楕円を途中で折り曲げたような平面形を呈し、検出された限りでは3.76×2.24mを測る。床面は平坦で、4基のピットが検出された。最も深いもので34cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、最大深さは6cmである。埋土中から瓦器などが出土した。

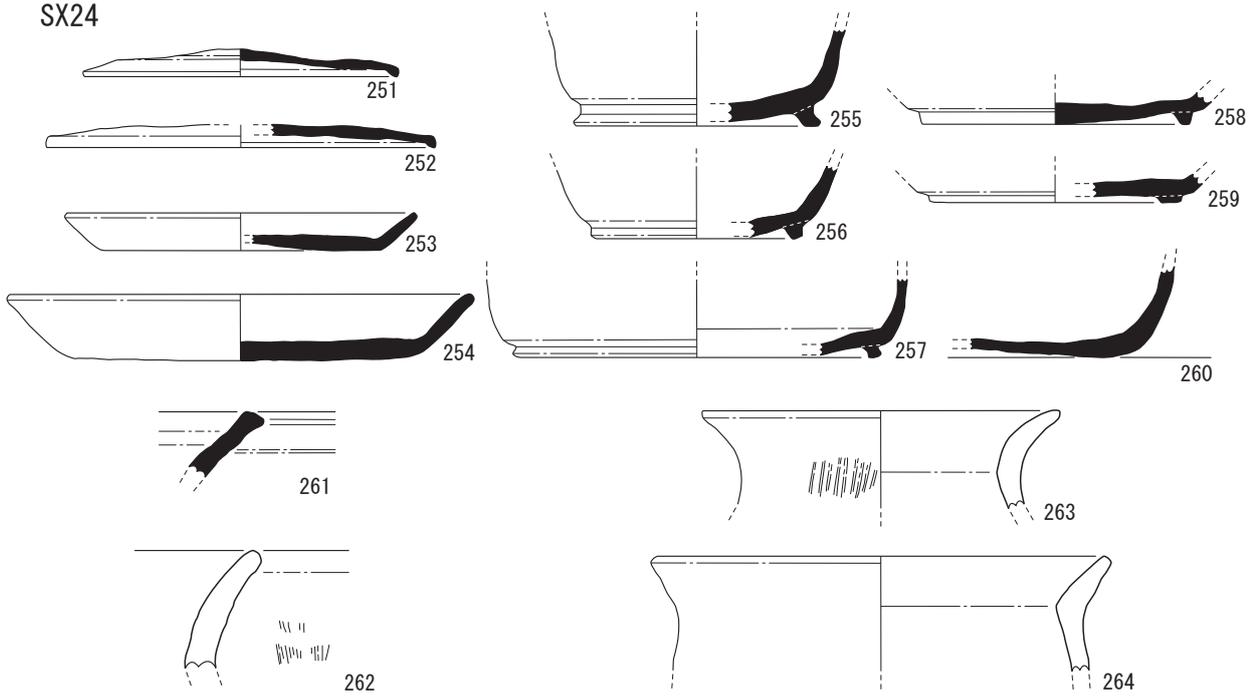
出土遺物（第35図）

瓦器（287～291） すべて椀である。287、288は内面ミガキ、外面ナデ。290は全体を復元できたもの。外面にミガキ、型押し、指頭圧痕が認められ、内面はミガキ。291は外面に型押しが認められるが、内面は磨滅のため調整不明。

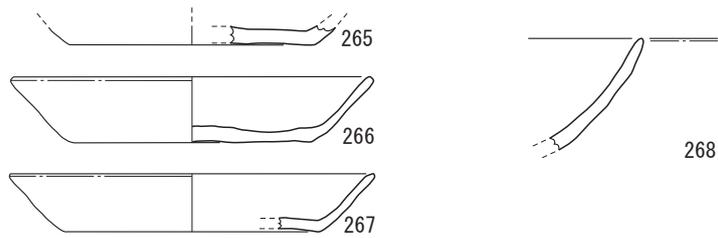
SX41（第32図）

不整形を呈し、1.42×1.02mを測る。床面はピットとテラスで複雑な様相を呈する。全体的に東から西に向かって深くなっており、最も深い場所で検出面から11cmを測る。遺物は、埋土中から青磁が出土した。

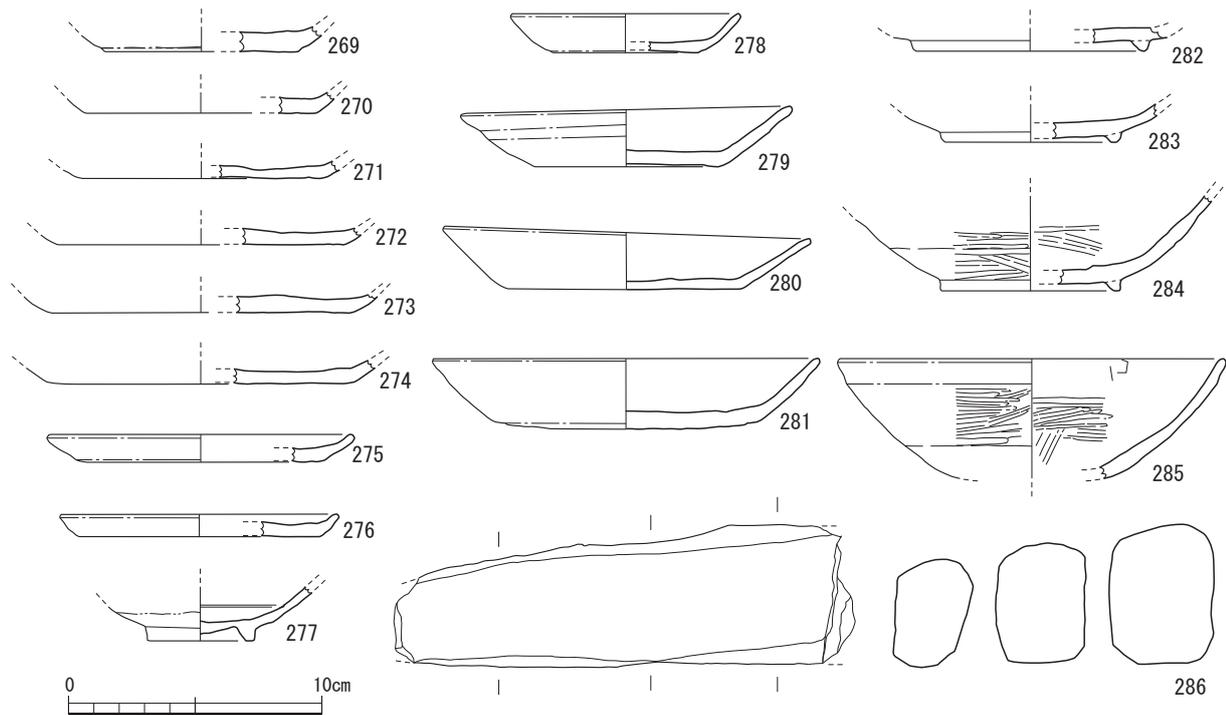
SX24



SX31

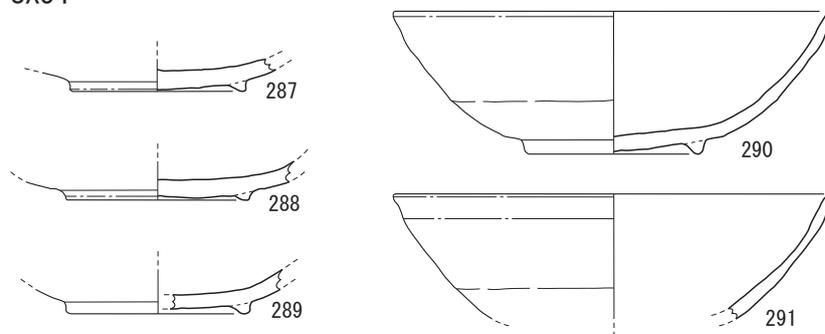


SX32

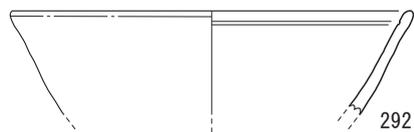


第34図 不整形土坑出土遺物実測図② (1/3)

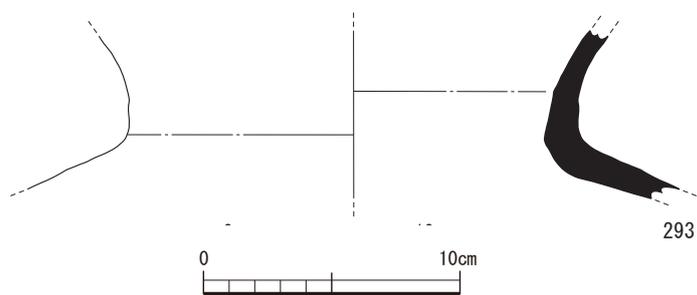
SX34



SX41



SX49



第35図 不整形土坑出土遺物実測図③ (1/3)

出土遺物（第35図）

青磁（292）碗の口縁部から体部低位にかけての破片である。胎土は精良で焼成も良好である。内外面とも施釉し、口縁部内面に一条の沈線がめぐる。

SX49（第32図）

2ヶ所が突出したような楕円形を呈し、他のピット2基に切られる。床面はほぼ平坦であるが、東から西にやや傾いている。最大深さは8cmを測る。

出土遺物（第35図）

須恵器（293）口頸部下位付近の破片である。外面にはタタキ、内面には当具痕が認められる。内外面とも一部に降灰が認められる。

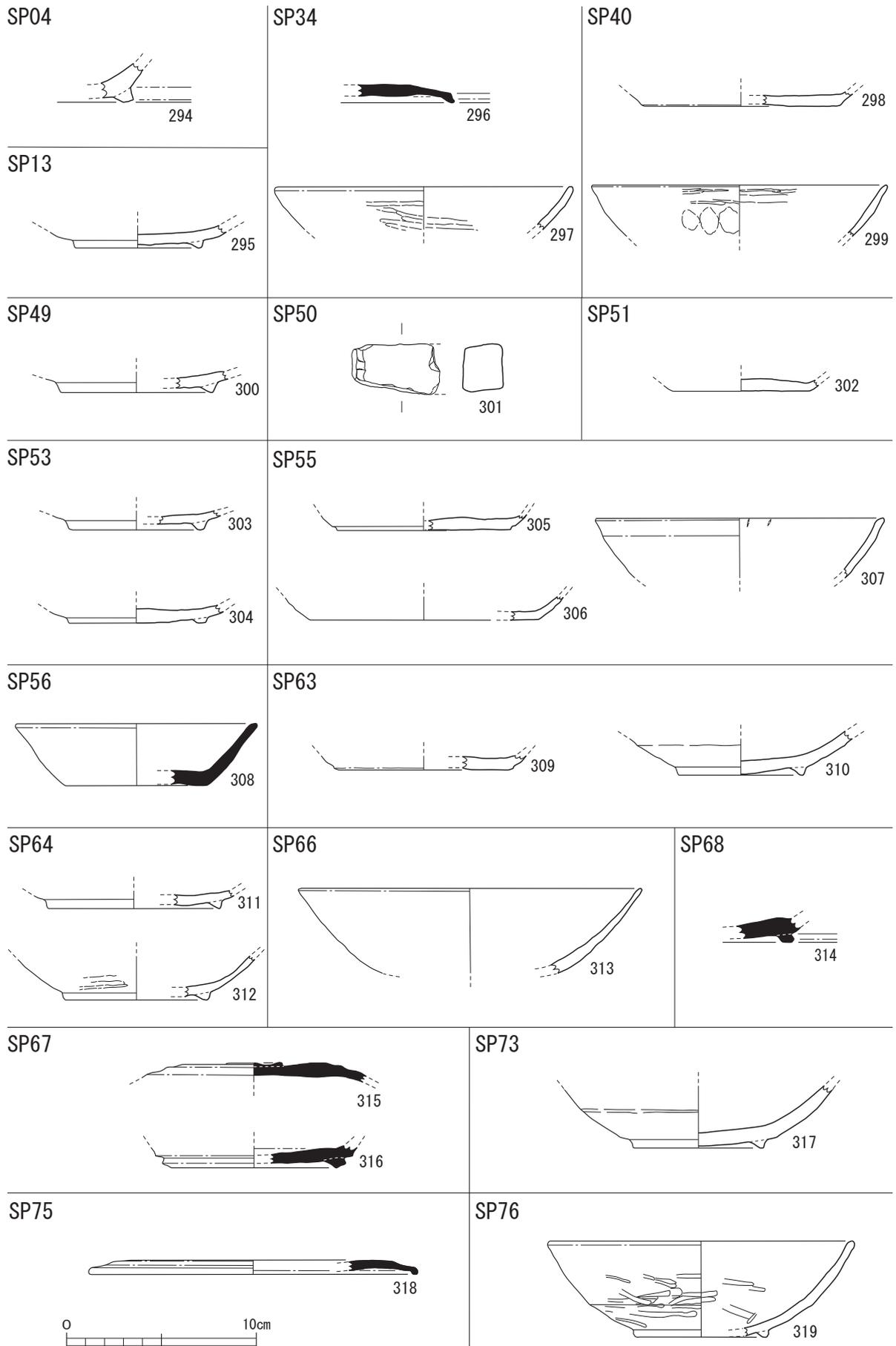
（7）その他の遺物

ピット出土遺物（第36～39図）

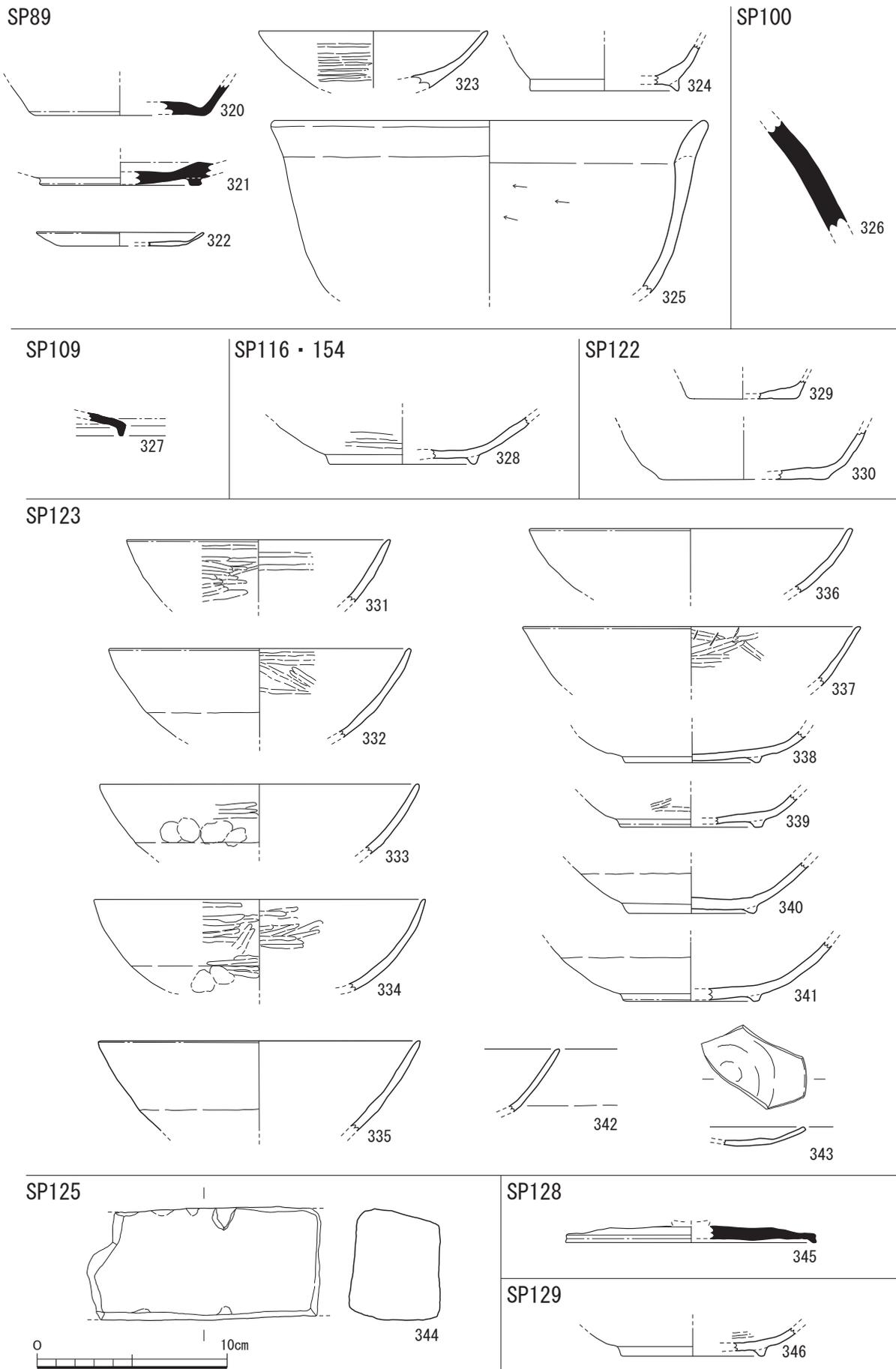
301、344、375は棒状土製品である。301は残存長4.6cmを測る。胎土中に少量の砂粒を含み、調整は磨滅のため不明。344は残存長12.2cmを測る。胎土中に多量の砂粒を含み、調整は磨滅のため不明。375は残存長10.1cmを測る。胎土中に多量の砂粒を含み、調整は磨滅のため不明。353、357、387は須恵器である。353は甕の頸部の破片である。内外面とも回転ナデを施し、外面には波状文が認められる。焼成は良好だが、胎土中に少量の砂粒が含まれる。357、387は高杯である。357は脚部が完全に失われているが、復元口径15cmを測る。内外面とも回転ナデを施し、胎土は精良で焼成も良好である。387は杯部の口縁部の小破片で、内外面とも回転ナデを施す。319は瓦器である。319は碗で、底部の一部を欠くが口径は16cmに復元できる。内外面とも横ナデとミガキを施す。380は土師器杯で、底部を糸切り後、板状圧痕を加える。その他は内外面とも横ナデとナデを施す。325は土師器の甕で、体部と口頸部の境付近が肥厚する。外面は磨滅のため調整不明だが、内面にはナデとヘラケズリを施す。胎土中に多量の砂粒を含む。376は完形のスタンプ状石製品で、滑石性石鍋の転用品である。367は弥生土器で、甕の口縁部の小破片である。胎土中に砂粒を多量に含むが、焼成は良好である。388は龍泉窯系の青磁の碗である。内外面ともに施釉されており、胎土は精良で焼成も堅緻である。

遺物包含層出土遺物（第40～44図）

425、429は須恵器の杯身である。425の体部下位には不明瞭な稜線状のものが観察される。429の体部中位には沈線状のものがめぐる。いずれも金属器を意識したものであろうか。458は須恵器の甕である。内外面とも回転ナデを施す。外面にはこれに加えて沈線、浅い刺突文、波状文を施す。穿孔らしきものは観察できない。472は須恵器の器台脚部である。外面にカキメ後タタキを施す。長方形の透かしが施されている。463は須恵器の提瓶である。外面に縦横方向のカキメを施す。490は土師器の甕である。口縁部は内外面ともナデで仕上げる。502は青磁の皿である。内外面ともに露胎の部分がある。503は安山岩製の磨製石斧である。504は丸瓦である。外面にタタキ、内面には布目が認められる。

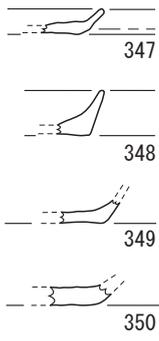


第36図 ピット出土遺物実測図① (1/3)

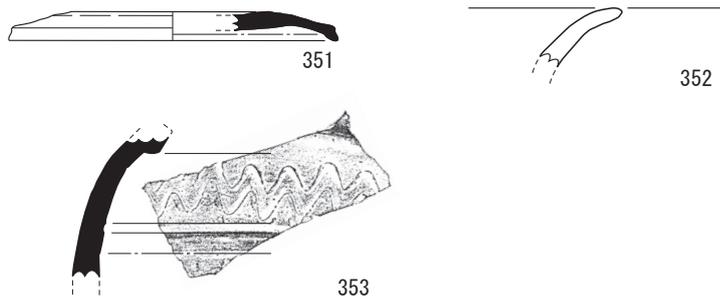


第37図 ピット出土遺物実測図② (1/3)

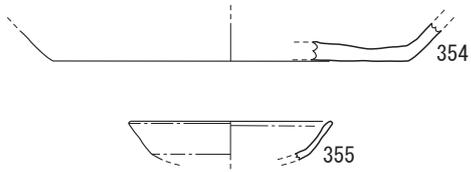
SP126



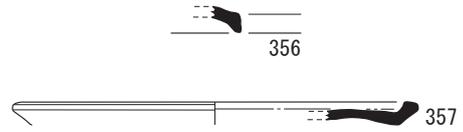
SP133



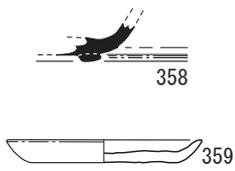
SP135



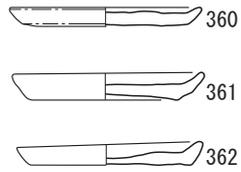
SP147



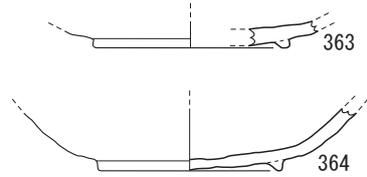
SP157



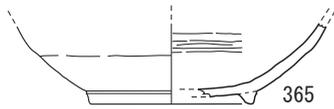
SP159



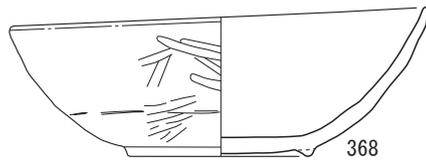
SP162



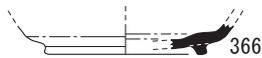
SP164



SP188



SP184



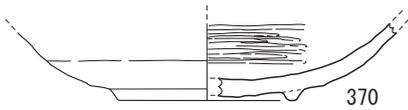
SP185



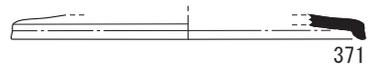
SP189



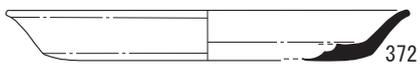
SP190



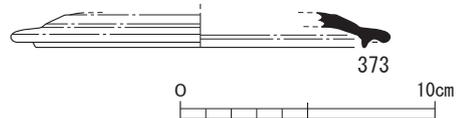
SP191



SP197



SP207

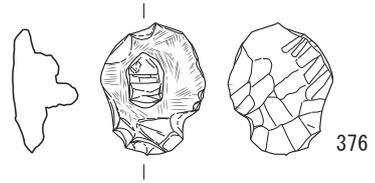


第38図 ピット出土遺物実測図③ (1/3)

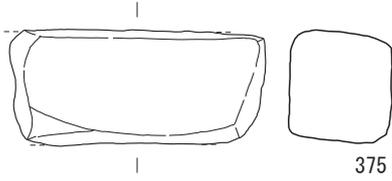
SP230



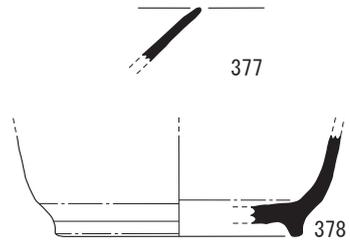
SP237



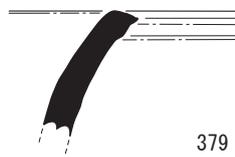
SP231



SP243



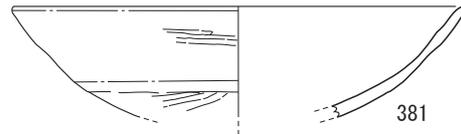
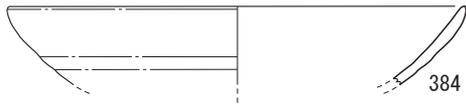
SP248



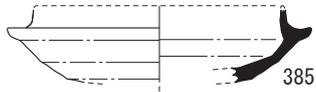
SP253



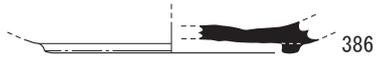
SP265



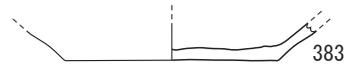
SP281



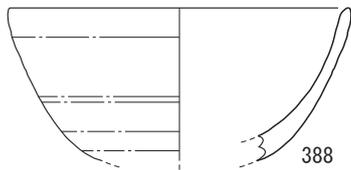
SP282



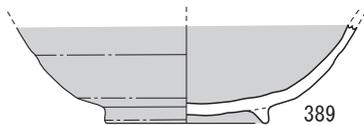
SP283



SP296



SP297



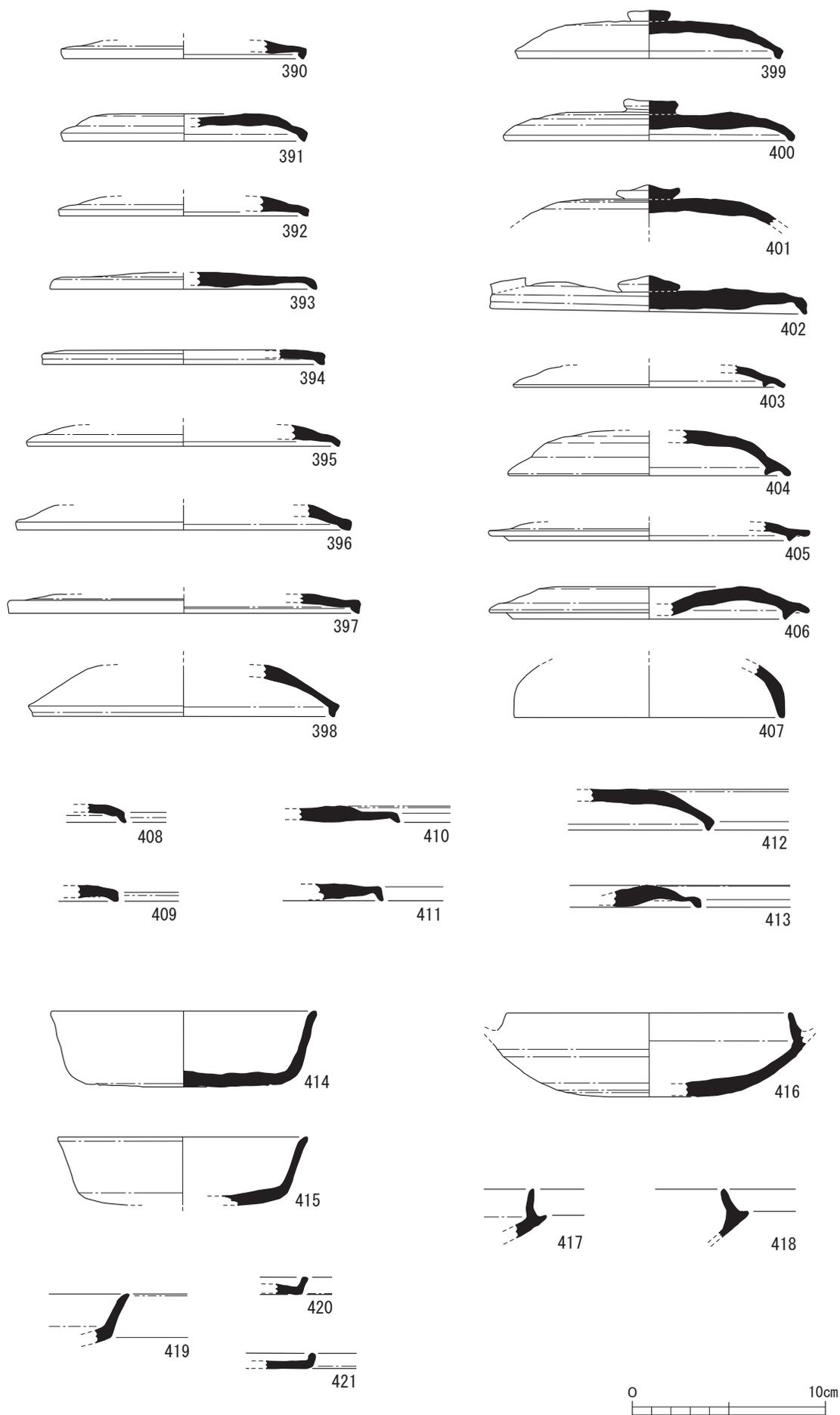
第39図 ピット出土遺物実測図④ (1/3)

遺構検出面他出土遺物（第45図）

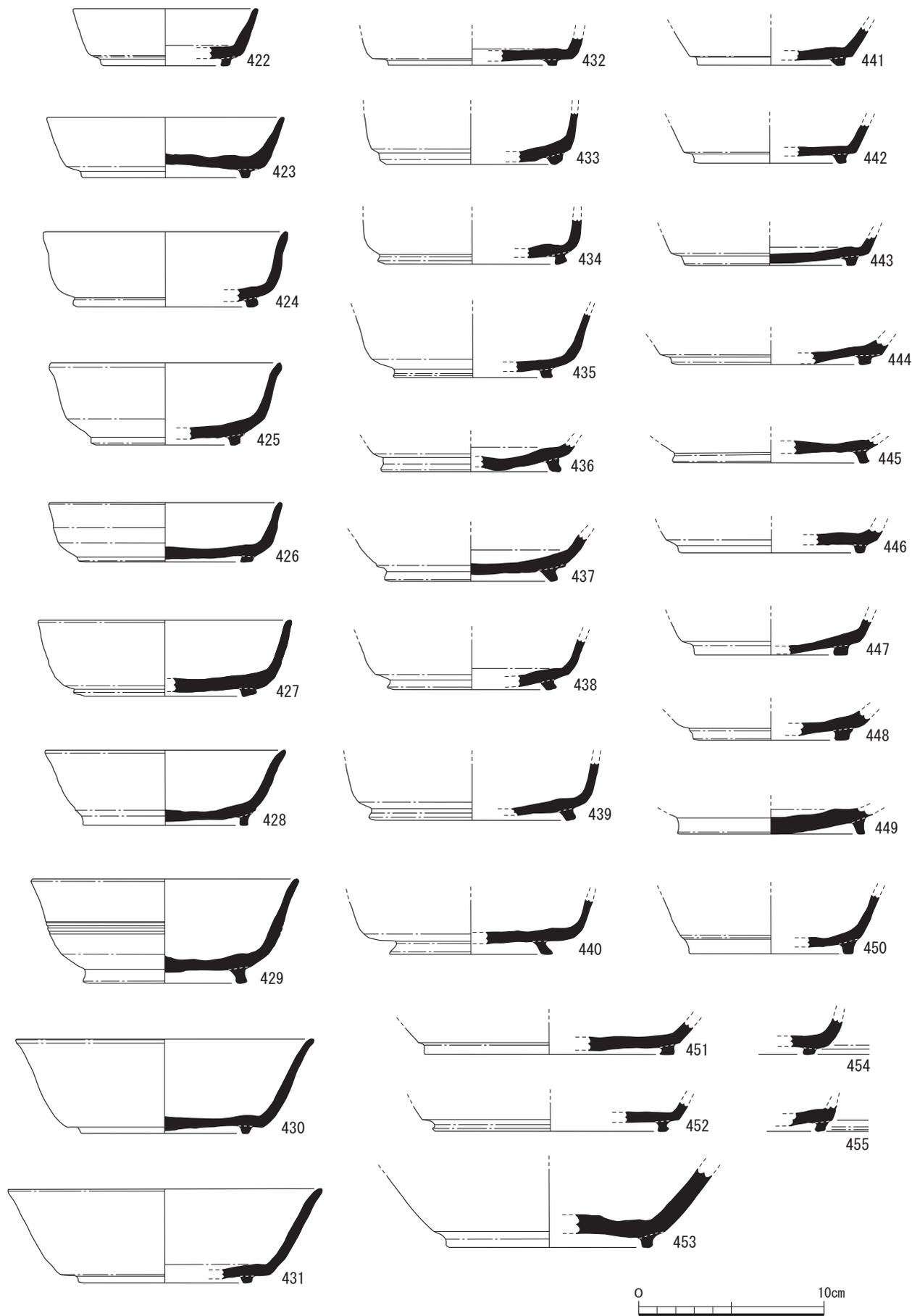
515は陶器の甕である。口縁部外面に降灰が認められる。523は青磁の皿である。底部を欠くが、内外面とも施釉されている。外面に1条の沈線がめぐる。524は染付の椀である。底部内面に「寿」の銘があるほか、内外面にそれぞれ1条の圈線がめぐる。底部周辺の小片だが、くらわんか茶碗と思われる。

石製品（第46図）

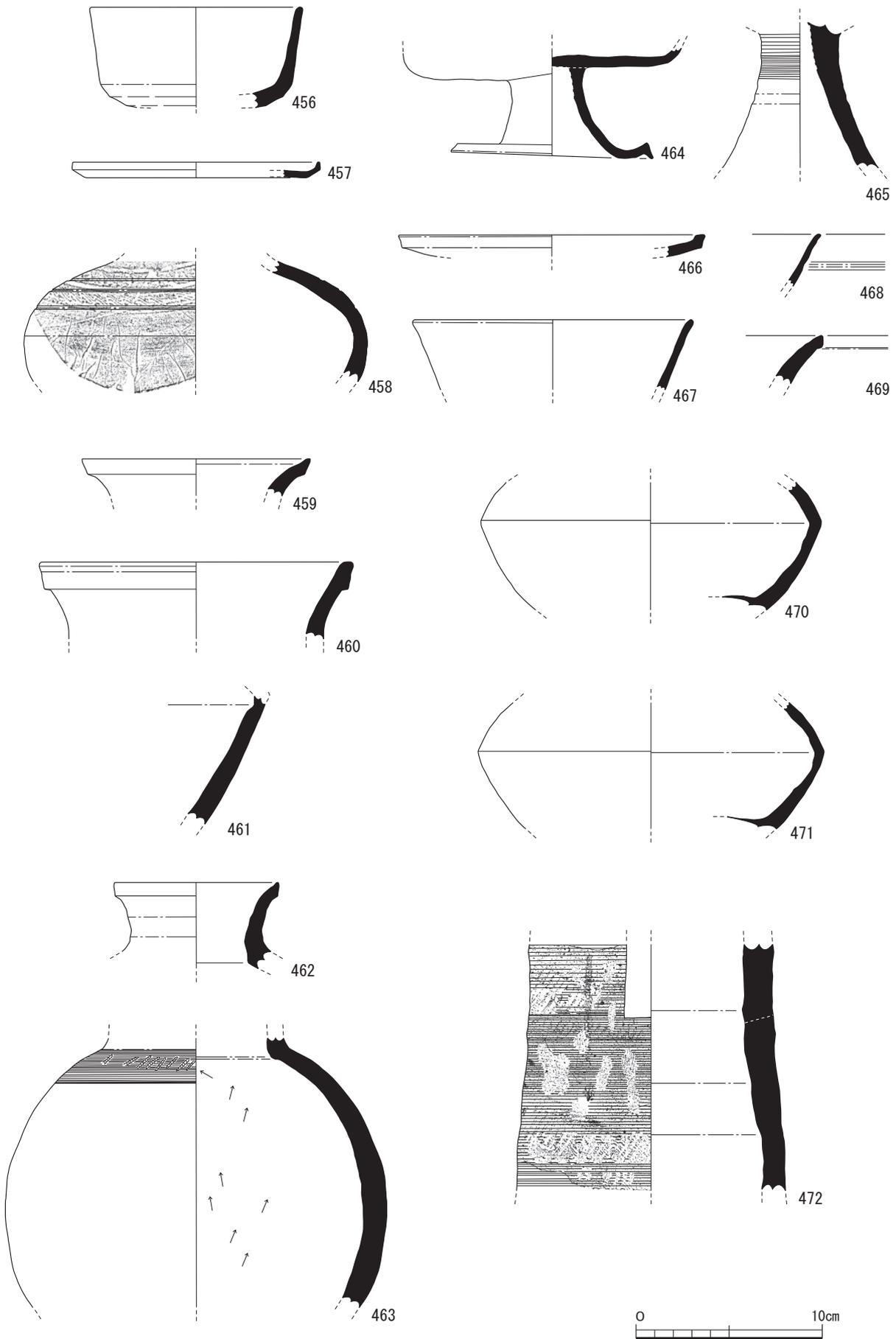
525～529は鍬。525、526は脚部を欠くが長脚鍬の可能性がある。527～529は抉りの浅いものである。530、531は磨製石斧。530はほぼ完形であるが、531は小片である。532・533はスクレイパーか。533は上部を欠損している。



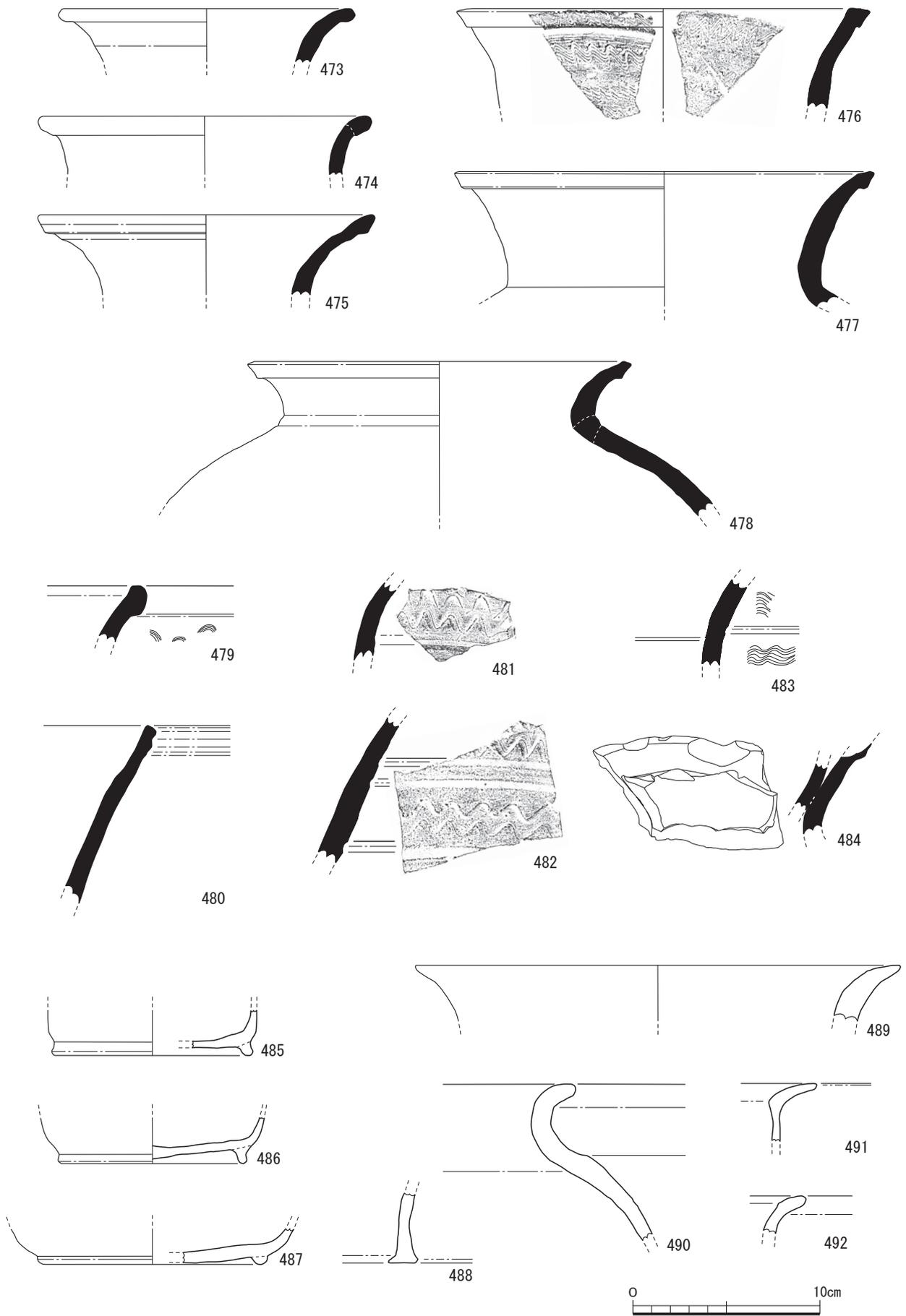
第40図 遺物包含層出土遺物実測図① (1/3)



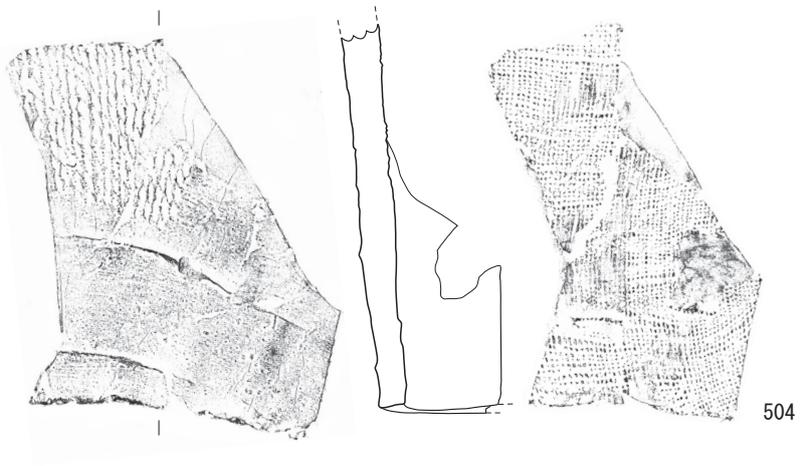
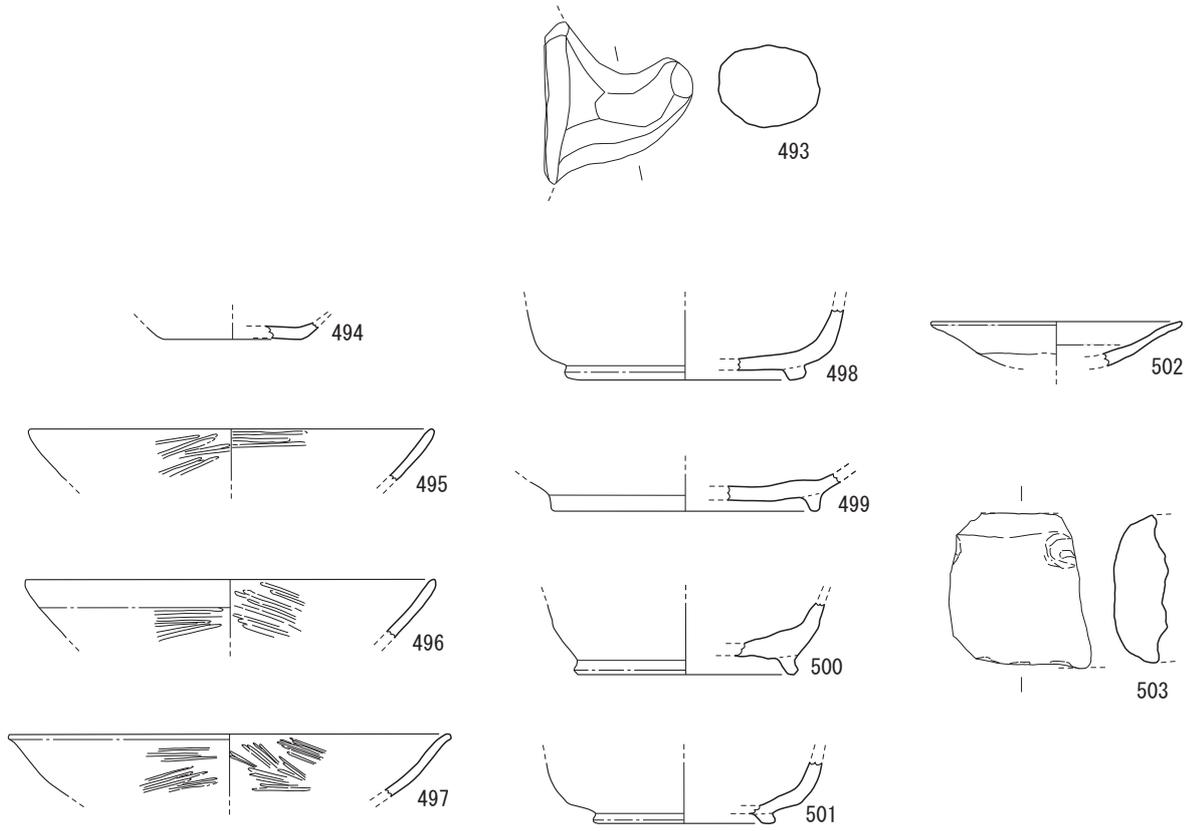
第41図 遺物包含層出土遺物実測図② (1/3)



第42図 遺物包含層出土遺物実測図③ (1/3)

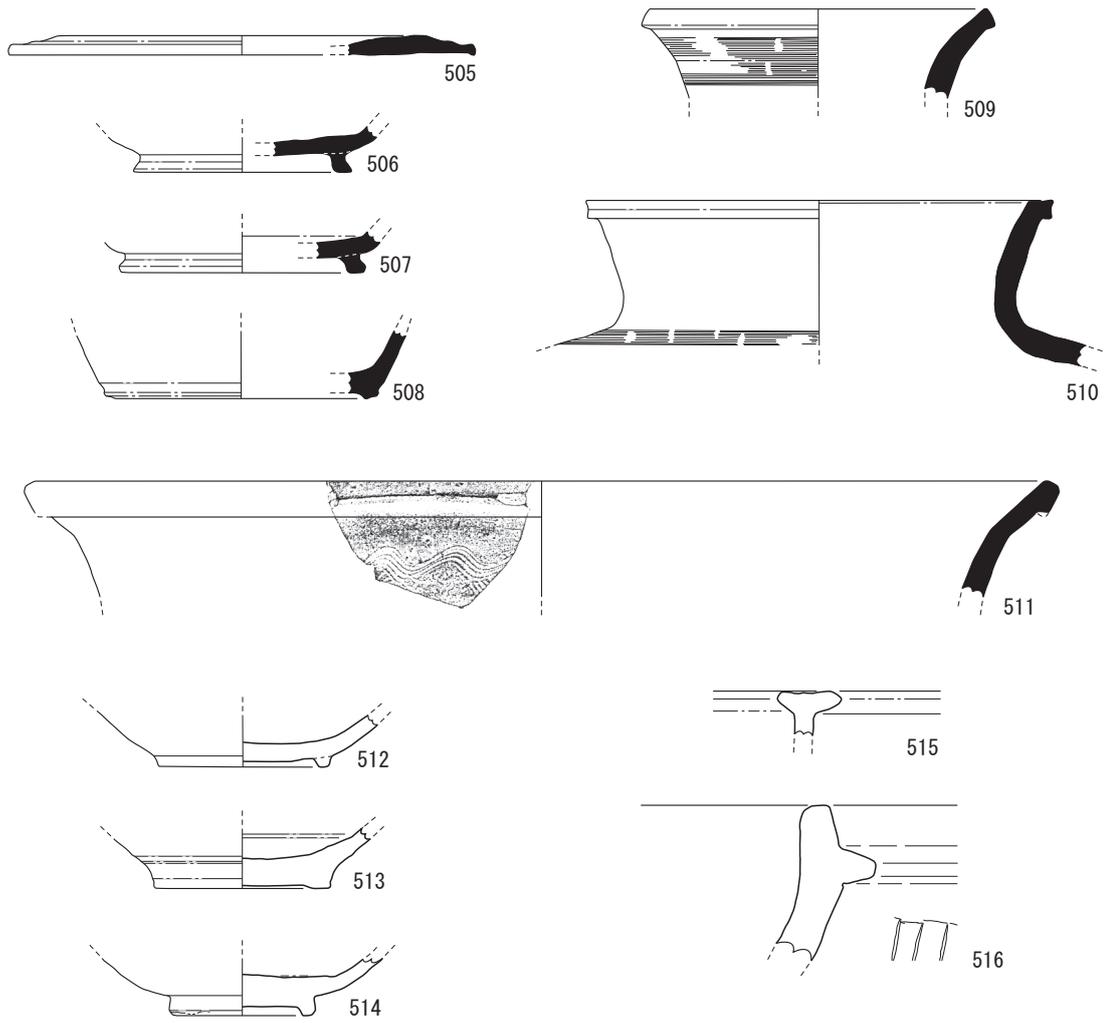


第43図 遺物包含層出土遺物実測図④ (1/3)

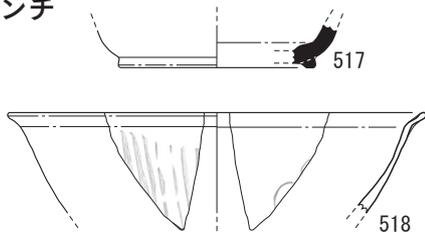


第44図 遺物包含層出土遺物実測図⑤ (1/3)

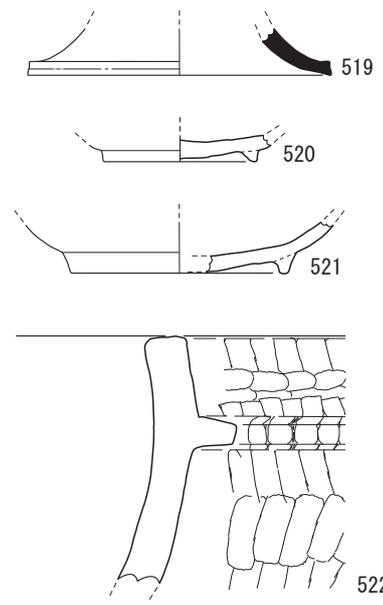
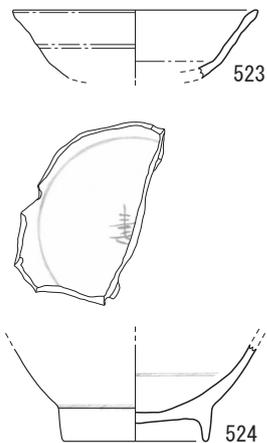
遺構検出面



試掘トレンチ



表採

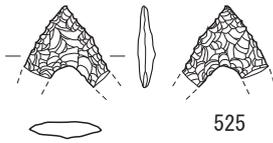


調査地内トレンチ

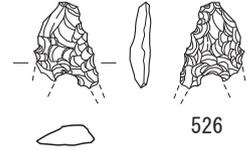


第45図 遺構検出面他出土遺物実測図 (1/3)

SK02

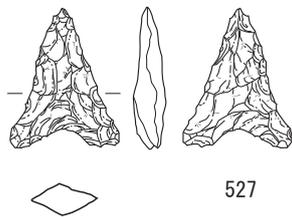


525



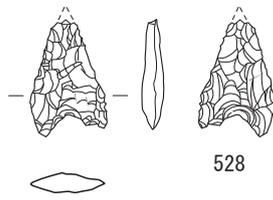
526

SX37



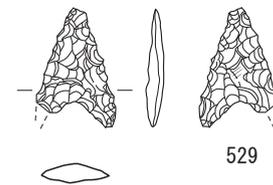
527

SX51



528

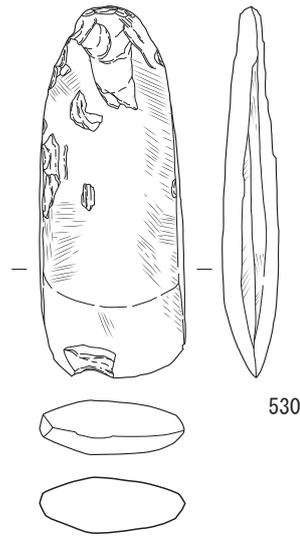
SP212



529



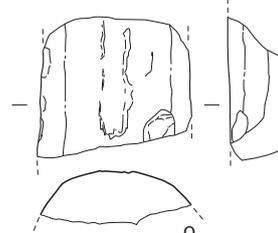
SX50



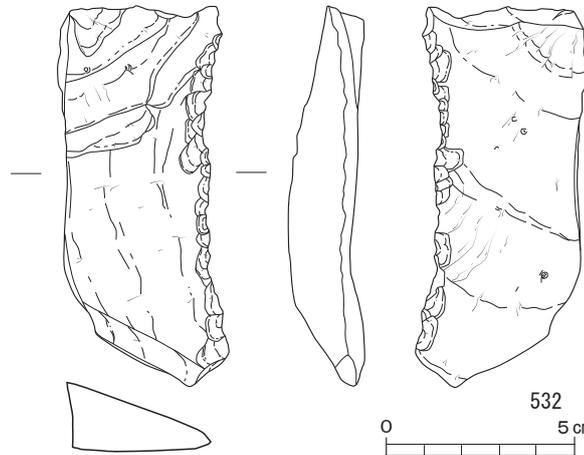
530



遺物包含層



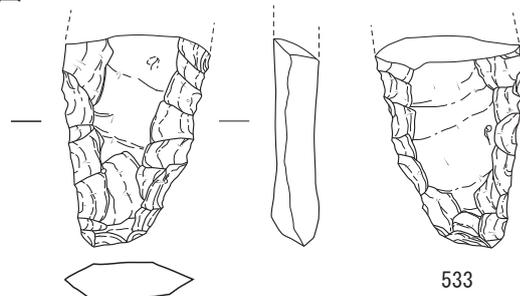
531



532



遺構検出面



533



第46図 石製品実測図 (1/2、1/3、2/3)

出土遺物観察表①

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g)	形態・技法の特徴	A：胎土 B：焼成 C：色調	備考
				①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>			
1	須恵器	杯身	SK01	①(10.50)②(3.40)	外面 回転ナデ、ナデか?、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A：砂粒多量含む B：良好 C：内外共 灰N5/	外面降灰
2	須恵器	杯身	SK01	②(1.80)④(8.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰N5/	
3	土師器	小皿	SK01	①8.50②1.00③7.10	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 橙5YR7/6	
4	土師器	小皿	SK01	①9.25②1.10③7.00	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 にぶい橙7.5YR7/4	
5	土師器	小皿	SK01	①(9.40)②0.90③(8.40)	外面 ナデ、糸切りか?、板状圧痕 内面 ナデ	A：砂粒多量含む B：良好 C：内面 橙2.5YR6/6 外面 橙5YR7/6	
6	土師器	小皿	SK01	①9.10②1.20③6.50	外面 横ナデ、糸切り後ナデか?、板状圧痕か? 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白10YR8/2	
7	土師器	小皿	SK01	①(9.00)②1.30③(7.40)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A：砂粒少量含む B：良好 C：内外共 灰白10YR8/2	
8	土師器	小皿	SK01	②(1.20)③(10.20)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内面 灰7.5Y5/1 外面 褐灰7.5YR5/1	
9	土師器	椀	SK01	②(2.20)④(8.60)	外面 貼り付け高台、磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A：精良 B：やや不良 C：内面 灰白5Y7/1 外面 灰白5Y7/1～浅黄橙7.5Y8/3	
10	土師器	甕	SK01	①(25.00)②(8.60)	外面 ナデ、ハケメ後ナデ 内面 ナデ、ヘラケズリ	A：砂粒少量含む B：良好 C：内外共 橙5YR6/6	
11	土師質 土器	鍋	SK01	①(43.30)②(16.20)	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A：砂粒多量含む B：良好 C：内面 浅黄橙7.5YR8/4 外面 にぶい黄褐10YR5/3	胴部外面赤変しス ス付着1周巡る、口 縁上部に刻目
12	土師質 土器	鍋	SK01	①(56.00)②(16.50)	外面 横ナデ、ナデ、刻目 内面 横ナデ、ナデ、ハケメ	A：砂粒多量含む B：良好 C：内面 黄褐2.5Y5/3～灰黄褐10YR4/2	外面口縁部下にス ス付着、底部近く は赤変
13	瓦器	小皿	SK01	①(7.80)②1.20③(5.80)	外面 ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白10Y8/1	
14	瓦器	椀	SK01	①(16.20)②(5.65)	外面 ミガキ、指頭圧痕 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内面 灰N4/～灰白10Y8/1 外面 灰白7.5Y6/1～灰N5/	
15	瓦器	椀	SK01	①(17.90)②5.60④(7.00)	外面 ナデか?、指頭圧痕、貼り付け高 台 内面 ナデか?	A：精良 B：良好 C：内面 淡赤橙2.5YR7/3～灰5Y6/1 外面 淡橙5YR8/3～灰白10YR8/1	
16	瓦器	椀	SK01	②(0.90)④(6.90)	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白7.5Y8/1	
17	瓦器	椀	SK01	②(1.40)④(7.40)	外面 ナデ、ミガキ、貼り付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白7.5Y8/1	
18	瓦器	椀	SK01	②(1.10)④(8.90)	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白7.5Y7/1	
19	瓦器	椀	SK01	②(3.40)④(7.40)	外面 貼り付け高台、磨減の為調整不明 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内面 青灰5B6/1 外面 灰白10Y8/1	
20	須恵器	鉢	SK01	①28.80②10.90③10.90	外面 ナデ 内面 ナデ	A：砂粒多量含む(あまり見かけない大 粒の黒色粒子含む) B：良好 C：内外共 灰N6/1	口縁部外面降灰
21	青磁	椀	SK01	①(16.10)②7.20④(5.80)	外面 削り出し高台、施釉、露胎 内面 施釉	A：精良 B：堅緻 C：——	龍泉窯系 内面草花文様、疊 付に目跡あり
22	青磁	椀	SK01	①16.50②7.05④6.30	外面 施釉 内面 施釉	A：砂粒少量含む B：良好 C：内外共 オリープ灰10Y6/2	内面に文様あり
23	青磁	椀	SK01	②(5.90)	外面 施釉 内面 沈線、施釉	A：精良 B：堅緻 C：——	龍泉窯系 内面飛雲文様、口 縁部付近に3条の 沈線あり
24	青磁	皿	SK01	①10.10②2.15③4.80	外面 回転ヘラケズリ、施釉 内面 ヘラによる文様、施釉	A：精良 B：堅緻 C：釉調 オリープ色? 素地 灰5Y6/1	同安窯系
25	青磁	皿	SK01	①(10.00)②1.90③(4.20)	外面 回転ヘラケズリ、施釉 内面 施釉	A：精良 B：堅緻 C：釉調 明オリープ灰2.5GY7/1 素地 灰7.5Y6/1	同安窯系 釉だまり数ヶ所あ り
26	石製品	石鍋	SK01	②(4.70)	外面 ケズリ、研磨、ケズリ後研磨 内面 研磨	A：石材 滑石 C：内面 銀白 外面 灰	鏝は下がり気味に ついており、上下 にノミ痕・ケズリ 痕残る
27	土師器	杯	SK02	①(14.80)②2.80③(10.20)	外面 横ナデ、指頭圧痕、糸切り 内面 横ナデ、ナデ、不定方向ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 浅黄橙10YR8/4	
28	土師器	杯	SK02	①(16.00)②3.20③11.10	外面 横ナデ、糸切り、板状圧痕 内面 横ナデ、ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 浅黄橙7.5YR8/4～10YR8/3	
29	土師器	杯	SK02	①(15.80)②3.10③11.0	外面 横ナデ、糸切り 内面 横ナデ、ナデ	A：金色の雲母多量含む B：良好 C：内面 にぶい黄橙10YR7/4 外面 にぶい黄橙10YR7/3	
30	土師器	杯	SK02	②(1.65)③(8.40)	外面 磨減の為調整不明 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 浅黄橙10YR8/3	
31	瓦器	小皿	SK02	①(10.60)②1.70③(9.00)	外面 横ナデ、糸切り、板状圧痕 内面 横ナデ、ナデ	A：精良 B：良好 C：内面 灰5Y5/1 外面 黄灰2.5Y5/1	
32	瓦器	小皿	SK02	①(10.60)②1.40③(7.40)	外面 糸切り、板状圧痕 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内面 灰白2.5Y8/1 外面 灰白7.5Y7/1	

出土遺物観察表②

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) (残存値)	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	備考
33	瓦器	小皿	SK02	①10.20②1.95	外面 横ナデ、型押し、回転糸切り、板状圧痕 内面 横ナデ、ナデ、工具ナデか?	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰黄褐10YR5/2~灰 N4/	
34	瓦器	小皿	SK02	①10.10②2.30③2.50	外面 横ナデ、糸切り、型押し 内面 工具ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰5Y5/1~黄灰2.5Y5/1	歪みあり
35	瓦器	小皿	SK02	①(10.60)②1.90	外面 ナデ、型押し 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白7.5Y7/1 外面 灰7.5Y5/1	
36	瓦器	小皿	SK02	①(10.80)②2.40	外面 横ナデ、糸切り 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白5Y7/2 外面 灰白5Y7/1	
37	瓦器	小皿	SK02	①(10.50)②1.50	外面 磨滅の為調整不明 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰5Y5/1 外面 暗黄灰2.5Y5/1	
38	瓦器	小皿	SK02	①(10.00)②(1.60)	外面 横ナデ 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 黄灰2.5Y6/1 外面 灰黄2.5Y6/1	
39	瓦器	小皿	SK02	①(10.80)②(2.50)	外面 磨滅の為調整不明、糸切り 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰黄2.5Y7/2 外面 灰白2.5Y8/1	
40	瓦器	小皿	SK02	①(15.90)②(4.10)	外面 ミガキ、型押し 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰黄褐10YR6/2 外面 におい黄橙10YR7/3	
41	瓦器	小皿	SK02	②(2.30)	外面 横ナデ、糸切り後不定方向ナデ、板状圧痕 内面 横ナデ、不定方向ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N5/	歪みあり
42	瓦器	小皿	SK02	②(2.70)	外面 横ナデ、糸切り後ナデ 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N4/	歪みあり
43	瓦器	小皿	SK02	②(2.35)	外面 横ナデ、糸切り後不定方向ナデ 内面 ナデ、不定方向ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 青灰10BG5/1	歪みあり
44	瓦器	小皿	SK02	②(1.40)	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 褐灰10YR4/1	
45	瓦器	椀	SK02	①(17.40)②5.60③6.60	外面 横ナデ、工具痕、ミガキ 内面 横ナデ、工具痕、ミガキ、型押し、 指頭圧痕、ナデ、回転糸切り	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰7.5Y6/1~灰 N5/ 外面 灰黄2.5Y7/2	
46	瓦器	椀	SK02	①(17.20)②5.40④7.40	外面 磨滅の為調整不明、糸切り、ナデ 内面 磨滅の為調整不明、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 におい黄橙10YR7/3	
47	瓦器	椀	SK02	①(17.70)②5.05③7.00	外面 糸切り、横ナデ 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: やや不良 C: 内面 黄灰2.5Y5/1 外面 におい黄橙10YR7/3	
48	瓦器	椀	SK02	①(15.50)②5.15③(6.40)	外面 磨滅の為調整不明、ミガキ、糸切り 内面 磨滅の為調整不明、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 黄灰2.5Y4/1	
49	瓦器	椀	SK02	①(16.80)②(5.60)④(7.60)	外面 ナデ、ミガキ、型押し、貼り付け高台 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白5Y7/1	
50	瓦器	椀	SK02	①(17.80)②5.60③(6.50)	外面 横ナデ、ミガキ 内面 横ナデ、ミガキ	A: 精良 B: やや不良 C: 内外共 黄灰2.5Y4/1	
51	瓦器	椀	SK02	①(15.60)②(2.65)	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 におい黄橙10YR6/4、灰5Y5/1	
52	瓦器	椀	SK02	①(15.60)②(4.90)	外面 ナデ、ミガキ 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 浅黄2.5Y7/3 外面 灰黄2.5Y7/2	
53	瓦器	椀	SK02	①(15.80)②(4.70)	外面 ミガキ、型押し、指頭圧痕 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白5Y6/1 外面 灰7.5Y7/1	若干歪みあり
54	瓦器	椀	SK02	①(17.00)②(5.10)	外面 ナデ、ミガキ、型押し 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 褐灰10YR4/1 外面 灰黄褐10YR4/2	
55	瓦器	椀	SK02	①(16.80)②(5.80)	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰黄2.5Y7/2~黄灰2.5Y5/1 外面 黄灰2.5Y5/1	
56	瓦器	椀	SK02	①(18.00)②(3.40)	外面 磨滅の為調整不明 内面 工具痕	A: 精良 B: 良好 C: —	
57	瓦器	椀	SK02	①(19.00)②(4.10)	外面 横ナデ、ミガキ 内面 横ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 黄灰2.5Y5/1 外面 褐灰10YR4/1	
58	瓦器	椀	SK02	①(19.00)②(4.30)	外面 ミガキ 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 黄灰2.5Y4/1 外面 橙7.5YR7/6	
59	瓦器	椀	SK02	①(17.40)②(4.20)	外面 横ナデ、ミガキ 内面 横ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰黄2.5Y7/2 外面 灰白5Y7/1~灰黄2.5Y7/2	
60	瓦器	椀	SK02	①(18.00)②(4.60)	外面 横ナデ、ミガキ 内面 横ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白5Y7/1 外面 灰白5Y7/1	
61	瓦器	椀	SK02	①(18.00)②(4.00)	外面 ナデ、ミガキ、型押し 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰黄褐10YR6/2 外面 黄灰2.5Y5/1	外面付着物 (土か?)
62	瓦器	椀	SK02	①(19.00)②(4.15)	外面 ナデ、ミガキ 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白5Y7/1 外面 灰7.5Y6/1	
63	瓦器	椀	SK02	①(18.00)②(3.60)	外面 横ナデ、ミガキ 内面 横ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 浅黄2.5Y7/3	
64	瓦器	椀	SK02	①(17.60)②(4.15)	外面 磨滅の為調整不明、糸切り 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰5Y4/1 外面 黄灰2.5Y5/1	
65	瓦器	椀	SK02	①(17.60)②(3.20)	外面 横ナデ 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 褐灰10YR5/1	
66	瓦器	椀	SK02	②(1.60)④7.00	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰黄2.5Y7/2 外面 灰黄褐10YR5/2	

出土遺物観察表③

遺物番号	種類	器種	出土地点	量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
67	瓦器	椀	SK02	②<1.10>④<7.60>	外面 ナデ 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 灰5Y5/1 黄灰2.5Y4/1	
68	瓦器	椀	SK02	②<1.20>④<7.80>	外面 貼り付け高台 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 灰7.5Y6/1 外面 灰白7.5Y8/1	
69	瓦器	椀	SK02	②<2.20>④<6.90>	外面 磨減の為調整不明、横ナデ、ナデ 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y7/1	
70	瓦器	椀	SK02	②<2.05>④<7.40>	外面 ミガキ 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 灰5Y4/1 外面 黄灰2.5Y4/1	
71	瓦器	椀	SK02	②<2.20>③<7.40>	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 灰5Y6/1 外面 灰5Y5/1	
72	瓦器	椀	SK02	②<2.50>④<8.40>	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 灰5Y5/1 黄灰2.5Y4/1	
73	瓦器	椀	SK02	②<2.90>④<6.30>	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C: ———	
74	瓦器	椀	SK02	①<6.40>②<3.65>	外面 磨減の為調整不明、糸切り、横ナデ 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰黄2.5Y7/2	
75	瓦器	椀	SK02	②<3.70>④<7.40>	外面 磨減の為調整不明、ヘラ切り、ナデ 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰5Y6/1	
76	瓦器	椀	SK02	②<4.05>④<8.40>	外面 磨減の為調整不明、ミガキ、糸切 り、ナデ 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:やや不良 C:内面 浅黄橙7.5YR8/6 外面 灰黄褐10YR5/2	
77	瓦器	椀	SK02	②<3.70>④<7.40>	外面 磨減の為調整不明、糸切り 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 灰5Y4/1 外面 黄灰2.5Y4/1	
78	瓦器	椀	SK02	②<4.50>	外面 ナデ、ミガキ、型押しか？ 内面 ナデ、ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 灰白2.5Y7/1 外面 灰白5Y7/1	内面付着物 (土か?)
79	土師器	小皿	SK03	①<9.40>②<1.30>	外面 板状圧痕 内面 ナデ？	A:精良 B:良好 C:内外共 橙5YR6/6	
80	土師器	皿	SK03	①<14.70>②<2.25>③<9.60>	外面 ナデ、板状圧痕 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 褐灰10YR5/1	
81	土師器	皿	SK03	②<0.70>③<11.80>	外面 糸切り 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 浅黄橙7.5YR8/6	
82	土師器	椀	SK03	②<1.50>④<10.00>	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 橙5YR7/6	
83	瓦器	小椀	SK03	①<8.60>②<2.10>③<5.00>	外面 横ナデ、型押しか？、貼り付け高台、 回転糸切り 内面 横ナデ、ミガキ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰5Y5/1	
84	瓦器	椀	SK03	①<15.60>②<4.30>④<7.40>	外面 ナデ、ミガキ、高台貼り付け、板状圧痕 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 灰7.5Y5/1~灰白5Y7/1 外面 暗青灰5PB3/1~灰白5Y7/1	
85	瓦器	椀	SK03	①<16.90>②<4.25>④<7.90>	外面 型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白2.5Y8/1~黄灰2.5Y5/1	
86	瓦器	椀	SK03	①<17.10>②<4.85>④<6.70>	外面 ミガキ、型押し、指頭圧痕、貼り 付け高台、ナデ 内面 工具ナデか？、ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 灰白N7/1 外面 灰N6/1	
87	瓦器	椀	SK03	①<16.40>②<4.40>④<7.00>	外面 型押し、貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y7/1	
88	瓦器	椀	SK03	①<16.50>②<5.20>④<6.80>	外面 型押し、貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい黄橙10YR7/2	
89	瓦器	椀	SK03	①<16.60>②<5.50>④<6.20>	外面 型押し、貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰白N7/	
90	瓦器	椀	SK03	①<17.90>②<5.00>	外面 型押し 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 灰白10Y8/1 外面 灰N4/1	
91	瓦器	椀	SK03	①<19.80>②<3.60>	外面 ミガキ、型押し 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 灰白10Y8/2 外面 灰白10Y8/1~灰N5/1	
92	瓦器	椀	SK03	①<15.00>②<4.20>	外面 ナデ、ミガキ、型押し 内面 ナデ、ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 褐灰10YR5/1 外面 灰白10YR7/1	
93	瓦器	椀	SK03	①<16.80>②<4.10>	外面 ミガキ、型押し 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N4/ ~灰N6/	
94	瓦器	椀	SK03	①<18.00>②<2.80>	外面 ナデ、ミガキ 内面 ナデ、ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/1	
95	瓦器	椀	SK03	①<18.00>②<3.70>	外面 ナデ 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白10YR8/1	
96	瓦器	椀	SK03	①<18.90>②<2.80>	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N4/1	
97	瓦器	椀	SK03	①<20.50>②<4.10>	外面 型押し 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 褐灰10YR5/1 外面 灰白2.5Y7/1	
98	瓦器	椀	SK03	②<3.50>④<7.40>	外面 型押し、貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 灰白N7/1 外面 灰N4/1	
99	瓦器	椀	SK03	②<1.25>④<7.50>	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y8/1	
100	瓦器	椀	SK03	②<2.20>④<7.60>	外面 型押し、貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y8/1	
101	瓦器	椀	SK03	②<1.70>	外面 ナデ 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N4/1	
102	瓦器	椀	SK03	②<1.90>④<7.50>	外面 貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 灰白7.5Y7/1 外面 灰N5/	

出土遺物観察表④

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調			備考
103	瓦器	椀	SK03	②<2.70>④(6.70)	外面 型押し、貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰 N5/ 外面 灰白5Y7/1			
104	瓦器	椀	SK03	②<2.80>④(6.40)	外面 型押し、貼り付け高台、面取りか? 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N6/			
105	瓦器	椀	SK03	②<2.60>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰 N4/1 外面 灰 N4/1~灰白 N8/1			
106	瓦器	椀	SK03	②<3.40>④(7.00)	外面 磨滅の為調整不明 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白5YR8/2 外面 におい橙5YR7/4			
107	瓦器	椀	SK03	②<3.40>④6.50	外面 貼り付け高台、ナデ 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白7.5Y8/1			
108	瓦器	椀	SK03	②<3.90>④(7.00)	外面 ミガキ、型押し、貼り付け高台、ナデ 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白7.5Y8/1			
109	土師器	杯	SK04	②<1.20>③(12.00)	外面 ナデ 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰白10YR8/2 外面 灰白5Y8/1			
110	土師器	小皿	SK04	①(8.80)②<0.80>③<6.60>	外面 横ナデ、回転糸切り 内面 横ナデ	A: 1mm 程のシルト含む B: 良好 C: 内面 浅黄橙7.5YR8/3 外面 橙5YR7/8			
111	土師器	小皿	SK04	①(12.50)②<2.30>	外面 ナデ 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6			
112	土師器	杯	SK04	①(15.00)②2.70③(9.60)	外面 ナデ、糸切りか? 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6			
113	土師器	杯	SK04	①(16.90)②3.15③(12.00)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6			
114	土師器	杯	SK04	②<1.00>③(10.60)	外面 ナデ、糸切りか? 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙5YR7/6			
115	土師器	杯	SK04	②<1.20>③(11.00)	外面 板状圧痕 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6			
116	土師器	小皿	SK04	②<1.30>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 におい橙7.5YR7/4			
117	土師器	甕	SK04	②<4.60>	外面 ナデ 内面 ナデ、ヘラケズリ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 におい赤褐5YR5/3			
118	瓦器	小皿	SK04	①(8.40)②<1.40>	外面 型押し 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 褐灰10YR6/1			
119	瓦器	小皿	SK04	①(8.80)②<1.40>	外面 ミガキ、糸切り 内面 ミガキ、工具痕	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 褐灰10YR6/1			
120	瓦器	小皿	SK04	②1.10	外面 磨滅の為調整不明 内面 工具痕	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 明青灰5PB7/1~灰 N4/			
121	瓦器	椀	SK04	②<0.75>	外面 磨滅の為調整不明 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白5Y8/1			
122	瓦器	椀	SK04	②<1.05>	外面 磨滅の為調整不明 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白7.5Y8/1			
123	瓦器	椀	SK04	②<1.10>④(6.80)	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 明褐灰7.5YR7/1			
124	瓦器	椀	SK04	②<1.40>④(5.90)	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 褐灰7.5YR6/1 外面 灰白10YR8/1			
125	瓦器	椀	SK04	②<1.40>④(7.30)	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y8/1			
126	瓦器	椀	SK04	②<3.60>④(7.00)	外面 ミガキ、型押しか?、貼り付け高台、ナデ 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y7/1		外面付着物	
127	瓦器	椀	SK04	②<3.40>④(7.00)	外面 磨滅の為調整不明、型押し、貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 におい黄橙10YR7/4 外面 浅黄2.5YR7/3		外面黒斑	
128	瓦器	椀	SK04	①(16.40)②5.20④(6.50)	外面 型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ、工具痕	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白 N7/			
129	瓦器	椀	SK04	①(17.40)②5.00④(7.60)	外面 ミガキ、貼り付け高台 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白2.5Y7/1 外面 褐灰10YR5/1			
130	瓦器	椀	SK04	①(17.80)②5.30④(7.50)	外面 ナデ、型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白5Y8/1			
131	瓦器	椀	SK04	①(18.00)②5.10④6.50	外面 横ナデ、ミガキ、貼り付け高台、ナデ 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10YR8/1			
132	瓦器	椀	SK04	①(17.80)②5.10④(6.80)	外面 型押し、貼り付け高台、指頭圧痕か? 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰 N5/ 外面 灰白7.5Y7/1		内面全体的に黒色化	
133	瓦器	椀	SK04	①(15.80)②4.40④(6.60)	外面 回転ナデ、ミガキ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白7.5Y7/1~暗灰 N3/ 外面 灰白7.5Y7/1 一部 灰 N4/、暗灰 N3/			
134	瓦器	椀	SK04	①(17.00)②<5.70>④(6.60)	外面 横ナデ、ミガキ、貼り付け高台、ナデ 内面 横ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10YR7/1			
135	瓦器	椀	SK04	①(17.20)②4.90④(6.60)	外面 型押し、貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 明赤灰2.5YR7/1 外面 灰10Y5/1			
136	瓦器	椀	SK04	①(14.10)②<2.10>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N5/1~灰白 N8/1		外面付着物	
137	瓦器	椀	SK04	①(16.90)②<3.40>	外面 型押し 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y8/1			
138	瓦器	椀	SK04	①(18.00)②<3.70>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y8/2			

出土遺物観察表⑤

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
139	瓦器	椀	SK04	①(17.00)②<4.80>	外面 型押し 内面 ミガキ、工具痕	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y8/1	
140	瓦器	椀	SK04	①(17.40)②<5.00>	外面 横ナデ、型押し 内面 横ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 灰白10Y8/1 外面 暗灰N3/、灰白2.5GY8/1	
141	瓦器	椀	SK04	①(16.90)②<5.00>	外面 型押し 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白2.5Y7/1~灰N4/1	
142	瓦器	椀	SK04	①(19.10)②<4.60>	外面 型押し 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白2.5Y8/1	
143	瓦器	椀	SK04	②<3.00>	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 灰N4/ ~灰白2.5Y8/1 外面 灰N6/	
144	瓦器	椀	SK04	②<4.70>	外面 ミガキ 内面 ナデ、ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 褐灰10YR6/1 外面 灰白10YR7/1	
145	瓦器	椀	SK04	②<5.20>	外面 ナデ、ミガキ、型押し 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 黄灰2.5Y6/1 外面 灰白10YR7/1	歪みあり
146	土製品	棒状土製品	SK04	<長7.10>幅4.60厚3.00③97.00	——	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰7.5Y6/1	
147	須恵器	杯蓋	SK05	①12.50②1.70	外面 回転ナデ、ヘラ切り後未調整 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 明オリープ灰2.5GY7/1	
148	須恵器	杯蓋	SK05	①(15.00)②2.20	外面 ヘラ切り後ナデ、ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y7/1	
149	須恵器	杯蓋	SK05	②<1.00>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y8/1	
150	須恵器	杯身	SK05	①13.60②3.80④10.30	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰白N7/	外面胴部にヘラ記号か?
151	須恵器	杯	SK05	①(16.00)②<4.10>	外面 ナデ 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y8/1	
152	土師器	杯	SK05	①(13.00)②2.90	外面 ナデ 内面 ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 橙5YR7/6~明黄褐10YR7/6	外面付着物
153	土師器	杯	SK05	①14.80②3.10	外面 ナデ、板状圧痕か? 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい橙5YR6/4	
154	土師器	杯	SK05	①(14.40)②<3.20>	外面 ナデ 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい橙7.5YR7/4	
155	土師器	杯身	SK05	①(13.60)②3.45④(9.40)	外面 磨減の為調整不明、貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:砂粒多量含む B:良好 C:内面 にぶい黄橙10YR7/4 外面 浅黄橙10YR8/3	
156	瓦器	椀	土坑墓	②<1.40>④(7.80)	外面 貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N7/	
157	青白磁	合子	土坑墓	①7.20②1.60③7.40	外面 施釉、糸切り後ナデ 内面 施釉	A:砂粒わずかに含む B:堅緻 C:内面 明緑灰10GY8/1 外面 灰白5GY8/1	
158	須恵器	甕	SD01	①(25.20)②<3.65>	外面 回転ナデ、面取りか? 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外面 灰N5/	
159	須恵器	杯身	SD02	②<2.80>④(9.50)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰N5/	
160	須恵器	杯身	SD02	②<1.50>	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/	若干降灰
161	須恵器	甕	SD02	②<3.95>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 灰白N7/ 外面 灰N4/	口縁部内面降灰
162	土師器	移動式竈の庇	SD02	<長28.25><幅5.00>厚3.10	外面 不明 内面 不明	A:砂粒多量含む B:良好 C: ——	一部二次被熱部分あり
163	青磁	椀	SD02	②<3.40>④(5.80)	外面 施釉、露胎 内面 施釉	A:精良 B:堅緻 C: ——	龍泉窯系 内面に文様あり
164	青磁	椀	SD02	②<2.90>④(6.20)	外面 施釉、露胎 内面 施釉	A:精良 B:堅緻 C: ——	龍泉窯系 内面に文様あり
165	須恵器	杯蓋	1号竪穴状遺構	①(17.60)②<0.80>	外面 横ナデ 内面 横ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/	
166	須恵器	杯身	1号竪穴状遺構	②<1.50>④(8.00)	外面 貼付高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y7/1	
167	須恵器	東播系鉢	1号竪穴状遺構	②<3.30>	外面 横ナデ 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰5Y6/1	
168	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<0.60>③(10.30)	外面 回転糸切り、板状圧痕 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 浅黄橙7.5YR8/4	
169	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<0.70>③(10.40)	外面 回転糸切り 内面 磨減の為調整不明	A:赤色砂粒を含む B:良好 C:内外共 灰白7.5YR8/2	
170	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<0.80>③(10.20)	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内面 浅黄橙7.5YR8/3 外面 橙7.5YR7/6	
171	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<0.90>③(10.60)	外面 ナデ、回転糸切り、板状圧痕 内面 指頭圧痕	A:精良 B:良好 C:内外共 浅黄橙10YR8/3	
172	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<1.00>③(11.60)	外面 回転糸切り 内面 磨減の為調整不明	A:赤色砂粒、石英を含む B:良好 C:内面 橙7.5YR7/6 外面 浅黄橙7.5YR8/4	
173	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<1.20>③(11.80)	外面 横ナデ、回転糸切り 内面 横ナデ、不定方向ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 橙7.5YR7/6	
174	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<2.50>③(11.60)	外面 ナデ、回転糸切り、板状圧痕 内面 ナデ	A:赤色砂粒を多量含む B:良好 C:内外共 浅黄橙7.5YR8/3	
175	土師器	杯	1号竪穴状遺構	①(15.60)②2.90③(12.10)	外面 横ナデ、回転糸切り 内面 横ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい橙7.5YR7/4	

出土遺物観察表⑥

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調			備考
176	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<1.00>③<10.60>	外面 回転糸切り、板状圧痕 内面 磨滅の為調整不明	A: 赤色砂粒を含む B: 良好 C: 内外共 浅黄橙7.5YR8/3			
177	土師器	杯	1号竪穴状遺構	②<0.90>③<11.20>	外面 ナデ、回転糸切り 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 浅黄橙7.5YR8/4 外面 橙7.5YR6/8			
178	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	①<15.40>②<3.80>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 にぶい黄2.5Y6/3			
179	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	①<16.80>②<3.00>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 褐灰7.5YR6/1 外面 明褐灰7.5YR7/1			
180	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	①<17.20>②<3.00>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 明褐灰7.5Y7/1 外面 オリーブ黒7.5Y3/1			
181	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②<1.10>④<6.80>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y8/1			
182	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②<1.10>④<7.00>	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰黄2.5Y6/2			
183	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②<1.40>④<6.60>	外面 磨滅の為調整不明 内面 ミガキ?	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10YR7/1			
184	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②<3.30>④<7.60>	外面 押し出し 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 黄灰2.5Y5/1			
185	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②<3.30>④<7.20>	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 明褐灰7.5YR7/1 外面 褐灰7.5YR5/1			
186	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②<3.90>④<6.40>	外面 ミガキ 内面 ミガキ	A: 白色砂粒を含む B: 良好 C: 内外共 明褐灰5YR7/1			
187	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②<4.20>④<7.40>	外面 高台貼り付け 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 褐灰7.5YR5/1 灰白7.5YR8/2			
188	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	①<19.00>②4.55④<7.60>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白7.5Y8/1			
189	瓦器	椀	1号竪穴状遺構	②5.10	外面 横ナデ 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰黄2.5Y7/2			
190	瓦器	小皿	1号竪穴状遺構	①<8.40>②1.20③<5.80>	外面 横ナデ、回転糸切り 内面 横ナデ、不定方向ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 黄灰2.5Y6/1			
191	土製品	棒状土製品	1号竪穴状遺構	<長6.30>幅3.70厚2.50⑤50.80	磨滅の為調整不明	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰白5Y8/1			
192	石製品	砥石	1号竪穴状遺構	<長9.30>幅5.50厚2.50⑤173.00	——	A: 石材 C: 内外共 灰白2.5Y8/2		四面とも使用される	
193	須恵器	杯身	2号竪穴状遺構	②<1.10>④<7.00>	外面 貼付高台 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N4/			
194	土師器	小皿	2号竪穴状遺構	①<8.20>②1.20③<5.60>	外面 横ナデ、回転糸切り、板状圧痕 内面 横ナデ	A: 赤色砂粒を多く含む B: 良好 C: 内外共 明黄褐10YR6/6			
195	土師器	小皿	2号竪穴状遺構	①<8.00>②1.10③<6.20>	外面 横ナデ、糸切り 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 暗褐10YR3/4 外面 浅黄橙7.5YR8/4			
196	土師器	小皿	2号竪穴状遺構	①<7.40>②1.20③<5.80>	外面 ナデ、回転糸切り 内面 ナデ	A: 石英含む B: 良好 C: 内面 明褐7.5YR5/6 外面 褐7.5YR4/6			
197	土師器	小皿	2号竪穴状遺構	②<0.90>③6.20	外面 回転糸切り 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 黄灰2.5Y5/1			
198	土師器	杯	2号竪穴状遺構	①<12.40>②3.85③<7.80>	外面 横ナデ、回転糸切り、板状圧痕 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR6/6			
199	土師器	杯	2号竪穴状遺構	②<1.00>③<9.00>	外面 横ナデ、回転糸切り 内面 横ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 黄橙7.5YR8/8			
200	土師器	杯	2号竪穴状遺構	②<1.00>③<8.60>	外面 ナデ、回転糸切り 内面 ナデ	A: 金雲母含む B: 良好 C: 内外共 にぶい黄橙10YR6/3			
201	土師器	杯	2号竪穴状遺構	②<1.00>③<10.20>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 浅黄橙7.5YR6/8 外面 橙7.5YR6/6			
202	石製品	砥石	2号竪穴状遺構	<長7.40>幅3.40厚2.30⑤109.50	——	A: 石材 C: 内外共 灰白10Y7/1~灰白10YR8/2		四面とも使用される	
203	不明	不明	2号竪穴状遺構	不明	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A: 砂粒多量含む B: やや良好 C: 内面 にぶい褐7.5YR5/4 外面 黄橙7.5YR7/8		2次被熱 赤変環状を呈すると思われる	
204	須恵器	甕	3号竪穴状遺構	②<1.80>	外面 横ナデ、カキメ 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 褐灰10YR6/1			
205	瓦器	椀	3号竪穴状遺構	②<1.00>④<7.00>	外面 横ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10YR7/1			
206	瓦器	椀	3号竪穴状遺構	②<1.40>④<7.00>	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白10YR8/1 外面 褐灰10YR5/1			
207	須恵器	高杯	4号竪穴状遺構	②<1.50>	外面 横ナデ 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 赤灰2.5YR5/1 外面 赤灰2.5Y6/1			
208	瓦器	椀	4号竪穴状遺構	①<16.60>②<5.20>	外面 ミガキ 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 褐灰7.5YR5/1 外面 灰白10YR8/2			
209	瓦器	椀	4号竪穴状遺構	②<1.30>④<6.60>	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 赤灰2.5YR5/1 外面 赤灰2.5Y6/1			

出土遺物観察表⑦

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
210	瓦器	椀	4号壺穴状遺構	②(2.00)④(6.40)	外面 貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 褐灰7.5YR4/1	
211	須恵器	杯蓋	5号壺穴状遺構	①(12.80)②1.90	外面 ナデか?、回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 灰N6/ 外面 灰N5/~黄灰2.5Y6/1	
212	須恵器	杯	5号壺穴状遺構	①(13.40)②3.90③(10.60)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N5/	
213	須恵器	杯身	5号壺穴状遺構	②<(1.10)④(8.60)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 にぶい橙7.5Y7/4 外面 灰5Y6/1	
214	須恵器	高杯	5号壺穴状遺構	②<(1.35)③(9.60)	外面 横ナデ 内面 横ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 褐灰7.5YR6/1 外面 褐灰7.5YR5/1	
215	土製品	器台	5号壺穴状遺構	②<(3.70)	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:石英多量含む B:良好 C:内外共 にぶい橙5YR7/4~橙5YR6/6	
216	須恵器	甕	5号壺穴状遺構	①(22.40)②<(6.00)	外面 貼り付け口縁、横ナデ、平行線文タタキ 内面 同心円当具痕	A:精良 B:良好 C:内面 褐灰7.5YR6/1 外面 明褐灰7.5YR7/1	
217	土師器	杯身	5号壺穴状遺構	②<(1.20)④(14.60)	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 橙5YR7/8	
218	土師器	杯身	5号壺穴状遺構	②<(2.50)④(12.10)	外面 ナデか?、貼り付け高台、回転ヘラ切り後ナデ 内面 ナデか?	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 橙7.5YR7/6	
219	土師器	杯	5号壺穴状遺構	①(13.90)②<(3.80)	外面 回転ナデか?、ヘラ切り、ナデか? 内面 回転ナデか?、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白10Y7/1	
220	土師器	杯身	5号壺穴状遺構	②<(3.90)④(10.60)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白10Y7/1	
221	須恵器	杯蓋	6号壺穴状遺構	①(13.40)②<(2.25)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒わずかに含む B:良好 C:内面 灰N4/1 外面 灰N6/1	口縁部と胴部の境に稜線あり
222	須恵器	杯蓋	6号壺穴状遺構	②<(1.95)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/1	若干降灰
223	須恵器	甕	6号壺穴状遺構	①(27.60)②<(6.30)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒わずかに含む B:良好 C:内外共 灰7.5Y6/1	外面にヘラ記号ありか?
224	須恵器	杯身	6号壺穴状遺構	①(11.60)②<(3.45) 受部径(13.60)	外面 回転ナデ、ヘラケズリか? 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白10Y7/1	
225	須恵器	杯身	6号壺穴状遺構	①(13.10)②<(2.70) 受部径(15.20)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/1	
226	須恵器	杯身	6号壺穴状遺構	①(16.40)②4.00 受部径(18.30)	外面 回転ナデ、ナデ、ヘラケズリか? 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N5/1	外面降灰著しい所あり
227	須恵器	杯蓋	7号壺穴状遺構	①16.40②1.10	外面 ヘラケズリ、回転ナデ 内面 ナデ、回転ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内面 灰N5/ 外面 灰N4/~灰白10Y8/1	内外面降灰
228	須恵器	杯身	7号壺穴状遺構	②<(2.30)④(8.40)	外面 横ナデ、貼り付け高台、ナデ 内面 横ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/	
229	須恵器	高杯	7号壺穴状遺構	①(16.60)②<(3.80)	外面 ナデ、回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/1	
230	須恵器	壺	7号壺穴状遺構	①(14.00)②<(4.85)	外面 回転ナデ、斜線文後回転ナデか? 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N4/1	外面頸部にヘラ記号あり
231	須恵質土器	鉢	7号壺穴状遺構	②<(3.65)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/	東播系?
232	土師器	小皿	7号壺穴状遺構	①(10.20)②0.80③(8.40)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 浅黄橙7.5Y R8/6	
233	土師質土器	鍋	7号壺穴状遺構	②<(4.50)	外面 ナデ、刻目 内面 ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 褐灰10YR4/1~橙7.5YR7/6	内外面スス?付着
234	土師質土器	鍋	7号壺穴状遺構	②<(2.15)	外面 ナデ、刻目 内面 横ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内面 にぶい黄橙10YR7/4 外面 灰黄褐10YR6/2	
235	土師器	杯	SX01	②<(0.70)③(9.90)	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A:砂粒、赤褐色粒少量含む B:良好 C:内外共 浅黄橙7.5YR7/4	
236	須恵器	杯蓋	SX07	①(14.40)②<(1.10)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい橙5YR6/1~灰5Y6/1	
237	瓦器	椀	SX07	②<(1.10)④(8.00)	外面 貼り付け高台、回転ナデか? 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y8/1	外面底部にヘラでつけたような痕あり
238	須恵器	杯蓋	SX08	②<(0.90)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:不良 C:内外共 にぶい橙5YR6/1	
239	土師器	小皿	SX08	①(7.80)②1.10③(5.40)	外面 横ナデ、糸切り 内面 横ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 にぶい橙7.5YR7/4 外面 橙5YR7/6	
240	瓦器	椀	SX08	②<(2.25)④(6.60)	外面 貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 灰白5Y7/1 外面 明褐灰7.5YR7/2	内面付着物
241	土師器	杯	SX08	②<(0.90)③(8.40)	外面 磨減の為調整不明 内面 ナデ	A:砂粒含む B:良好 C:内外共 橙5YR7/6	
242	土師器	杯	SX08	②<(1.05)③(8.80)	外面 ナデ、糸切りか? 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 橙7.5YR7/6	
243	土師器	杯	SX08	②<(1.05)③(10.00)	外面 ナデ 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 橙5YR7/6	
244	瓦器	椀	SX09	②<(1.60)④(6.80)	外面 貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰N4/1	

出土遺物観察表③

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調			備考
245	須恵器	杯身	SX11	②(2.70)④(12.60)	外面 回転ナデ、貼り付け高台か? 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N4/1		高台底部は折り込んだ ような形態になっている (焼き歪みか?)	
246	瓦器	椀	SX11	①(17.20)②(5.30)	外面 ミガキ、指頭圧痕、型押し 内面 ミガキ、工具痕か?	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白5Y8/1~灰 N5/1			
247	須恵器	杯身	SX14	②(3.00)	外面 回転ナデ、ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰 N5/		外面一部降灰 外面付着物	
248	瓦器	椀	SX20	②(2.50)④(7.20)	外面 型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10Y8/1			
249	土師器	杯	SX21	②(1.45)③(8.00)	外面 ナデ、糸切りか? 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 におい黄橙10YR7/3			
250	須恵器	杯身	SX22	②(1.40)④(10.00)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 青灰5PB4/1		高台底部に灰? 付着	
251	須恵器	杯蓋	SX24	①(12.40)②1.10	外面 ヘラケズリ、回転ナデ 内面 ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰 N5/1		焼き歪みあり	
252	須恵器	杯蓋	SX24	①(15.40)②0.90	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 不良 C: 内外共 灰白 Y8/1			
253	須恵器	皿	SX24	①(13.80)②1.50③(10.80)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデか? 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N5/1		外面底部降灰か?	
254	須恵器	皿	SX24	①(18.40)②2.65③(13.00)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10Y8/1			
255	須恵器	杯身	SX24	②(3.85)④(9.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N5/1			
256	須恵器	杯身	SX24	②(2.85)④(8.10)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N5/1		降灰	
257	須恵器	杯身	SX24	②(3.10)④(14.00)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N5/1			
258	須恵器	杯身	SX24	②(1.30)④(10.60)	外面 貼り付け高台、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白 N7/1			
259	須恵器	杯身	SX24	②(1.15)④(9.90)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N6/1			
260	須恵器	鉢?	SX24	②(3.60)	外面 ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外面 灰白10Y7/1			
261	須恵器	壺	SX24	②(2.60)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外面 灰白 N7/1			
262	土師器	甕	SX24	②(4.70)	外面 横ナデ、ハケメ後ナデ 内面 ハケメ後横ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外面 におい橙7.5YR6/4			
263	土師器	甕	SX24	①(14.00)②(3.90)	外面 ナデ、粗いハケメ 内面 ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内面 におい橙7.5YR6/4 外面 橙5YR6/6			
264	土師器	甕	SX24	①(17.60)②(4.60)	外面 磨減の為調整不明 内面 磨減の為調整不明	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外面 淡黄2.5Y8/3			
265	土師器	杯	SX31	②(0.75)③(9.60)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 におい黄橙10YR7/4 外面 灰白2.5Y7/1			
266	土師器	杯	SX31	①(14.30)②2.60③(8.40)	外面 横ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙5YR6/6			
267	土師器	杯	SX31	①(14.50)②2.30③(10.00)	外面 横ナデ、糸切り 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙2.5YR6/6		歪みあり	
268	瓦器	椀	SX31	②(4.45)	外面 指頭圧痕 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N5/1		歪みあり	
269	土師器	杯	SX32	②(1.00)③(7.60)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 浅黄橙10YR8/3			
270	土師器	杯	SX32	②(0.85)③(9.20)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 におい橙7.5YR7/4			
271	土師器	杯	SX32	②(0.70)③(9.40)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 浅黄橙10YR8/3			
272	土師器	杯	SX32	②(0.65)③(13.20)	外面 糸切りか?、板状圧痕 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6			
273	土師器	杯	SX32	②(0.70)③(13.70)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 浅黄橙7.5YR8/4			
274	土師器	杯	SX32	②(0.90)③(11.40)	外面 ナデ、糸切り、板状圧痕 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 浅黄橙7.5YR8/4			
275	土師器	小皿	SX32	①(12.00)②1.10③(9.80)	外面 ナデ、糸切りか? 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6			
276	土師器	小皿	SX32	①(10.90)②0.90③(9.50)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 浅黄橙10YR8/3~橙7.5YR7/6 外面 浅黄橙10YR8/3			
277	白磁	椀	SX32	②(2.10)③(4.20)	外面 施釉、削り出し高台 内面 施釉、釉かき取り	A: 精良 B: 堅緻 C: 内外共 灰白7.5Y7/2			
278	土師器	杯	SX32	①(9.00)②1.50③(7.80)	外面 回転ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白 N8/1 外面 灰白5Y7/1			
279	土師器	杯	SX32	①(13.00)②2.10~2.40③(7.40)	外面 回転ナデ、糸切り 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白 N7/1		焼け歪みあり	
280	土師器	杯	SX32	①(14.60)②2.50③(9.40)	外面 回転ナデ、糸切り 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白5Y7/1		焼け歪みあり	
281	土師器	杯	SX32	①(15.20)②2.80③(10.00)	外面 回転ナデ、板状圧痕 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白5Y7/1			
282	瓦器	椀	SX32	②(0.90)④(9.20)	外面 貼り付け高台、ナデ 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白 N8/1			

出土遺物観察表⑨

遺物 番号	種類	器種	出土地点	量 (cm・g)	形態・技法の特徴	A：胎土 B：焼成 C：色調	備考
				①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>			
283	瓦器	椀	SX32	②<1.50>④(6.70)	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内面 灰白7.5Y7/1 外面 灰白N8/1～灰N5/1	
284	瓦器	椀	SX32	②<3.80>④(7.00)	外面 ミガキ、型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白5Y8/1～灰N6/1	
285	瓦器	椀	SX32	①(15.20)②<4.75>	外面 回転ナデ、ミガキ、型押し 内面 工具痕、ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白5Y8/1	
286	土製品	棒状 土製品	SX32	<長16.30>幅5.60厚4.10⑤410.90	———	A：精良 B：良好 C：内外共 灰5Y6/1	指で握った所が磨滅したか？
287	瓦器	椀	SX34	②<1.30>④6.80	外面 貼り付け高台、ナデ 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内面 灰白7.5Y8/1 外面 灰白7.5Y8/1～暗灰N3/	底部の半分黒色呈す
288	瓦器	椀	SX34	②<1.50>④(7.00)	外面 貼り付け高台、回転ナデ 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外面 灰白N7/1	
289	瓦器	椀	SX34	②<1.80>④(7.00)	外面 貼り付け高台、ナデ、回転ナデ 内面 磨滅の為調整不明	A：精良 B：良好 C：内面 灰5Y6/1 外面 灰白5Y8/1	
290	瓦器	椀	SX34	①(17.40)②5.70④(6.80)	外面 ミガキ、指頭圧痕、型押し、貼り 付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外面 黄灰2.5Y4/1	
291	瓦器	椀	SX34	①(17.40)②<5.00>	外面 型押し 内面 磨滅の為調整不明	A：精良 B：良好 C：内外面 黄灰2.5Y4/1	
292	青磁	椀	SX41	①(15.80)②<4.10>	外面 施釉 内面 沈線、施釉	A：精良 B：堅緻 C：———	龍泉窯系 口縁部付近に沈線 1条あり
293	須恵器	甕	SX49	②<6.65>	外面 ナデ、タタキ 内面 ナデ、タタキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰N4/～灰白N7/	内外面一部降灰
294	陶器	椀	SP04	②(2.05)	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 化粧土か？	A：砂粒少量含む B：堅緻 C：内面 灰白7.5Y8/1 外面 灰黄2.5Y6/2	
295	瓦器	椀	SP13	②<1.20>④(6.60)	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A：精良 B：良好 C：内面 灰白7.5Y8/1 外面 灰7.5Y6/1	
296	須恵器	杯蓋	SP34	②<0.95>	外面 ヘラケズリ後ナデか？回転ナデ 内面 回転ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰5Y6/1	
297	瓦器	椀	SP34	①(15.20)②<2.30>	外面 ナデ、ミガキ 内面 ナデ、ミガキ	A：精良 B：良好 C：内面 灰N5/～灰白N8/ 外面 灰白N8/	
298	土師器	杯	SP40	②<0.70>③(10.40)	外面 ナデ、糸切り後ナデか？ 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 橙5YR7/6	
299	瓦器	椀	SP40	①(15.40)②<2.80>	外面 ミガキ、指頭圧痕 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内面 灰N4/～灰白7.5Y8/1 外面 灰N4/～灰N5/	
300	瓦器	椀	SP49	②<1.10>③(7.90)	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A：砂粒多量含む B：良好 C：内面 黄灰2.5Y6/1 外面 灰白5YR8/2	
301	土製品	棒状 土製品	SP50	<長4.60>幅2.60厚2.10③32.50	磨滅の為調整不明	A：砂粒少量含む B：やや不良 C：内外共 浅黄橙10YR8/3	
302	土師器	小皿	SP51	②<0.60>③(7.00)	外面 ナデ 内面 磨滅の為調整不明	A：精良 B：良好 C：内外共 橙7.5YR7/6	
303	瓦器	椀	SP53	②<1.00>④(7.00)	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白5Y8/1	
304	瓦器	椀	SP53	②<0.90>④(7.00)	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白5Y8/1	
305	土師器	杯	SP55	②<0.80>③(9.00)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰黄褐10YR5/2	
306	土師器	杯	SP55	②<1.25>③(12.00)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 浅黄橙10YR8/4	
307	瓦器	椀	SP55	①(15.00)②<3.10>	外面 ミガキ 内面 工具痕、ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰N4/～灰白7.5Y8/1	
308	須恵器	杯	SP56	①(12.60)②3.30③(7.30)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデか？ 内面 回転ナデ、ナデか？	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白7.5Y7/1～灰N6/	
309	土師器	小皿	SP63	②<0.70>③9.40	外面 磨滅の為調整不明 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 橙5YR7/6	
310	瓦器	椀	SP63	②(2.30)④(6.60)	外面 型押し、ミガキ、貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白N7.5Y4/1	
311	瓦器	椀	SP64	②<0.90>④(9.00)	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A：砂粒多量含む B：良好 C：内面 灰N5/ 外面 灰N4/	
312	瓦器	椀	SP64	②<2.30>④(7.40)	外面 ナデ、ミガキ、貼り付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白2.5Y8/1	
313	瓦器	椀	SP66	①(17.90)②<4.50>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A：精良 B：良好 C：内面 黒褐2.5Y3/1 外面 にぶい黄橙10YR6/3	
314	須恵器	杯身	SP68	②<1.30>	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白N7/	
315	須恵器	杯蓋	SP67	②<1.02>つまみ径3.00	外面 ヘラケズリ、ナデ 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰N6/1	歪みあり
316	須恵器	杯身	SP67	②<1.15>④(8.60)	外面 ナデ、貼り付け高台、回転ナデ 内面 ナデ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰5Y6/1	屈曲あり
317	瓦器	椀	SP73	②<3.30>④(6.80)	外面 型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A：精良 B：良好 C：内外共 灰白7.5Y8/1	

出土遺物観察表⑩

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調			備考
318	須恵器	杯蓋	SP75	①(17.00)②(0.75)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N6/			
319	瓦器	椀	SP76	①(16.00)②(5.00)④(6.90)	外面 横ナデ、ミガキ、糸切り、貼り付 け高台、ナデ 内面 横ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白5Y8/1 外面 灰白7.5Y8/2			
320	須恵器	杯	SP89	②(1.60)③(9.00)	外面 ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面 横ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰 N6/1			
321	須恵器	杯身	SP89	②(1.20)④(8.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白 N7.5Y8/1			
322	土師器	小皿	SP89	①(8.80)②0.75③(6.20)	外面 横ナデ、糸切り 内面 横ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 浅黄橙7.5YR8/6			
323	土師器	杯	SP89	①(12.00)②(3.00)	外面 ミガキ 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙5YR6/6			
324	土師器	椀	SP89	②(2.50)④(7.80)	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外面 橙5YR8/6			
325	土師質	甕	SP89	①(22.60)②(9.10)	外面 磨滅の為調整不明 内面 ナデ、ヘラケズリ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 浅黄橙7.5YR8/6			
326	須恵器	甕	SP100	②(5.70)	外面 タタキ、工具痕か? 内面 タタキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 褐灰10YR6/1 外面 におい黄橙10YR5/4			
327	須恵器	杯蓋	SP109	②(1.20)	外面 小破片の為不明 内面 小破片の為不明	A: 小破片の為不明 B: 小破片の為不明 C: 内外共 灰白5Y7/1			
328	瓦器	椀	SP116	②(2.50)④(7.70)	外面 ナデ、ミガキ、横ナデ 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y7/1			
329	土師器	小皿	SP122	②(1.00)③(5.60)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 におい黄橙10YR7/4 外面 におい黄橙10YR7/3			
330	土師器	杯	SP122	②(2.60)③(8.80)	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A: 金色の雲母多量含む B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6			
331	瓦器	椀	SP123	①(13.90)②(3.30)	外面 ミガキ 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10YR7/1		内面付着物	
332	瓦器	椀	SP123	①(15.90)②(4.70)	外面 ナデ、ミガキ、型押し 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰 N4/1 外面 灰 N5/1		外面降灰	
333	瓦器	椀	SP123	①(16.80)②(3.70)	外面 ミガキ、型押し、糸切り、指頭圧痕 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 黄灰2.5Y6/1			
334	瓦器	椀	SP123	①(15.60)②(4.80)	外面 ミガキ、指頭圧痕、型押し 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 黒褐10YR3/1 外面 黒褐2.5Y1/3			
335	瓦器	椀	SP123	①(17.00)②(4.80)	外面 型押し 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白2.5Y8/2 外面 灰黄2.5Y7/2			
336	瓦器	椀	SP123	①(17.00)②(3.40)	外面 磨滅の為調整不明 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰 N6/1 外面 灰白 N8/1		内面付着物	
337	瓦器	椀	SP123	①(17.80)②(3.15)	外面 ミガキ 内面 ミガキ、工具ナデか?	A: 精良 B: 良好 C: 内外面 灰白10Y8/1			
338	瓦器	椀	SP123	②(1.65)④(7.20)	外面 貼り付け高台 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 黄灰2.5Y4/1 外面 灰白10Y8/1			
339	瓦器	椀	SP123	②(1.70)	外面 ミガキ、貼り付け高台、ナデ 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10YR8/2			
340	瓦器	椀	SP123	②(2.60)	外面 型押し、貼り付け高台、板状圧痕 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y8/2			
341	瓦器	椀	SP123	②(3.10)④(6.60)	外面 型押しか?、貼り付け高台、ナデ 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外面 褐灰10YR5/1			
342	瓦器	椀	SP123	②(3.30)	外面 ナデ、ミガキ、糸切り 内面 ナデ、ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰黄2.5Y7/2			
343	瓦器	小皿	SP123	②(1.00)	外面 横ナデ、糸切り、板状圧痕 内面 横ナデ、不定方向ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰7.5Y6/1		歪みあり	
344	土製品	棒状 土製品	SP125	<長12.20>幅6.00厚4.80⑤472.20	磨滅の為調整不明	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰5Y6/1			
345	須恵器	杯蓋	SP128	①(13.20)②(0.85)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰 N5/~ 灰白 N8/		外面降灰	
346	瓦器	椀	SP129	②(1.50)④(7.60)	外面 横ナデ 内面 ミガキ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y7/1			
347	土師器	小皿	SP126	②(1.00)	外面 糸切りか? 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 暗灰黄2.5Y5/2 外面 灰黄2.5Y6/2			
348	土師器	小皿	SP126	②(1.80)	外面 糸切りか? 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 淡黄2.5Y8/3 外面 灰白2.5Y8/2			
349	土師器	小皿	SP126	②(0.90)	外面 糸切り 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰黄2.5Y7/2			
350	土師器	小皿	SP126	②(0.90)	外面 糸切り 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 浅黄橙10YR8/3			
351	須恵器	杯蓋	SP133	①(13.00)②1.20	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白5Y7/1			
352	土師器	甕	SP133	②(2.30)	外面 ナデ 内面 ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 橙7.5YR7/6		外面スス付着	
353	須恵器	甕	SP133	②(5.50)	外面 回転ナデ、波状文 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 明褐灰5YR7/1 外面 灰 N4/		内面降灰	

出土遺物観察表⑩

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
354	土師器	杯	SP135	②<1.50>③<14.00>	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 灰N6/ 外面 灰白7.5Y7/1	
355	瓦器	小皿	SP135	①<8.00>②<1.50>	外面 横ナデ 内面 横ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 灰N6/ 外面 灰白7.5Y7/1	
356	須恵器	杯蓋	SP147	②<1.00>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N4/1	
357	須恵器	高杯	SP147	①<15.00>②<0.90>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N4/1	
358	須恵器	杯身	SP157	②<1.50>	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ、貼り 付け高台 内面 回転ナデ	A:2mm 程の隙含む B:良好 C:内面 オリーブ灰5GY6/1 外面 灰オリーブ5Y6/2	
359	土師器	小皿	SP157	①<7.80>②<0.90>	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい黄橙10YR7/2	
360	土師器	小皿	SP159	①<7.60>②<0.80>③<6.50>	外面 回転ナデ、糸切り 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 にぶい黄橙10YR7/3	内外面付着物
361	土師器	小皿	SP159	①<7.50>②<1.10>③<5.70>	外面 回転ナデ、荒いナデ、糸切りか? 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい黄橙10YR7/3	
362	土師器	小皿	SP159	①<7.20>②<0.90>③<6.30>	外面 回転ナデ、糸切り後粗いナデ 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 にぶい黄橙10YR7/3	
363	瓦器	椀	SP162	②<1.00>④<7.40>	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y8/1	
364	瓦器	椀	SP162	②<2.50>④<7.10>	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N7/	
365	瓦器	椀	SP164	②<3.20>④<6.40>	外面 ミガキ、型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/	
366	須恵器	杯身	SP184	②<1.10>④<6.50>	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/	
367	弥生土器	甕	SP185	②<1.70>	外面 ナデ 内面 ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内面 灰黄褐10YR6/2 外面 にぶい黄橙10YR6/4	
368	瓦器	椀	SP188	①<16.40>②<5.90>④<7.10>	外面 回転ナデ、ミガキ、貼り付け高台、 糸切り 内面 回転ナデ、ミガキ	A:精良 B:良好 C:内面 灰N5/ 外面 灰白10Y8/1 一部 灰N4/	
369	土師器	杯	SP189	②<0.90>③<10.10>	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 浅黄橙10YR8/3	
370	瓦器	椀	SP190	②<3.00>④<7.00>	外面 型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白2.5Y8/1	
371	須恵器	杯蓋	SP191	①<14.00>②<0.95>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N6/	
372	須恵器	皿	SP197	①<16.00>②<2.00>	外面 回転ナデ、ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N7/	
373	須恵器	杯蓋	SP207	①<13.00>②<1.40>	外面 ナデ 内面 ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N6/	
374	瓦器	椀	SP230	②<1.70>④<6.00>	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y7/1	内面若干黒色化
375	土製品	棒状 土製品	SP231	長<10.10>幅<4.60>厚<4.00>⑤<244.30>	磨滅の為調整不明	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 淡黄2.5Y8/3	
376	石製品	スタンプ 状製品	SP237	長<5.20>幅<4.20>厚<2.60>⑤<40.00>	——	A:石材 滑石	滑石製石鏝の転用品
377	須恵器	杯身	SP243	②<2.10>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 灰N6/ 外面 灰N4/	
378	須恵器	杯身	SP243	②<4.00>④<9.20>	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 青灰5B7/1 外面 灰白7.5Y7/1	外面降灰
379	須恵器	甕	SP248	②<5.00>	外面 回転ナデ、波状文 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 灰白N7/ 外面 暗灰N3/	外面降灰
380	土師器	杯	SP253	①<14.80>②<2.35>③<10.00>	外面 横ナデ、糸切り、板状圧痕 内面 横ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N4/	
381	瓦器	椀	SP253	①<17.80>②<4.40>	外面 横ナデ、ミガキ、型押し 内面 横ナデ、ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/	
382	瓦器	椀	SP253	①<17.00>②<5.00>	外面 型押し 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y7/1	
383	土師器	杯	SP253	②<1.50>③<8.40>	外面 糸切り、板状圧痕 内面 横ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N4/	
384	瓦器	椀	SP265	①<18.00>②<3.10>	外面 磨滅の為調整不明 内面 磨滅の為調整不明	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 淡赤橙2.5YR7/4~灰白7.5Y8/1	
385	須恵器	杯身	SP281	②<2.90>受部径<12.00>	外面 ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少し含む B:良好 C:内面 暗灰N3/ 外面 灰N6/	外面降灰
386	須恵器	杯身	SP282	②<1.20>④<10.00>	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 青灰5B6/1	
387	須恵器	高杯	SP283	②<1.90>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y7/1	
388	青磁	椀	SP296	①<13.40>②<6.05>	外面 施釉 内面 施釉	A:精良 B:堅緻 C:内外共 オリーブ5Y6/8	龍泉窯系
389	黒色土器	椀	SP297	②<3.90>④<6.40>	外面 貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 暗灰N3/	
390	須恵器	杯蓋 遺物 包含層	SP297	①<11.80>②<0.90>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N7/	
391	須恵器	杯蓋 遺物 包含層	SP297	①<12.00>②<1.40>	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N6/	

出土遺物観察表⑫

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	備考
392	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(12.40)②(0.95)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白N7/	
393	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(13.20)②0.90	外面 回転ヘラケズリ後ナデか?、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N6/	
394	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(14.00)②(0.75)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 褐灰10YR5/1	
395	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(15.50)②(1.05)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白N7/	外面降灰、内面一部降灰
396	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(16.60)②(1.25)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N5/	
397	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(17.20)②(0.95)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰白N7/	
398	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(15.00)②(2.55)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰白7.5YR8/1 外面 灰白10YR8/1	
399	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(13.00) ②2.40 つまみ径(2.10)	外面 回転ヘラケズリ後ナデか?、回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白10YR7/1	
400	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(14.40) ②2.10 つまみ径2.70	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰白5Y7/1 外面 灰5Y6/1	焼き歪みあり
401	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	②(2.00) つまみ径3.10	外面 ナデ、回転ヘラケズリ 内面 ナデ、回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰5Y6/1 外面 灰5Y5/1	
402	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(15.80) ②1.90 つまみ径3.00	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内面 暗灰N3/ 外面 灰N5/	外面降灰著しい 焼き歪みあり
403	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(13.40)②(1.10)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N5/	
404	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(14.00)②2.30	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N6/	
405	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(14.00) ②(0.90)最大径(16.00)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N5/	
406	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(13.60)②1.60	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/	外面にヘラ記号あり 焼き歪みあり
407	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	①(13.40)②(2.70)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 暗青灰5B4/1	
408	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	②(0.90)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰5Y5/1	
409	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	②(0.80)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y7/1	
410	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	②(0.80)	外面 ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N6/	
411	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	②(0.85)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰N5/ 外面 灰N4/	
412	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	②(2.05)	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N4/	
413	須恵器	杯蓋	遺物 包含層	②(1.10)	外面 回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/	外面一部降灰
414	須恵器	杯身	遺物 包含層	①(13.20)②3.70~3.80③(8.40)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/	全体的にうすく降灰
415	須恵器	杯	遺物 包含層	①(12.40)②3.40	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデか? 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰N5/ 外面 灰N6/	
416	須恵器	杯	遺物 包含層	①(14.20)②4.20	外面 回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N6/	
417	須恵器	杯身	遺物 包含層	②(2.40)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 黄灰2.5Y6/1	
418	須恵器	杯身	遺物 包含層	②(2.40)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 赤灰2.5YR6/1 外面 褐灰5YR6/1	
419	須恵器	高杯	遺物 包含層	②(2.40)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N4/	
420	須恵器	高杯	遺物 包含層	②(0.85)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N6/	
421	須恵器	高杯	遺物 包含層	②(0.75)	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N5/	外面降灰
422	須恵器	杯身	遺物 包含層	①(10.00)②3.10④(6.70)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切 り後ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/	外面一部降灰
423	須恵器	杯身	遺物 包含層	①(12.80)②3.25④(8.80)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N6/	外面若干降灰 内面焼き膨れか?
424	須恵器	杯身	遺物 包含層	①(13.00)②4.10④(9.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切 り後ナデか? 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白N7/	
425	須恵器	杯身	遺物 包含層	①(12.30)②4.45④(8.00)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切 り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内面 灰N5/ 外面 暗灰N3/	内面若干降灰
426	須恵器	杯身	遺物 包含層	①(12.40)②3.20④(9.20)	外面 回転ナデ、ヘラケズリ、貼り付け 高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰N6/	
427	須恵器	杯身	遺物 包含層	①(13.70)②4.10④(8.50)	外面 横ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り 後ナデ 内面 横ナデ、ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰白2.5Y7/1	

出土遺物観察表⑬

遺物番号	種類	器種	出土地点	量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
428	須恵器	杯身	遺物包含層	①(12.80)②(4.05)④(8.80)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰N5/	
429	須恵器	杯身	遺物包含層	①(14.20)②5.65④(8.80)	外面 回転ナデ、沈線?、貼り付け高台、ヘラ切り後回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内面 灰N5/ 外面 暗灰N3/	内面うすく降灰 黒色の斑点状の付着物あり 外面自然釉付着により光沢あり
430	須恵器	杯身	遺物包含層	①(16.00)②5.10④(9.10)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰白2.5Y7/1	
431	須恵器	杯身	遺物包含層	①(17.00)②5.10④(9.40)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白2.5Y7/1	
432	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.50)④(9.20)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N6/	内外面に黒斑状の混入あり
433	須恵器	杯身	遺物包含層	②(2.80)④(9.00)	外面 回転ナデ、貼り付け高台	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰黄2.5Y6/2	
434	須恵器	杯身	遺物包含層	②(2.40)④(9.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N5/	
435	須恵器	杯身	遺物包含層	②(3.45)④(8.60)	外面 ナデ、ヘラケズリ?後ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y7/1	
436	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.50)④(9.60)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/1	底部は真ん中の方が凹むようになっている
437	須恵器	杯身	遺物包含層	②(2.50)④(9.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰5Y5/1	
438	須恵器	杯身	遺物包含層	②(2.75)④(8.60)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N6/	体部と底部の境に屈曲あり
439	須恵器	杯身	遺物包含層	②(3.10)④(10.20)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N5/	外面降灰
440	須恵器	杯身	遺物包含層	②(2.95)④(8.80)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N4/	
441	須恵器	杯身	遺物包含層	②(2.10)④(7.80)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 褐灰10YR6/1	
442	須恵器	杯身	遺物包含層	②(2.05)④(8.20)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白5Y7/1	
443	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.70)④(9.00)	外面 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N6/	
444	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.30)④(10.70)	外面 貼り付け高台、回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N4/1	
445	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.25)④10.50	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰5Y5/1	
446	須恵器	杯蓋	遺物包含層	②(1.30)④(10.00)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰5Y5/1	
447	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.95)④(8.20)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N8/	外面一部降灰
448	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.60)④(8.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N7/1	
449	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.40)④(10.00)	外面 貼り付け高台、回転ヘラケズリ or 回転ヘラ切り 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 灰白2.5Y7/1 外面 灰白2.5Y8/2	
450	須恵器	杯身	遺物包含層	②(3.20)④(8.80)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰N6/	
451	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.80)④(11.40)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後回転ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 黄灰2.5Y6/1	
452	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.60)④(12.50)	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/	
453	須恵器	杯身	遺物包含層	②(4.30)④(11.00)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 灰N6/1 外面 灰N5/1	外面底部~高台部若干降灰 杯部底部湾曲あり(歪みか?)
454	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.95)	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰5Y6/1	
455	須恵器	杯身	遺物包含層	②(1.40)	外面 貼り付け高台 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰5Y4/1	
456	須恵器	杯身か?	遺物包含層	①(11.20)②(5.30)	外面 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰10Y6/1	

出土遺物観察表⑭

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	備考
457	須恵器	皿	遺物包含層	①(13.00)②0.80	外面 回転ナデか? 回転ヘラ切り 内面 回転ナデか?	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 灰10Y6/1	
458	須恵器	甗	遺物包含層	②<6.30>最大径(18.00)	外面 回転ナデ、沈線、浅い突刺文、波状文 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内面 灰N6/ 外面 灰5Y6/1	穿孔らしきものはみられない
459	須恵器	壺	遺物包含層	①(12.00)②<1.95>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/	
460	須恵器	壺	遺物包含層	①(16.40)②<4.05>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N4/	内面若干降灰
461	須恵器	壺	遺物包含層	②<6.80>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰N6/ 外面 灰N4/	
462	須恵器	平瓶	遺物包含層	①(8.40)②<4.55>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、ヘラケズリか?	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/1	内面に指か何かで行ったような成形?の痕あり
463	須恵器	提瓶	遺物包含層	②<14.30>	外面 横方向のカキメ後刺突文、縦方向 カキメ後ナデ 内面 指ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内外共 灰白5Y7/1	
464	須恵器	高杯	遺物包含層	②<5.85>③10.60	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 黄灰2.5Y5/1 外面 黄灰2.5Y4/1	全体的に焼き歪みあり 脚部内面にも降灰及ぶ
465	須恵器	高坏	遺物包含層	②<7.75>	外面 カキメ、ナデ 内面 ナデ、ヘラケズリか?	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 黒10YR2/1	外面降灰
466	須恵器	高杯	遺物包含層	①(16.00)②<1.15>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 明褐灰7.5YR7/1	
467	須恵器	高杯	遺物包含層	①(14.60)②<3.70>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/1	
468	須恵器	高杯	遺物包含層	②<2.75>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰N5/ 外面 灰N4/	
469	須恵器	甗	遺物包含層	②<2.50>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 黒褐2.5Y3/1	内外面に若干降灰
470	須恵器	長頸壺	遺物包含層	②<6.75>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N4/	外面降灰
471	須恵器	長頸壺	遺物包含層	②<7.65>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N5/	外面一部降灰
472	須恵器	器台脚部	遺物包含層	②<13.00>最大径(14.10)	外面 穿孔、カキメ、カキメ後タタキ、 波状文 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 内面 灰N4/ 外面 暗灰N3/	外面降灰、長方形の透かしが施されているが大きさは不明、3~4孔か?
473	須恵器	甗	遺物包含層	①(15.40)②<2.85>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N6/	
474	須恵器	甗	遺物包含層	①(17.60)②<3.15>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 黄灰2.5Y5/1	
475	須恵器	甗	遺物包含層	①(18.00)②<4.30>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 明青灰5PB7/1	
476	須恵器	甗	遺物包含層	①(22.20)②<5.30>	外面 回転ナデ、波状文、面取り 内面 回転ナデ、波状文	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: —	
477	須恵器	甗	遺物包含層	①(13.50)②<7.25>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 灰N4/1	内面に甗片?付着 口縁端部内面降灰
478	須恵器	甗	遺物包含層	①(20.60)②<8.30>	外面 回転ナデ、格子目状タタキ後ナデか? 内面 回転ナデ、波状文タタキ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内面 青灰5B5/1 外面 灰白N7/1	内面一部降灰、外面降灰
479	須恵器	甗	遺物包含層	②<3.00>	外面 回転ナデ、波状文 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 明赤灰10R7/1 外面 灰N4/1	内面降灰
480	須恵器	鉢	遺物包含層	②<9.55>	外面 ナデ、回転ナデ 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰5Y5/1 外面 暗灰N3/	内外面降灰
481	須恵器	甗	遺物包含層	②<4.00>	外面 回転ナデ、波状文 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 暗褐灰5YR7/1 外面 灰N4/	外面降灰
482	須恵器	甗	遺物包含層	②<8.30>	外面 回転ナデ、波状文、沈線 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰N5/ 外面 灰白N7/	内外面降灰
483	須恵器	甗	遺物包含層	②<4.60>	外面 回転ナデ、波状文、沈線 内面 回転ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰7.5Y5/1 外面 灰N4/	内面降灰
484	須恵器	甗の口縁の織着	遺物包含層	②<4.90>	外面 ナデ 内面 ナデ	A: 精良 B: 良好 C: 表 灰白5Y7/1 裏 青灰5PB5/1	窯跡が近くにある可能性あり
485	土師器	杯身	遺物包含層	②<2.45>④<7.60>	外面 ナデか?、貼り付け高台 内面 ナデか?	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰白5Y7/1 外面 灰黄2.5Y7/2	
486	土師器	杯身	遺物包含層	②<2.50>④<9.80>	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 磨滅の為調整不明	A: 精良 B: 良好 C: 内面 橙5Y6/6 外面 におい黄橙10YR7/3	
487	土師器	杯身	遺物包含層	②<1.95>④<11.80>	外面 ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後 内面 ナデか? ナデか?	A: 精良 B: 良好 C: 内外共 橙5YR6/6	
488	土師器	不明	遺物包含層	②<3.80>	外面 ナデ 内面 ナデ	A: 砂粒少量含む B: 良好 C: 内面 灰白7.5YR8/2 におい橙7.5YR7/4	
489	土師器	甗	遺物包含層	①(15.90)②<3.10>	外面 ナデ 内面 ナデ	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内外共 浅黄橙7.5YR8/4	
490	土師器	甗	遺物包含層	②<8.40>	外面 横ナデ 内面 横ナデ、ヘラケズリか?	A: 砂粒多量含む B: 良好 C: 内面 におい黄橙10YR7/3 橙7.5YR7/6	

出土遺物観察表⑮

遺物番号	種類	器種	出土地点	分量 (cm・g)	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>			
491	土師器	甕	遺物 包含層	②<3.15>	外面 ナデか? 内面 ナデか?	A:砂粒多量含む B:良好 C:内面 にぶい橙7.5YR7/3 外面 橙7.5YR7/6	
492	土師器	甕	遺物 包含層	②<2.00>	外面 横ナデ 内面 ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内面 明褐灰7.5YR7/2 橙7.5YR7/6	
493	土師器	把手	遺物 包含層	<長7.70><幅5.90>	外面 面取り 内面 磨減の為調整不明	A:砂粒少量含む B:良好 C:外面 橙5YR6/6	わずかに手づくね の痕がみとれる
494	瓦器	椀	遺物 包含層	②<0.65>③<5.40>	外面 ナデ、糸切り 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰黄2.5Y7/2	
495	瓦器	椀	遺物 包含層	①<16.00>②<2.00>	外面 ミガキ 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/1~灰白N7/1	
496	瓦器	椀	遺物 包含層	①<16.20>②<2.30>	外面 ミガキ 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N7/1	
497	瓦器	椀	遺物 包含層	①<17.40>②<2.50>	外面 ミガキ 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/1~灰白7.5Y7/1	
498	瓦器	椀	遺物 包含層	②<2.80>④<9.00>	外面 ナデ、貼り付け高台、ヘラ切り後 内面 ナデか? 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y8/1	
499	瓦器	椀	遺物 包含層	②<1.50>④<10.40>	外面 貼り付け高台、ヘラ切り後ナデか? 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y8/1	
500	瓦器	椀	遺物 包含層	②<2.85>④<8.60>	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 磨減の為調整不明	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N8/	
501	瓦器	椀	遺物 包含層	②<2.45>④<7.00>	外面 ナデ、貼り付け高台 内面 ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白7.5Y8/1	
502	青磁	皿	遺物 包含層	①<9.90>②<1.70>	外面 施釉、露胎 内面 施釉、露胎	A:精良 B:堅緻 C:内外共 灰白5Y7/2	
503	石製品	磨製 石斧	遺物 包含層	<長5.70>幅6.20<厚2.00>⑤95.30	——	A:安山岩	
504	瓦	丸瓦	遺物 包含層	<長15.50>幅6.30	外面 タタキ 内面 布目	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N6/	
505	須恵器	杯蓋	遺構 検出面	①<18.20>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 青灰5PB5/1	
506	須恵器	杯身	遺構 検出面	②<1.80>④<8.60>	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切 り後ナデ 内面 回転ナデ、ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 青灰5PB5/1	
507	須恵器	杯身	遺構 検出面	②<1.60>④<9.40>	外面 回転ナデ、貼り付け高台、ヘラ切 り後ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰N5/	
508	須恵器	杯身	遺構 検出面	②<2.70>④<10.00>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白N7/	
509	須恵器	壺	遺構 検出面	①<13.40>②<3.50>	外面 回転ナデ、カキメ、ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰白N7/	
510	須恵器	壺	遺構 検出面	①<18.40>②<6.55>	外面 回転ナデ、カキメ後ナデ、面取りか? 内面 回転ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内面 灰白N7/~灰N4/ 外面 灰白N7/	内面一部降灰
511	須恵器	甕	遺構 検出面	①<40.00>②<4.60>	外面 回転ナデ、波状文 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内面 灰N6/ 外面 暗灰N3/	外面降灰
512	瓦器	椀	遺構 検出面	②<2.05>④<8.60>	外面 ナデか?、貼り付け高台、ヘラ切 り後ナデ、板状圧痕か? 内面 ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 灰白10Y7/1	
513	白磁	椀	遺構 検出面	②<2.40>④<7.00>	外面 ナデ、蛇の目高台、削り出し 内面 施釉	A:精良 B:堅緻 C:内面 灰白10Y7/1 外面 灰白7.5Y8/1	
514	青磁	椀	遺構 検出面	②<2.25>④<5.40>	外面 施釉、削り出し高台 内面 施釉	A:砂粒少量含む B:堅緻 C:内外共 オリーブ5Y6/8	龍泉窯系
515	陶器	甕	遺構 検出面	②<1.80>	外面 ナデ 内面 ナデ	A:砂粒多量含む B:良好 C:内外共 にぶい赤褐2.5YR4/4~ 暗赤褐2.5YR3/2	口縁部外面降灰
516	石製品	石鍋	遺構 検出面	②<6.20>	外面 ケズリ、研磨 内面 研磨	A:石材 滑石 C:内外共 灰白7.5Y8/1~灰N4/	外面胴部・内面胴部以下 黒色を呈す、外面胴部 ノミの痕(ケズリか?)あり
517	須恵器	杯身	遺構 検出面	②<1.70>④<7.60>	外面 回転ナデ、貼り付け高台 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N5/	
518	青磁	椀	試掘 トレンチ	①<16.40>②<4.00>	外面 櫛目文、施釉 内面 施釉	A:精良 B:堅緻 C:内外共 オリーブ灰10Y6/2	同安窯系 外面にタテの櫛目 文施す 内面の文様小片の 為わかりにくい
519	須恵器	高杯	調査区内 トレンチ	②<1.85>③<12.00>	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	A:砂粒少量含む B:良好 C:内外共 灰N6/~灰N5/	脚裾部一部降灰
520	瓦器	椀	調査区内 トレンチ	②<1.00>④<6.00>	外面 貼り付け高台 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白10Y8/1	
521	瓦器	椀	調査区内 トレンチ	②<2.05>④<8.40>	外面 ミガキ、型押し、貼り付け高台 内面 ミガキ	A:精良 B:良好 C:内外共 灰白10Y8/1	
522	石製品	石鍋	調査区内 トレンチ	①<27.30>②<9.80>	外面 ケズリ、ケズリ後研磨 内面 研磨	A:石材 滑石 C:内外共 暗灰N3/	胴部外面スス付着、 口縁内部にノミの 痕残る
523	青磁	皿	表採	①<9.60>②<2.70>	外面 施釉、一条の沈線 内面 施釉	A:精良 B:堅緻 C:内外共 灰オリーブ7.5Y6/2	

出土遺物観察表⑩

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径 (cm) ⑤重さ (g) *(復元値) <残存値>	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	備考
524	磁器	椀	表採	②<3.85>④<5.60>	外面 施釉 内面 施釉	A: 精良 B: 堅緻 C: 透明釉	内面底部に「寿」 の銘あり 内外面に1条の圈 線が各々巡る
525	石製品	石鎌	SK02	<長1.60><幅1.70>厚0.40	——		
526	石製品	石鎌	SK02		——		
527	石製品	石鎌	SX37	長2.80幅2.10厚0.60	——		
528	石製品	石鎌	SX51	<長2.20>幅1.50厚0.40	——		
529	石製品	石鎌	SP212	長2.30幅1.60厚0.40	——		
530	石製品	石斧	SX50	長14.80幅5.70厚2.20	——		
531	石製品	石斧	遺物 包含層	<長5.60>幅6.10<厚2.20>	——		
532	石製品	スクレ イバー?	遺物 包含層	長7.60幅3.30厚1.50	——		
533	石製品	スクレ イバー?	遺構 検出面	<長4.20><幅2.90>厚0.90	——		

IV. まとめ

1. 第2次調査地における各時代の様相

弥生時代以前 若干の石器が出土しているが、第2次調査地点においては、この時期の明確な遺構は確認されなかった。

古墳時代 この時期の遺構としては6号竪穴状遺構が6世紀末から7世紀初頭に当たるものと考えられる。このため、第2次調査地点では古墳時代後期に集落が営まれ始めたものと思われる。

奈良・平安時代 6号竪穴状遺構に続く遺構としては、SK05（8世紀中頃から後半）、7号竪穴状遺構（8世紀後半）などがある。古墳時代に発生した集落が、小規模ながらこの時代まで存続していたことがわかる。

鎌倉時代以降 第2次調査地点では、9・10世紀に属する遺構は確認されなかった。集落の存続が一時断絶したものと思われる。12世紀代になると再び集落が営まれ始める。SK01～04、土坑墓、1号竪穴状遺構、土坑墓、SD02等がこの時期に当たり、遺構の数、遺物の量ともに第2次調査地点における集落の最盛期を示している。この集落は13世紀にも存続し、遺構としては2・4号竪穴状遺構等が相当する。

2. 他の調査地と関連

薬師の森遺跡では、これまでに40次を超える発掘調査が実施されており、旧石器時代から近世まで遺物・遺構が確認されている。ここでは、それらの結果と第2次調査の結果を比較しながら、薬師の森遺跡の変遷について考えてみたい。

縄文時代 これまでの発掘調査では定住の痕跡は確認されていない。人間活動の痕跡としては、丘陵上に位置する第32次調査地が落とし穴状遺構を用いた狩猟活動の場、段丘上に位置する第21・24・25次調査地が石器製作用の場に比定されている。段丘上に位置する第2次調査地は狩猟場として不適當であり、また、石器製作地としても何らかの理由で選地されなかったものと思われる。

弥生時代 これまでの発掘調査で確認された当該期の遺構・遺物はいずれも小規模・単発的なものであり、集落や墳墓群の形成は認められない。

この時代には、福岡平野全体で遺跡数が増加し、とりわけ沖積地内に形成された台地や微高地上には、板付遺跡や須玖岡本遺跡群のような集落と墳墓群を備えた拠点集落が展開するようになる。大野城市内でも、御笠川東岸には御陵前ノ椽遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、ヒケシマ遺跡等の集落及び墳墓群が前期から連続して存在するものの、薬師の森遺跡では集落や墳墓群は確認されていない。このような差異が生じた主な原因は、森園遺跡等の遺跡が沖積地もしくはその中の台地・微高地に位置するのに対し、薬師の森遺跡が乙金山・四王寺山から派生する丘陵あるいは河岸段丘上に位置するという立地の違いにあるものと考えられる。

しかし、小数ながら当該期の遺構・遺物が確認されていることから、何らかの土地利用が行われていたことは間違いなく、今後もその状況の把握に努めていきたい。

古墳時代 古墳時代後期（ⅢB期）になると小規模な集落が出現し、その後（ⅣA期）には薬師の森遺跡で大規模集落が営まれたことが分かっている。第2次調査地で確認された6号竪穴状遺構もこの時期に相当し、これまでの調査結果と矛盾しない。ただし、当該期の遺構が集中するのは第2次調査地部よりも標高の高い場所であり、本調査地における遺構密度の低さから、本次調査地は集落の西の縁辺部に当たる可能性が考えられる。

奈良時代以降 本次調査地の最盛期は12・13世紀代であり、遺構・遺物ともそれ以前に比べて激増する。この状況は、他の調査地でも同様であり、この時期に乙金山・四王寺山西麓で大規模な土地利用が行われたことが分かる。本次調査地では14世紀以降の明確な遺構・遺物は確認されておらず、周辺の調査の結果とあわせて、14世紀以降の集落は本次調査地部より標高の高い場所で営まれたことが分かっている。

参考文献

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第90集 | 2009年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第92集 | 2010年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅲ』大野城市文化財調査報告書第98集 | 2011年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅴ』大野城市文化財調査報告書第102集 | 2012年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅵ』大野城市文化財調査報告書第106集 | 2013年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅷ』大野城市文化財調査報告書第112集 | 2013年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅹ』大野城市文化財調査報告書第115集 | 2014年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅺ』大野城市文化財調査報告書第120集 | 2014年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群Ⅼ』大野城市文化財調査報告書第131集 | 2015年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群ⅱ』大野城市文化財調査報告書第145集 | 2017年 |
| 大野城市教育委員会『乙金地区遺跡群ⅲ』大野城市文化財調査報告書第156集 | 2017年 |

圖 版



(1) 調査区中央部 (北から)



(2) 調査区南西部 (北から)



(3) 調査区南東部 (北から)



(1) 調査区中央部 (南から)



(2) 調査区北西部 (南から)



(1) 1号竖穴状遺構遺物出土狀況



(2) 1号竖穴状遺構完掘狀況



(3) 2号竖穴状遺構遺物出土狀況



(1) 2号竖穴状遺構完掘狀況



(2) 3号竖穴状遺構完掘狀況



(3) 5号竖穴状遺構遺物出土狀況



(1) 5号竖穴状遺構完掘状況



(2) SD01・02 全景



(1) 暗渠①



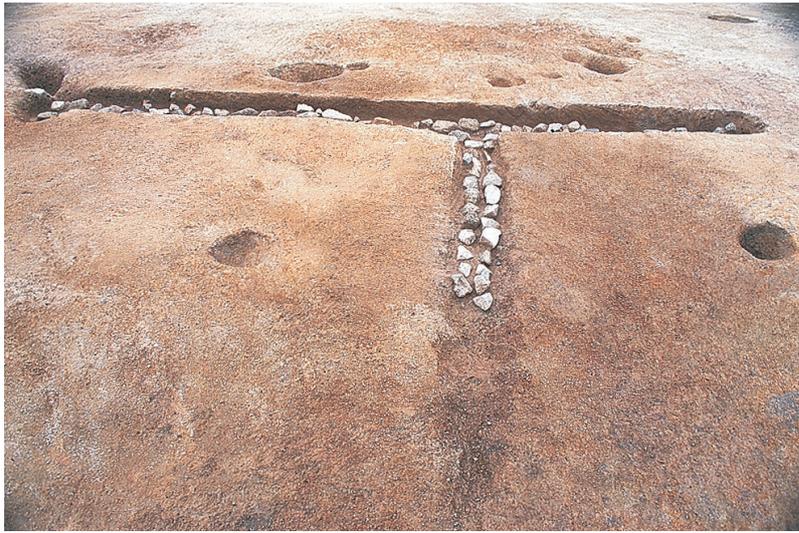
(2) 暗渠②



(3) 暗渠③



(4) 暗渠④



(1) 暗渠⑤



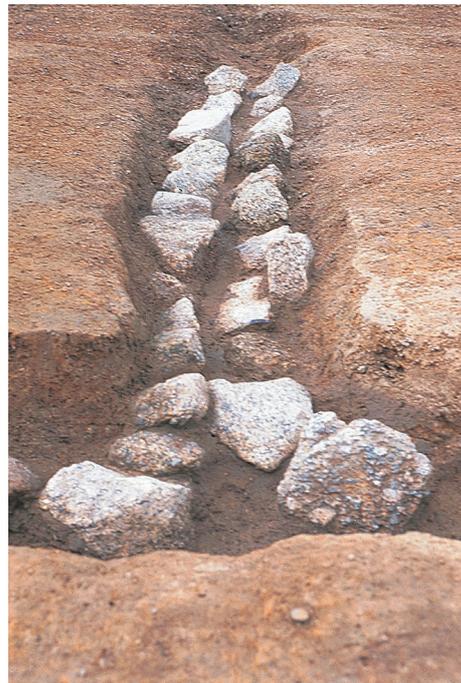
(2) 暗渠⑥



(4) 暗渠⑧



(3) 暗渠⑦



(5) 暗渠⑨



(1) 暗渠完掘①



(2) 暗渠完掘②



(3) 暗渠完掘③



(4) 暗渠完掘④



(1) 土坑墓遺物出土狀況



(2) 土坑墓完掘狀況



(3) SK01 遺物出土狀況



(1) SK01 東播系遺物出土状況



(2) SK01 完掘状況



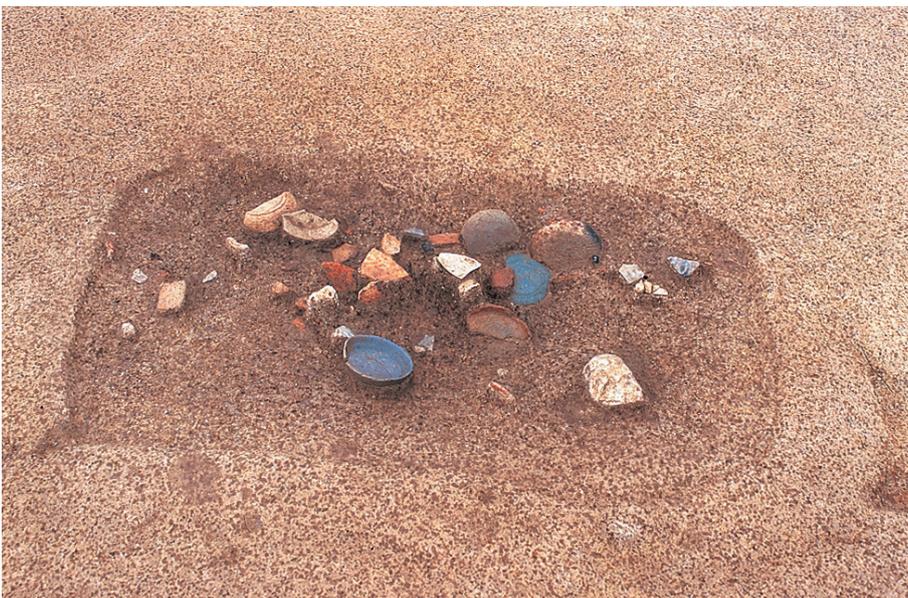
(3) SK03 遺物出土状況



(1) SK04 遺物出土狀況



(2) SK04 完掘狀況



(3) SK05 遺物出土狀況



(1) SX32 遺物出土状況①



(2) SX32 遺物出土状況②

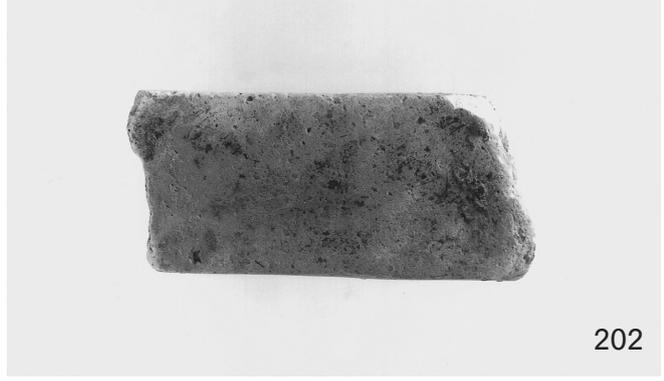
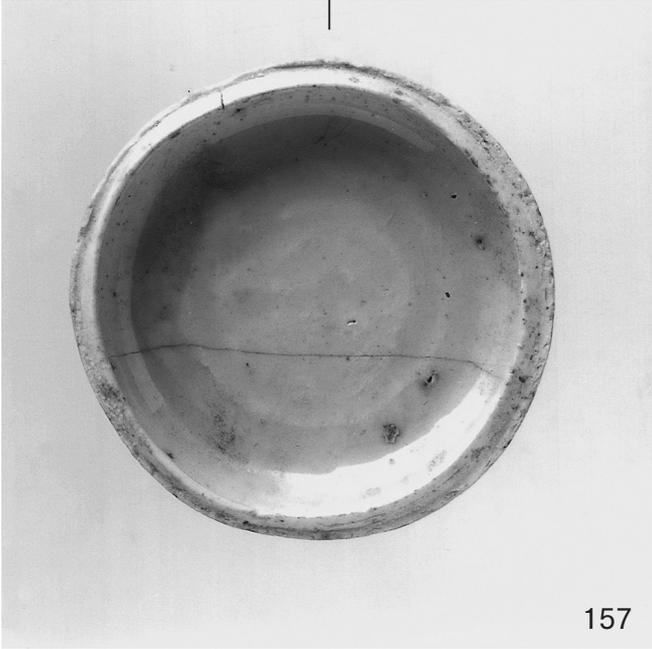
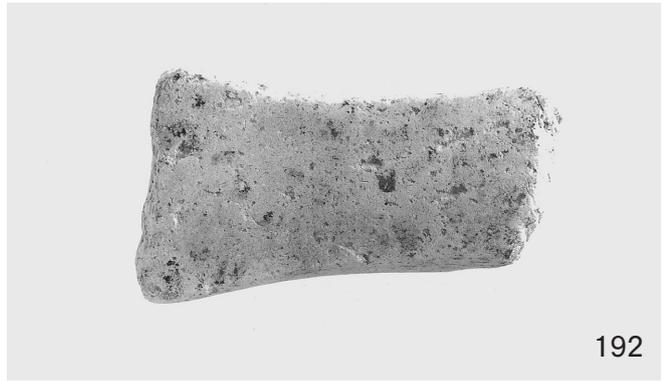


(3) SX32 遺物出土状況③









報告書抄録

ふりがな	やくしのもりいせき 5								
書名	薬師の森遺跡 5								
副書名	第2次調査								
巻次									
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書第189集								
編著者名	徳本洋一								
編集機関	大野城市教育委員会								
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話 092 (501) 2211								
発行年月日	2021年3月31日								
所収遺跡名	所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
薬師の森遺跡 第2次調査	福岡県大野城市乙 金三丁目441番5他		40219		33° 32' 43"	130° 29' 34"	19980416 ～ 19980708	1174㎡	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
薬師の森遺跡 第2次調査	集落遺跡 墓地	古墳・奈良 平安・鎌倉	竪穴住居跡 不整形土坑	土坑 土坑墓	須恵器・土師器 瓦器・青磁				
要約	薬師の森遺跡は、乙金山・四王寺山の西側山麓の丘陵・段丘上に位置する縄文時代から近世までの複合遺跡である。本次調査では、古墳時代後期の竪穴状遺構、12世紀から13世紀にかけての土坑、不整形土坑、12世紀半ばから後半に位置付けられる土坑墓などが確認された。								

大野城市文化財調査報告書 第189集

薬師の森遺跡 5

令和3年3月31日

発行 大野城市教育委員会
大野城市曙町二丁目2-1

印刷 城島印刷(株)
福岡市中央区白金二丁目9-6

